取扱説明書

モバイルPC

型名 MP-C101

お買い上げありがとうございます。

ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」(6〜12ページ)は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

Inter Link

Powered by
Microsoft®
Windows®CE
Handheld PC

HQINST-025D

この順序でご利用ください

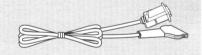
箱の中身を確認してください。

お使いになる前に、梱包箱の中に下記の物があるか、ご確認ください。
万一不備な点がありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●InterLink本体

●専用ACアダプター（AA-MP101）

●モジュラーケーブル（長さ2m）

●シリアルケーブル（長さ1.5m）

●取扱説明書(本書)

●アプリケーションCD-ROM

●デスクトップソフトウェア　for Microsoft® Windows® CE CD-ROM

●保証書

「安全上のご注意」「使用上のご注意」をご覧ください。

（→6～15ページ）

InterLinkの楽しい用途を知っていただくため、「InterLinkの楽しみ方」をご覧ください。 （→16～23ページ）

InterLinkの基本的な取り扱いと操作を知るために、
1章「取り扱いを覚えよう」、
2章「アプリケーションを楽しむ前に」を順にご覧ください。
（→25～38ページ、→39～63ページ）

3～5章は、やってみたいことが載っている章から、ご覧ください。
（→65～80ページ、→81～95ページ、→97～103ページ）

6章以降は、必要に応じてご覧ください。 （→105～166ページ）

■ 機種名やアプリケーション名などの正式名称

本書での表記	正式名称
InterLink	InterLink (MP-C101)
Windows CE	Microsoft® Windows® CE, Handheld PC Professional Edition, Version 3.0 日本語版
Windows CEサービス	Microsoft® Windows® CEサービス Version 2.21
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating System
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
Pocket Excel	Microsoft® Pocket Excel
Pocket Word	Microsoft® Pocket Word
Pocket Internet Explorer	Microsoft® Pocket Internet Explorer
Pocket Access	Microsoft® Pocket Access
Pocket PowerPoint	Microsoft® Pocket PowerPoint®
Pocket Outlook	Microsoft® Pocket Outlook™

■ 登録商標について

目次

はじめに

基本

1章 取り扱いを覚えよう ～初めて電源を入れたら～

2章 アプリケーションを楽しむ前に

実践

3章 メールを楽しもう

4章 画像を楽しもう

実践

5章 音を楽しもう

拡張

6章 その他の便利な使い方

7章 他の機器と接続する

情報

8章 その他の情報

安全上のご注意

■絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

●この表示を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

●この表示を無視して、誤った取扱いをすると、傷害を負ったり物的損害が想定される内容を示しています。

絵表示の説明

△記号は、注意（警告を含む）をうながす内容があることをお知らせするものです。図の中や近くに具体的な「注意喚起」内容を示しています。

一般的注意

感電注意

指をはさまれないよう注意

⃠記号は、禁止の行為であることをお知らせするものです。図の中や近くに具体的な「禁止」内容を示しています。

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

ぬれ手禁止

風呂、シャワー室での使用禁止

●記号は、行為を強制したり指示する内容をお知らせするものです。図の中や近くに具体的な「指示」内容を示しています。

一般的指示

電源プラグをコンセントから抜け

万一、異常が起きたら

⚠警告 次のことをお守りください。

次のような異常が発生したときは、そのまま使用しないでください。
火災や感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするなどの異常のとき。
- 画面が映らない、音が出ないなどの故障のとき。
- 内部に水や物が入ってしまったとき。
- 落としたり、ケースが破損したとき。
- AC アダプターのケーブルが傷んだとき（芯線の露出、断線など）。

このようなときはすぐに本機の電源を切り、ACアダプターのプラグをコンセントから抜いてください。煙が出ているときは、止まったことを確かめてから、販売店に修理を依頼してください。お客様ご自身が修理することは危険です。絶対におやめください。

使用環境について

⚠警告 次のことをお守りください。

- 風呂場など水のある場所で使わないでください。本機の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。水などの入った容器（コップ、化粧品、薬品など）はこぼれたりしますので、本機の上に置かないでください。また、雨天、降雪中、海岸、水辺で使用するときはご注意ください。

設置・接続をされるとき

⚠警告 次のことをお守りください。

- 表示された電源電圧以外で使用しないでください。火災や感電の原因となります。

- ぬれた手でACアダプターやモジュラーケーブル、PCカード、コンパクトフラッシュカードなどの接続や抜き差しをしないでください。感電の原因となることがあります。

はじめに

お使いになるとき

⚠警告 次のことをお守りください。

・本機のケースを外したり、分解や改造をしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理は販売店に依頼してください。,

・航空機内や病院など、使用が制限または禁止されている場所では、本機の電源を切ってください。電子機器や医療機器に影響を与え、事故の原因となることがあります。

・運転中、本機を使用しないでください。本機を利用する場合は、車を安全な場所に停めてからお使いください。運転しながら本機を使用すると、片手運転や運転への注意力低下により、とっさのハンドル操作が難しくなるなど、事故を引き起こすような危険につながります。

・本機の開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災や感電の原因となります。特にお子さまのいるご家庭ではご注意ください。

・本機をお使いになるときは、健康のため1時間ごとに10～15分の休憩をとり、目や手を休めてください。使用中に体の一部に不快感を感じたときは、すぐに本機の使用をやめてください。万一、休憩しても不快感が取れないときは、医師の診察を受けてください。

・歩行中に本機を使用しないでください。交通事故などの原因になります。

・付属のCD-ROMは、CD-ROM対応プレーヤー以外では使用しないでください。大音量によって聴力に障害が生じたり、スピーカーが破損するおそれがあります。

単３形電池でお使いになるとき

本機では、単３形のニッケル水素蓄電池とアルカリ乾電池、リチウム乾電池のいずれかが使用できます。
ニッケル水素蓄電池を使用される場合は、充電器の取扱説明書をよく読んで、正しくお使いください。当社別売のニッケル水素蓄電池の容量は 1600mAh です。

⚠警告　次のことをお守りください。

・乾電池は、小さなお子さまの手の届かないところに置いてください。使用する際も小さなお子さまが使用機器から取り出さないように注意してください。

・乾電池は充電しないでください。

・使用後は、本機の電源を必ず切ってください。

・取り扱いを誤ると、乾電池が液もれしたり、発火、破裂する原因となります。乾電池が液もれして目に入ったときは、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。そのままにしておくと障害を起こすおそれがあります。

・乾電池が液もれし、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

・乾電池が液もれしたり、異臭、変色など今までと異なることに気づいたときは直ちに火気より遠ざけ使用しないでください。

・電池を使用するときは次のことをお守りください。液もれ、発火、破裂の原因となります。
  - ・プラス(+)とマイナス(−)の向きを機器の表示のとおりに正しく入れること。
  - ・指定以外の電池を使用しないこと。
  - ・種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて入れないこと。
  - ・端子をショートさせないこと。金属小物（鍵、アクセサリ、ネックレス）といっしょに持ち運んだり、保管しないこと。
  - ・水や火の中に投入したり、加熱しないこと。
  - ・直射日光の強いところや炎天下の車内、熱器具の周辺など、高温になる場所で使用、放置しないこと。
  - ・強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないこと。
  - ・分解、改造しないこと。

・使用済みの乾電池は、プラス(+)、マイナス(−)端子にテープ等を貼り付け、絶縁してください。

・使用済みの乾電池は一般のゴミといっしょに捨てずに、販売店にお持ちください。電池を分別収集している自治体では、その条例に基づいて廃棄してください。

はじめに

電源コード(ACアダプター)でお使いになるとき

⚠警告　次のことをお守りください。

・表示された電源電圧以外で使用しないでください。火災や感電の原因となります。

・専用のACアダプターをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となることがあります。

・ACアダプターのケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱しないでください。ケーブルが破損して、火災や感電の原因となります。

・ACアダプターのケーブルの上に重い物を乗せたり、ケーブルが本機や充電器の下敷きにならないようにしてください。ケーブルに傷がついて、火災や感電の原因となります。ケーブルを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重い物を乗せてしまうことがあります。

・ACアダプターやコンセントにほこりや金属が付着したまま使用しないでください。ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。半年に一度はプラグを抜いて乾いた布でふいてください。

・雷が鳴り出したら、ACアダプターに触れないでください。感電の原因となります。

通信機能をお使いになるとき

本機の内蔵モデムは、日本国内の一般公衆回線(NTTの引き込み線)で使用することを目的にして設計しています。通信機能(AVリンクメール、Pocket Internet Explorerなど)を使用するときは、次の点に注意してください。

⚠警告　次のことをお守りください。

・本機の内蔵モデム、内蔵PIAFS接続機能、内蔵デジタル携帯電話接続機能は、日本国内での使用を目的に設計されていますので、海外では使用できません。

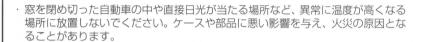
・本機の内蔵モデムを、ISDN対応公衆電話のデジタル側のジャックや、PBX(構内交換機)、家庭用キーテレホン、ビジネスホン、ホームテレホンに接続しないでください。通信できないだけでなく、故障や発熱、火災の原因となることがあります。

・落雷のおそれのあるときは、モジュラーケーブルや通信用ケーブルを本機から取り外してください。火災の原因となることがあります。

使用環境について

⚠注意 次のことをお守りください。

・次のような所には置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。
　・湿気やほこりの多い所
　・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気があたる所
　・熱器具の近くなど
　・窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たって温度が上がる所
　・窓際など水滴の発生しやすい所

・窓を閉め切った自動車の中や直接日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。ケースや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

設置・接続をされるとき

⚠注意 次のことをお守りください。

・ACアダプターのケーブル、モジュラーケーブルを熱器具に近づけないでください。ケーブルの被ふくが溶けて、火災や感電の原因となることがあります。

・ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

・他の機器と接続するときは、接続する機器の電源を切り、各々の取扱説明書に従ってください。また、指定以外のコードを使用したり延長したりすると、発熱し、火災ややけどの原因となることがあります。

お使いになるとき

⚠注意 次のことをお守りください。

・本機のふた（液晶画面）を閉じるとき、手を入れないでください。手をはさまれて、けがの原因となることがあります。特に小さいお子さまのいるご家庭では注意してください。

・万一、液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で15分以上洗浄してください。また、目に入った場合は流水で15分以上洗浄した後、医師に相談してください。

・使用しないときは、安全のため、ACアダプターをコンセントから抜いてください。

はじめに

電源コード(ACアダプター)でお使いになるとき

⚠注意 次のことをお守りください。

・ACアダプターは、コンセントの根本まで確実に差し込んでください。ショートや発熱により、火災や感電の原因となることがあります。

・ぬれた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

・ACアダプターはケーブルの部分を持って抜かないでください。ケーブルを引っ張ると傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。ACアダプターを持って外してください。

・移動させる場合は電源を切り、必ずACアダプターをコンセントから外し、外部の接続ケーブルなどをはずしたことを確認してください。ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

・旅行などで長時間ご使用にならないときは、安全のため、必ずACアダプターをコンセントから外してください。火災の原因となることがります。

・通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするため、布などにくるまないでください。毛足の長い敷物(じゅうたんや毛布など)の上に放置しないでください。

・通電中の本体やACアダプターに長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

・本体やACアダプターを布や布団などでおおった状態で使用しないでください。熱がこもって変形したり、火災の原因となることがあります。

使用上のご注意

■ 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
（社団法人日本電子工業振興会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

■この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって、正しい取り扱いをしてください。

■本機は使用誤り、故障、修理により、記憶内容が変化、消失する場合があります。重要な内容は必ずデータのバックアップを取っておいてください。付属の「デスクトップソフトウェア for Microsoft® Windows® CE CD-ROM」を使用してPCにバックアップしたり、市販のATAフラッシュメモリカードやコンパクトフラッシュメモリカードにコピーすることができます。
記憶内容の変化、消失については、弊社では一切その責任は負いませんのであらかじめご了承ください。

■戸外の光や照明が画面に反射しているところでは見にくくなります。場所を変えてご使用ください。

■本機や電池を廃棄するときは、各地方自治体の条例にしたがって処理してください。詳しくは、最寄りの地方自治体にお問い合わせください。

・下記の温度／湿度条件でご使用ください。この範囲外で使用すると、故障の原因となることがあります。
温度：5～35℃
湿度：35～80%（ただし、結露しないこと）

・振動のある場所や衝撃が加わる場所に置かないでください。故障の原因となることがあります。

・保管の際は、上に物を乗せたり、落下するおそれのある所を避けてください。また、ほこりや異物が入らないようにしてください。

・液晶ディスプレイ画面をスタイラス以外の先がとがったもので触れたり、硬いものでたたいたりしないでください。画面を傷つけることがあります。

・液晶ディスプレイやキーボードなどについた汚れは、乾いたきれいな布で軽く拭き取ってください。水や洗剤、薬品などを使用すると、変色や変形、故障の原因となります。

お客様へのお願い

弊社ハンドヘルドPC（以下「本製品」といいます）をご使用いただく前に、下記のソフトウェア使用許諾契約書（以下「本契約書」といいます）をよくお読みください。
このたびは、本製品をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
お客様が購入された本製品にプリインストールまたは添付されております日本ビクターオリジナルソフトウェア（以下「本ソフト」といいます）をご使用いただく前に本契約書をよくお読みください。本契約書にご同意いただけない場合には、本製品を未使用・本ソフトの記録媒体のパッケージを未開封のまま本製品をお求めになった販売店にご返却ください。
お客様が本製品を使用された場合、または本ソフトの記録媒体のパッケージを開封された場合には、本契約書のすべてにご同意いただいたものといたします。本契約書にご同意いただいた方のみ、本ソフトをご使用いただくことができます。

ソフトウェア使用許諾契約書

日本ビクター株式会社（以下「弊社」といいます）は、お客様に、本製品にプリインストールまたは添付されている本ソフトを使用する権利を下記の条件で許諾します。

1．著作権

本ソフトおよび本ソフトとともにお客様に提供されるマニュアルおよび取扱説明書等の関連資料（以下「関連資料」といいます）に関する著作権等の知的財産権は、弊社に帰属又は第三者から正当なライセンスを得たものであり、日本の著作権法その他関連して適用される法律等によって保護されています。

お客様は関連資料を複製することはできません。

2．権利の許諾

（1）お客様は、本契約の条項にしたがって本ソフトを日本国内で使用する、非独占的な権利を本契約に基づき取得します。
（2）お客様は、本ソフトを、本製品のみでご使用いただけます。
（3）お客様は、本ソフトのバックアップまたは保存の目的においてのみ本ソフトの全部または一部を一回に限り複製することができます。ただし、本ソフトの複製物を記録したCD－ROM等の媒体が本製品に添付されている場合には、お客様は、本ソフトを複製または上記以外の目的で使用することはできません。

3．制限事項

（1）お客様は、本ソフトのリバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルをすることはできません。
（2）お客様は、本契約書に明示的に許諾されている場合を除いて、本ソフトを使用、全部または一部を複製、改変等をすることはできません。
（3）お客様は、本ソフトを第三者に使用許諾、貸与またはリースすることはできません。

4．本ソフトの譲渡

お客様は、下記のすべての条件を満たした場合に限り、本契約に基づく使用権を第三者に譲渡することができます。

i）　お客様が本契約書、本ソフトを含む本製品、本ソフトのすべての複製物およびその記録媒体、ならびに関連資料を含む本製品のすべてを譲渡し、これらを一切保持しないこと、
ii）　譲受人が本契約に同意していること。

5．限定保証

（1）弊社は、本ソフトに関していかなる保証も行いません。したがって、本ソフトに関して発生するいかなる問題も、お客様の責任および費用負担により解決されるものとします。

（2）上記（1）にかかわらず、お客様が必要事項を記入した別添のユーザー登録／愛用者カードを弊社まで返送された場合において、最初にご購入されたお客様が本製品をご購入された後１年以内に、弊社が本ソフトの誤り（バグ）を修正した場合には、弊社はお客様に対して、修正されたソフトウェア、修正のためのソフトウェア（以下、これらのソフトウェアを「修正ソフト」といいます）、またはこのような修正に関する情報を提供いたします。ただし、修正ソフトまたはこのような修正に関する情報の提供の必要性、時期、方法等に関しては、すべて弊社の裁量により決定させていただきます。お客様に提供された修正ソフトも本ソフトとみなします。

（3）本ソフトの記録媒体に物理的欠陥（ただし、プログラムおよび／またはデータの読み出しが不可能な場合に限ります）があり、弊社が当該欠陥を自己の責によるものと認めた場合、最初にご購入されたお客様が本製品を購入された日から１４日以内に本製品の保証書を添えてお求めになった販売店に当該記録媒体を返却された場合には、弊社は無償で当該記録媒体を同等の記録媒体と交換するものとします。

本項の規定をもって本ソフトの記録媒体に関する弊社の保証のすべてといたします。

6．責任の制限

（1）弊社は、いかなる場合も、お客様の逸失利益、特別な事情から生じた損害（損害発生につき弊社が予見し、または予見し得た場合を含みます）および第三者からお客様になされた損害賠償等の請求による損害について、一切責任を負いません。

（2）いかなる場合においても、本契約に基づく弊社の責任はお客様が実際にお支払いになった本製品の代金のうち本ソフトの代金相当額をその上限とします。

7．契約期間

本契約は、お客様が本製品を最初に使用されたとき、または本ソフトの記録媒体のパッケージを開封されたときのいずれか早いときに発効し、下記8．により本契約が終了するまで有効であるものとします。

8．契約の終了

（1）弊社は、お客様が本契約のいずれかの条項に違反したときは、お客様に対し何らの通知・催告を行うことなく直ちに本契約を終了させることができます。その場合、弊社は、お客様によって被った損害をお客様に請求することができます。

（2）お客様は、本契約が終了したときは、直ちに本ソフトおよびそのすべての複製物ならびに関連資料を破棄するものとします。

9．その他

（1）お客様は、いかなる方法および目的によっても、本ソフトおよびその複製物を違法に日本国外に輸出してはなりません。

（2）本契約に関連または起因する紛争は、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所として解決するものとします。

日本ビクター株式会社ＡＶ＆マルチメディア事業本部

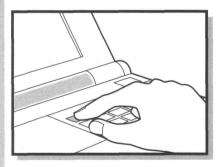
InterLink の楽しみ方

家にPCが欲しいけれど、持ち歩けるものも欲しい。そう思っていた古賀さんは、InterLinkを購入しました。

メールを楽しもう

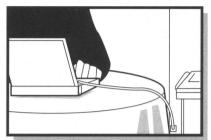
急に取引先へ出張することになった朝。
「始業前に会社に電話をしても、同僚の橋本さんはまだ出社してないだろうなー」
今日の予定は、メールで連絡することにしました。家を出る前に、InterLinkを使ってメールを送ります。

■メールを書く（AVリンクメール）

イチ押しキーの「Mail」を押して、「AVリンクメール」を起動します。橋本さんのメールアドレス、タイトルを入力し、メッセージを入力します。

今日は、急な打ち合わせのため、出張しています。
打ち合わせ中は電話に出られないので、何か連絡があればメールを送ってください。
なるべく、こまめにメールチェックするようにします。

■自宅の電話からメールを送る（AVリンクメール）

→68ページ

「書いてから接続しないと、電話代がもったいないもんな」
古賀さんは、自宅の電話回線を使ってメールを送るための準備をしています。
「モジュラーケーブルをここに差して、サーバメニューの[接続]だよな」
プロバイダのアクセスポイントに電話がかかります。
送信ボタンを付属のスタイラスで軽く触ります。これで、橋本さん宛のメールが送信できました。
電話代が気になる古賀さんは、サーバメニューの「接続を切る」を選び、電話回線を切断します。

■出張先に近いアクセスポイントを登録しておく（リモートネットワーク）

→71ページ

「出張するんだから、アクセスポイントを変えておかないと」
古賀さんは、出張先に近いアクセスポイントの電話番号の登録を始めました。
「スタートメニュー、プログラム、通信。それから、リモートネットワーク、新しい接続、と。ここでプロバイダの電話番号を登録すればいいんだな」

画像を楽しもう

■デジタルスチルカメラの画像でアルバムを作る（ピクチャーアルバム）

→82ページ

「打ち合わせも終わったことだし、おみやげは何がよいか聞いてみるか」
おみやげ屋さんに入った古賀さんはお店の人に断ってデジタルスチルカメラで写真を撮り、近くの喫茶店に入りました。
古賀さんのデジタルスチルカメラは、画像をコンパクトフラッシュカード* に保存するタイプです。
コンパクトフラッシュカードをデジタルスチルカメラから取り出し、InterLinkに入れ、イチ押しキーの「Album」を押して、「ピクチャーアルバム」を起動します。
ツリー表示でメモリカード内のフォルダを開くと、静止画像が表示されました。

*コンパクトフラッシュカードは別売です。（→129ページ）

■写真にいたずら書きをする（ピクチャーパレット）

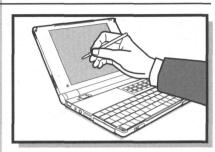
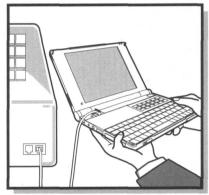
→86ページ

「おいしそうな順番を書き込んでおこう」
「ピクチャーアルバム」の静止画を選んで「パレットへ」ボタンをスタイラスでポンと触り、「ピクチャーパレット」を起動します。画面には、「ピクチャーアルバム」で見ていた静止画が表示されました。
「テキストボタンで、文字の入力と」
古賀さんは自分の食べたいもの順に静止画に「店長のおすすめ」「ナンバー2」「ナンバー3」とそれぞれ文字入力し、画面に貼り付けて保存しました。

■メールにファイルを添付して公衆電話から送る（AVリンクメール）

→72ページ

メールに画像を添付して送り、おみやげを選んでもらうつもりの古賀さん。
「ピクチャーパレット」を終了して、「ピクチャーアルバム」に戻ります。「ピクチャーアルバム」で3枚の静止画を選んで、「メールへ」ボタンをスタイラスでポンと触ります。
すると、新規のメールに、選んだ3枚の静止画を添付した状態になりました。
「まさに、至れり尽くせりだね」
そうつぶやきながら、橋本さんのメールアドレス、タイトル、メッセージを入力します。
「さて、送ろうか…。きっと容量が大きいだろうから、公衆電話から送ろう」
ISDN公衆電話は、すぐにみつかりました。モジュラーケーブルで公衆電話のアナログコネクタに接続し、送信します。登録しておいた出張先付近のアクセスポイントに電話がかかります。
容量の大きい画像データの場合、長時間の通信となるため、電話代が気になるところですが、携帯電話よりは公衆電話の方がお得です。古賀さんは、しっかり者ですね。

はじめに

■携帯電話でメールの送信と受信を一度に行う（AVリンクメール）

→74ページ

1時間ほど観光し、駅前の喫茶店で、取引先の担当者宛のメールを書き、送ることにしました。ついでに、橋本さんからのメールが届いてないかもチェックすることにしました。

「さて、メールを送信して、受信も一気にするか」

携帯電話用の通信ケーブル*でつなぎ、携帯電話の電源ONと「圏内」を確認します。

サーバメニューの「メール送受信」を選び、表示された接続先の一覧からアクセスポイントを選ぶだけで、電話回線の接続からメールの送信、受信、電話回線の切断まで自動的にできるので便利です。

「携帯電話でメールをチェックするのって、はじめてだな。やっぱりモバイルって便利だ」

メールリストを見ると、受信したメールの中には、ファイルが添付されているものもあります。

「ゆっくり見ているひまがないから、このメールはあとで見よう」

でも橋本さんからの返事だけは、すぐに読みます。

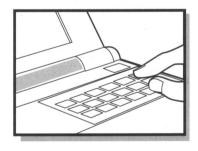
古賀さん、お疲れさまです。
みんなで相談した結果、おみやげは「店長のおすすめ」を買ってきてください。
でも、「店長のおすすめ」は古賀さんの食べたいものですよね。（^ _ ^）

橋本より

*PDC接続ケーブルは別売です。
（→160ページ）

■USBキャプチャーカメラで動画を録る（ビデオキャプチャー）

→89ページ

帰りの電車に乗り込んだ古賀さんは、まだInterLinkを手にしています。
外の景色は、田園風景から住宅街、そして水平線まで続く海と、目を楽しませてくれます。
「よし、この景色もおみやげにしよう」
USBキャプチャーカメラ*をUSBコネクタに取り付けて、窓の外の景色を撮る準備を始めます。
「イチ押しキーの「V-Cap」を押して、録画ボタンで撮影開始！」
撮影が終わると、「ビデオキャプチャー」の画面は編集モードに切り替わります。ここで、再生や一時停止、カット編集などして動画を完成させます。
「あれ？　何か音が入ってるぞ」
「ビデオキャプチャー」は、USBキャプチャーカメラと内蔵マイクで画像と音声を同時に録ってくれるアプリケーションです。景色を録りながら古賀さんがつぶやいた言葉「いい天気だぁ。会社に帰るの、やめよっかなぁ」が、しっかり録音されていたのでした。

USBキャプチャーカメラ

*USBキャプチャーカメラは別売です。
（→160ページ）

音を楽しもう

昼下がりの電車には、あまり人が乗っていません。ゆったりした空間の中で、古賀さんはInterLinkに没頭し、感激したり笑ったり、自分に言い聞かせてブツブツ言ったりと、にぎやかしくやっています。

■受信メールを読み、添付ファイルを開く → MIDI演奏を聴く（ソフトシンセプレーヤー）

→76、98ページ

「そういえば、さっき何か届いていたっけ」
受信メールリストから、さきほどの添付ファイルのあるメールを探します。
それは、バンド仲間からのメールでした。
「驚くなよって、何だろう。開いてみるか」
InterLinkにイヤホンマイク*（φ2.5）をつなぎ、添付ファイルを開いてみます。
すると、MIDIファイルが再生されて、音楽が流れてきました。大きな音にビックリ。
「ボリュームの調節をし忘れていたよ。失敗、失敗。でも、MIDIってこんなにいい音なんだ」
メールの添付ファイルを開くと、ファイルタイプに応じたPlug Inソフトが起動される、この機能にも満足した古賀さんです。

*イヤホンマイクは別売です。
（→160ページ）

■ポータブルMDレコーダーをつないで楽しむ(MDコントローラー)

→101ページ

しばらく仲間のオリジナル曲を聴いた古賀さんは、プロのアーティストの曲を聴いて耳直し(?)することにしました。
ポータブルMDレコーダーをInterLinkにつなぎます。これで、録音も再生も編集もInterLinkの画面を見ながら簡単にできます。
「やっぱり、この曲は2番目に持ってくるべきだよなー」
トラックの移動をしたり、トラックの結合/分割もお手の物。そして古賀さんは、トラックのタイトル入力を始めました。
「これをMDレコーダーでやるのは超めんどうなんだけど、キーボードがあればラクチンだ」
タイトル入力はすいすいとはかどり、完了。
「LABEL」ボタンをスタイラスでポンと触ります。
なんと、「ピクチャーパレット」にタイトルがずらり表示されました。これに、またまたいたずら書きをして、オリジナルのMDラベルができました。プリンタで印刷してみるのが楽しみですね。

InterLinkの楽しい使い方の一例を紹介しました。実際に楽しむための操作方法は、3~5章の該当ページをご覧ください。

1章

取り扱いを覚えよう

ー初めて電源を入れたらー

基本

各部のなまえ

パワーランプ
（→29、37ページ）
アラーム
通知ランプ
（→144ページ）
液晶ディスプレイ
開閉レバー
（→29ページ）
スタイラス
（→33ページ）
イチ押しキー
（→42ページ）
スタイラス
取り出しボタン
（→34ページ）
電源ボタン
（→29、37ページ）
PCカードスロット
（→128ページ）
PCカード取り出しボタン
（→128ページ）
赤外線通信ポート
（→119、124ページ）
リセットボタン
（→132ページ）
コンパクトフラッシュ
カードスロット
（→129ページ）
キーボード
（→35ページ）
スピーカー
（底面にあります）

液晶ディスプレイ開閉検出スイッチ
(→37ページ)
液晶ディスプレイ
開閉レバー
(→29ページ)
液晶ディスプレイ
(→36ページ)
電池キャップロック
スライダ
(→30ページ)
モジュラージャック
(→114ページ)
電池キャップ
(→30ページ)
USBコネクタ
(→118、121、126ページ)
REC(録音)ボタン
(→140ページ)
電源ジャック
(→29ページ)
マイク
(→140ページ)
COLD RESET (底面にあります)
(→132ページ)
イヤホンマイクジャック
(→98、140ページ)
PDC/PHSコネクタ
(→116ページ)
拡張コネクタ
(→120、122、123、125ページ)

電源を入れる

InterLinkは、AC電源、単３形電池(ニッケル水素蓄電池、アルカリ乾電池、リチウム乾電池のいずれか)で使うことができます。マンガン乾電池、ニカド蓄電池はコントロールパネルの「省電力」プロパティで対応していないため正確なバッテリー残量検出ができませんので、使用できません。

■AC電源

家庭や会社など、AC100Vコンセントがある場所では、InterLinkに付属の専用ACアダプター(6.5V用)をお使いください。

■単３形電池

AC100Vコンセントのない場所でInterLinkを使用するときは、あらかじめ充電した（InterLinkでは充電できません）単３形のニッケル水素蓄電池４個、または単３形アルカリ乾電池（またはリチウム乾電池）４個を入れてお使いください。電池寿命の目安は、下記を参考に予備電池を携帯することをおすすめします。

駆動時間＊

別売ニッケル水素蓄電池	非通信時（連続通信時）	約6.0時間（約2.5時間）
アルカリ乾電池	非通信時（連続通信時）	約3.0時間（約1.0時間）

＊駆動時間は省電力を有効にし、ディスプレイのバックライトを最も暗くした状態で、非通信時においてはPocket Wordで5分間キー入力、55分間無入力をくり返した場合のものです。通信時においては、デジタル携帯電話またはPHSデータ通信を使用し、Pocket Internet ExplorerでWebページを連続してアクセスした時の値です。また、ご使用の条件(ディスプレイのバックライトの明るさ、外部機器の使用、低い気温等)により使用時間がさらに短くなります。電池の性能はメーカーにより異なります。

注意

（内蔵バックアップ電池）

- **お買い上げ時は、内蔵バックアップ電池が放電している場合があります。専用ACアダプターを約10時間接続し充電してください。**
- **単３形電池を抜いて１日以上使用しない場合は、内蔵バックアップ電池が放電し、保存されているファイルやデータが消失するおそれがあります。放電を防ぐために、常時単３形電池４個を入れてお使いください。**

（ファイルやデータのバックアップ）

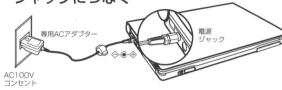
- **InterLinkのファイルやデータの消失を防ぐ方法として、定期的にPCとの「同期」をとり、情報更新をすること（→152ページ）や、PCカードまたはコンパクトフラッシュカードなどのメモリカードに保存すること（→127～130ページ）をおすすめします。**
- **InterLinkホームページ（裏表紙）からバックアップ用アプリケーションをダウンロードしてAVリンクメールの通信設定データをPCカードまたはコンパクトフラッシュカードなどのメモリカードに保存することをおすすめします。**

もっと教えて

●液晶ディスプレイを明るくしたり、通信をしたり、PCカードやコンパクトフラッシュカード、USB機器を使用すると、動作時間は短くなります。
●単３形電池をお使いの場合は、別売のニッケル水素蓄電池（1600mAh）のご使用をお勧めします。
　・ニッケル水素蓄電池はアルカリ乾電池に比べて動作時間が長くなります。
　・ニッケル水素蓄電池は充電式のため、繰り返し使用できます。
●ニッケル水素蓄電池は、InterLinkで充電することはできません。別売の専用の充電器で充電してからお使いください。

AC電源を使うとき

AC100Vのコンセントから電源をとるには、次のように接続します。

1 付属の専用ACアダプターをAC100Vコンセントに差し込み、InterLinkの電源ジャックにつなぐ

付属の専用ACアダプター(AA-MP101)以外は使わないでください。

2 液晶ディスプレイを開ける

両手で、液晶ディスプレイ開閉レバーを手前（矢印の方向）にずらしながら、液晶ディスプレイを開けます。

液晶ディスプレイは一定角度以上開かない構造になっています。ストッパーで止まったらそれ以上無理な力を入れないでください。

3 電源ボタンを押す

電源が入り、パワーランプが点灯します(緑色)。

しばらくすると、InterLinkが起動されます。

初めて電源を入れたときは、Windows CEセットアップ画面が表示されます。(→32ページ)

2度目以降はWindows CEデスクトップ画面が表示されます。(→40ページ)

単3形電池で使うとき

単3形のニッケル水素蓄電池またはアルカリ乾電池、リチウム乾電池から電源をとるには、次のようにします。また、電池キャップロックスライダは電池との接点にもなっています。必ず正しい位置にセットしてください。電源が入らなくなります。

1 電池キャップロックスライダをOPEN側にスライドさせた状態で、電池キャップレバーを起こして反時計回りに止まるまで回し、電池キャップを引き抜く

電池キャップを「反時計回りに止まるまで回す」とは、約25度回してアンロックの状態にすることです。電池キャップは、電池キャップロックスライダをOPEN側にスライドさせた状態で回してください。

2 電池を入れる

＋－の向きに注意して、単3形電池を4個入れます。

3 電池キャップロックスライダをOPEN側にスライドさせた状態で、電池キャップを取り付け、電池キャップレバーを持って時計回りに止まるまで回して、電池キャップレバーをたたむ

電池キャップを「時計回りに止まるまで回す」とは、アンロックの状態（手順1のイラスト）から約25度回してロックの状態にすることです。電池キャップは、電池キャップロックスライダをOPEN側にスライドさせた状態で回してください。

4 電池キャップロックスライダをOPEN側の逆向きにスライドさせる

もっと教えて

●電池交換はすみやかに行ってください。長時間電池が入っていない状態が続くと、通信設定データやファイル、インストールしたアプリケーションなどが消えることがあります。

取り扱いを覚えよう　～初めて電源を入れたら～

もっと教えて

●単３形のニッケル水素蓄電池は、InterLinkで充電することはできません。別売の専用充電器で充電してからお使いください。
●単3形電池のバッテリ残量がなくなり、電源ボタンを押しても電源が入らないとき、AC電源（専用ACアダプタ）を接続して電源ボタンを押しても、電源が入らない場合があります。このような場合は、すでに内蔵バックアップ電池の電圧が低下しており、メモリの内容を保持することができません。次のようにしてください。
1 AC電源（専用ACアダプタ）をはずし、新品の単3形電池に入れ替えます。
　コールドリセット（→132ページ）され、内蔵バックアップ電池の充電が始まります。
2 電源ボタンを押して、電源を入れます。
●単3形電池のバッテリ残量は、コントロールパネルの「パワーマネージメント」で確認し、お早めに取り替えてください。

警告

●電池からもれた液が目に入ったときは、こすらずにきれいな水で洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。そのままにしておくと障害を起こすおそれがあります。

注意

●電池について、下記をお守りください。
液もれ・発火・破裂の原因となります。
- プラスとマイナスの向きを表示のとおり、正しく入れてください。
- 指定以外の電池を使用しないでください。
- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて入れないでください。
- 端子をショートさせないでください。金属小物（鍵、アクセサリ、ネックレスなど）といっしょに持ち運んだり、保管したりしないでください。
- 水や火の中に投入したり、加熱しないでください。
- 直射日光の強いところや炎天下の車内、熱器具の周辺など、高温になる場所で使用、放置しないでください。
- 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。
- 分解しないでください。

セットアップ（初めて電源を入れたとき）

InterLinkの電源を初めて入れると、「ようこそ」の画面が表示されます。これからセットアップウィザードを使って、本機のセットアップをします。

1 スタイラスを取り出す

液晶パネル右側面のスタイラス取り出しボタンを押して、スタイラスを取り出します。(→34ページ)

2 画面に表示される内容を読み、スタイラスで画面をタップする

「タップ」とはマウスの「クリック」と同じ意味です。(→34ページ)
最初に「タッチスクリーンの補正」の画面が表示され、次に「入力パネル」の画面が表示されます。

3 画面右下の[次へ]をタップする

「世界時計」の画面が表示されます。

4 画面の一番下の行に表示される質問に従って、「都市」、「日付と時刻」、「オーナー情報」を入力する

「セットアップが完了しました」の画面が表示されます。この画面で表示されている『ハンドヘルドPCユーザーズガイド』とは、本書を示しています。

5 [終了]をタップする

これでセットアップは終了しました。Windows CEのデスクトップ画面が表示されます。(→40ページ)
また、電源を2度目以降に入れたときは、この画面が表示されます。

もっと教えて

●操作4の「都市」「日付と時刻」「オーナー情報」の設定は、そのままで[次へ]をタップするだけで次に進むことができます。変更が必要なときは、セットアップ終了後でも修正することができます。(→52ページ)

操作する

InterLinkを操作するには、スタイラス、USBマウス(別売)、キーボード、イチ押しキーのいずれかを使います。

■スタイラス

InterLinkの液晶ディスプレイに触れて操作するための付属ペンを「スタイラス」といいます。 スタイラスの先でディスプレイに触れたり、触れたまま、文字を書くようにディスプレイ上をなぞったりして、操作します。(→34ページ)
スタイラスの反応が正しくない場合は、再補正してください。(→52ページ)

■USBマウス

Windows 98などと同様に、USBマウス(別売)で操作することもできます。シリアルマウスは使えません。

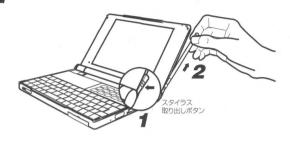
■キーボード、イチ押しキー

文字キーと特殊キーは、文字を入力するときや、ショートカットキーで操作するときなどに使います。
このほかに、アプリケーションを起動するための「イチ押しキー」があります。

- 文字入力の方法については「文字を入力する」をご覧ください。(→48ページ)
- 主な特殊キーの役割については「キーボードを使う」をご覧ください。(→35ページ)
- イチ押しキーの使い方については「イチ押しキーで起動する」をご覧ください。(→42ページ)

スタイラスを使う

■スタイラスを取り出す

1 スタイラス取り出しボタンを押す

スタイラスが少し飛び出します。

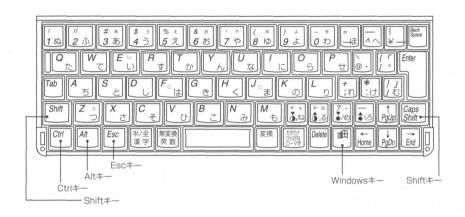
2 スタイラスを取り出す

■スタイラスの操作

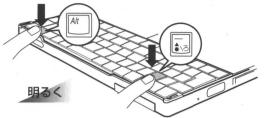
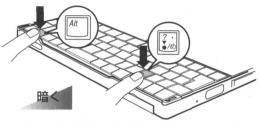
スタイラスの操作方法は、マウスの操作と比較すると覚えやすいです。

どんな時に使う？	メニューや[OK]などのボタンを選択するときなどに使います。	アプリケーションを起動するためにアイコンやファイルを選択するときに使います。	ファイルを移動したり、「ピクチャーパレット」で図形を描いたりするときに使います。
スタイラスの操作	タップする：ディスプレイ上の希望の位置を、スタイラスで1回押します。	ダブルタップする：ディスプレイ上の希望の位置を、スタイラスで2回続けて押します。	ドラッグする：ディスプレイ上の希望の位置をスタイラスで押したまま移動して、希望の位置でスタイラスを画面から離します。
マウスの操作	クリックする：ポインターを希望の位置に合わせて、マウスの左ボタンを1回押します。	ダブルクリックする：ポインターを希望の位置に合わせて、マウスの左ボタンを続けて2回押します。	ドラッグする：ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したままポインターを移動し、希望の位置でボタンを離します。

キーボードを使う

キーボードのキーは、特殊キーと文字キーに分類できます。
ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊キーについて説明します。
文字キーの使い方は「文字を入力する」をご覧ください。(→48ページ)

Shiftキー (シフト)	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。 また、文字キーと他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。実行できる機能は、使用するアプリケーションによって異なります。
Ctrlキー (コントロール)	たとえば、Ctrlキーを押しながらVキーを押すと、クリップボードの内容がカーソル位置に挿入されます。 このように文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。実行できる機能は、使用するアプリケーションによって異なります。
Altキー (オルタネート)	たとえば、Altキーを押しながら .(ピリオド)キーを押すと、ディスプレイのコントラストが強くなります。 このように文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。実行できる機能は、使用するアプリケーションによって異なります。
Escキー (エスケープ)	実行を中止したり、設定を取り消したりします。
Windowsキー (ウィンドウズ)	Windows CEの[スタート]メニューが表示されます。 他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。実行できる機能は、使用するアプリケーションによって異なります。

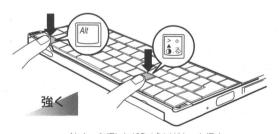
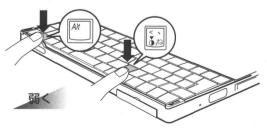
ディスプレイを調整する

明るさを調整する

Altキーを押しながら、バックスラッシュキーを押す。

Altキーを押しながら、スラッシュキーを押す。

ディスプレイの表示の明るさは、4段階に調節することができます。

もっと教えて

●電池で利用する場合、ディスプレイの明るさをやや暗く設定して、消費電力を抑えることができます。消費電力を抑える方法については「省電力の設定をする」をご覧ください。
(→112ページ)

コントラストを調整する

Altキーを押しながら、ピリオドキーを押す。

Altキーを押しながら、カンマキーを押す。

ディスプレイの表示のコントラストは、32段階に調整することができます。

電源を切る

電源を切る

InterLinkの電源を自分で切るには、3種類の方法があります。

■電源ボタンを押す

電源が切れて、パワーランプが消灯します。

■液晶ディスプレイを閉める

液晶ディスプレイを閉めると液晶ディスプレイ開閉検出スイッチが働き（→27ページ）電源が切れて、パワーランプが消灯します。

■メニュー操作

1 [スタート]をタップする

[スタート]メニューが表示されます。

2 [サスペンド]をタップする

電源が切れて、パワーランプが消灯します。

サスペンドモードについて

サスペンドモードとは、電源が切れる前の状態から起動できるモードのことです。
たとえば、InterLinkでワープロソフトを使って文書を作っている最中に、うっかり電源を切ったとします。次に電源を入れたときに表示されるのは、Windows CEの初期画面ではなく、作成途中の文書です。そのまま続きを作成することができます。
また、InterLinkの電源を切らずに、30分間、別の用事をしていたとします。用事が済んでInterLinkを見ると、画面が真っ暗になり、電源が切れています。しかし、これは故障ではなく、「オートサスペンド」という機能です。この場合も電源を入れると、さきほどの画面が表示されますので、続きの操作をすることができます。

もっと教えて

●サスペンド&レジューム
InterLinkのようなモバイルPCの場合は、「電源を切る」＝「実行中の作業を記憶しておいて、電源供給を一時停止する」ということになります。これを「サスペンド(suspend)」といいます。
また、電源供給が再開したとき、記憶していた状態を復元する機能を「レジューム(resume)」といいます。
●オートサスペンド
InterLinkは、ACアダプターを使用しないで、単3形電池による電源供給時、3分間何も操作をしないでいると、自動的に電源供給を一時停止するように設定されています(工場出荷時の状態)。これを「パワーマネージメントのオートサスペンド」といいます。
［スタート］メニューから［設定］、［コントロールパネル］を順にタップし、［パワーマネージメント］アイコンをダブルタップし「電源オフ」の画面で設定を変更することもできます。
なお、通信中(「AVリンクメール」でメール送受信中や、「Pocket Internet Explorer」でWebページを閲覧中)は、何も操作しない場合でもオートサスペンドしません。

2章 アプリケーションを楽しむ前に

基本

Windows CEの画面について

下図はWindows CEのデスクトップ画面の例です。表示される画面の背景やアイコンは設定（→52ページ）によって異なります。

ごみ箱

ファイルを削除すると、一時的にこの「ごみ箱」に移動します。「ごみ箱」に移動したファイルは簡単に元に戻せます。完全に消去するには「ごみ箱」をダブルタップし、[ファイル]メニューの[ごみ箱を空にする」を選択します。

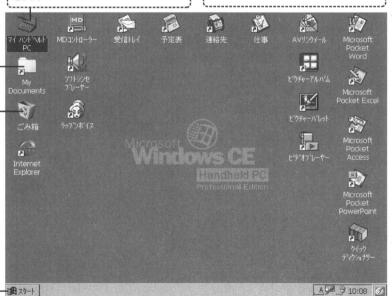
My Documents

ファイル管理に使用します。ダブルタップすると、データが保存されているフォルダが開きます。

マイハンドヘルドPC

このアイコンをダブルタップすると、各フォルダの内容を見たり、ファイルの管理や操作ができます。

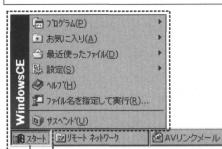
デスクトップ

Windows CEを起動すると画面全体に表示される領域を「デスクトップ」といいます。アプリケーション（ソフトウェア）を使って作業したり、マイハンドヘルドPCやよく使うアイコンを置くことができる、いわゆる「机の上」です。

[スタート]

タップすると[スタート]メニューが開きます。[プログラム]や[設定]、[最近使ったファイル]などをタップして開く（または起動する）ことができます。

タスクバー

[スタート]や、現在作動中のプログラムが表示されます。また、時刻や日本語入力のためのインジケータ（→48ページ）などを表示するステータスエリアと、デスクトップアイコンがあります。

タスクバーについて

デスクトップアイコン
開いているプログラムを最小化したり、それをデスクトップに表示したりできます。

[スタート]メニュー

現在動作中のプログラムが表示されます。

ステータスエリア
このエリアのアイコンをダブルタップすると詳しい情報が表示されます。

もっと教えて

●ウィンドウとメニューの色は変えることができます。[スタート]をタップし、[スタート]メニューで[設定]、[コントロールパネル]を順にタップします。「画面」アイコンをダブルタップし、[デザイン]タブをタップします。用意されたデザインの中から選択するか、自分で作成します。

アプリケーションの画面について

アプリケーションを起動（→42ページ）するとアプリケーションのウィンドウ上部にコマンドバーが表示されます。下図は「AVリンクメール」のコマンドバーの例です。

メニュー
名前をタップすると、そのメニューが開きます。

ファイル(F)　編集(E)　メッセージ(M)　ツール(T)　サーバ(S)　?　×

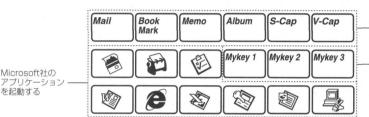
スライダー
スライダーをドラッグすると、ツールバーボタンのみ表示したり、メニューとツールバーボタンのどちらも表示したり、必要なボタンやメニューの名前を表示したりすることができます。
スライダーをドラッグして、メニューの下にツールバーボタンを移動することもできます。

ツールバーボタン
ボタンをタップしたままにすると、そのボタンの機能が表示され、離すとその機能が実行されます。ボタンの機能が表示された後、その機能を実行しないときは、ツールバーボタンの外にドラッグします。

アプリケーションを起動する

アプリケーションを起動する方法として、主に下記の3種類があります。
・イチ押しキーで起動する
・デスクトップのアイコンで起動する
・スタートメニューから起動する

イチ押しキーで起動する

イチ押しキーを押すと、そのボタンに登録されているアプリケーションが起動されます。スタイラスは使わずに指で押します。

もっと教えて

●サスペンド時、イチ押しキーを押すと電源が入り、登録されているアプリケーションが起動されます。
●サスペンド時、shiftキーやctrlキーは無効です。
●イチ押しキーにアプリケーションやファイルを登録するには、「イチ押しキー設定」を使います。「イチ押しキー設定」の操作については、「よく使うアプリケーションをイチ押しキーに登録する」をご覧ください。(→106ページ)

■InterLinkオリジナルアプリケーション

下表のイチ押しキーを押すと、それぞれに登録されているInterLinkオリジナルアプリケーションが起動されます。

キー	説明
Mail AVリンクメール (→66ページ)	電子メールの送受信ができます。音声や画像などを添付して、AVリンクメールを楽しむことができます。 ●「Mail」を押すと「AVリンクメール」が起動されます。 ●Shiftキーを押しながら「Mail」を押すと、「AVリンクメール」が起動され、自動的にプロバイダのアクセスポイントに電話をかけます。この場合、新着メールを受信した後、自動的に電話回線を切ります。
Book Mark オリジナルブックマーク (→108ページ)	Pocket Internet Explorerの「お気に入り」をわかりやすく整理します。お気に入りのWebページにより早くジャンプでき、インターネットがさらに楽しくなります。 ●「BookMark」を押すと「Pocket Internet Explorer」が起動されてWebページを表示し、そこに「オリジナルブックマーク」のパネルが表示されます。（ラウンチモード） ●Shiftキーを押しながら「BookMark」を押すと、「オリジナルブックマーク設定」のパネルが表示されます。「Pocket Internet Explorer」は起動されません。（編集モード）
Memo メモ機能 (→110ページ)	スタイラスで自由に描ける、フリーノートです。電話番号などの短いメモを急いでとりたいときに最適です。 ●「Memo」を押すと「メモ機能」が起動され、新しい画面が表示されます。 ●Shiftキーを押しながら「Memo」を押すと、今までに描いたメモの一覧が表示されます。
Album ピクチャーアルバム (→82ページ)	写真をアルバムに保管するように、静止画を整理して保存します。1枚1枚にコメントを付けたり、連続して表示させて楽しむ（スライドショウ）こともできます。 ●「Album」を押すと「ピクチャーアルバム」が起動されます。
S-Cap スチルキャプチャー (→84ページ)	USBキャプチャーカメラ（別売）や、デジタルスチルカメラなどから静止画を取り込みます。 ●「S-Cap」を押すと「スチルキャプチャー」が起動されます。
V-Cap ビデオキャプチャー (→89ページ)	USBキャプチャーカメラ（別売）で撮影し、動画を作成します。 ●「V-Cap」を押すと「ビデオキャプチャー」が起動されます。

■Microsoft社のアプリケーション

下表のイチ押しキーを押すと、それぞれに登録されているMicrosoft社のアプリケーションが起動されます

	「予定表」が起動されます。（→142ページ）
	「連絡先」が起動されます。（→145ページ）
	「仕事」が起動されます。（→146ページ）
	多重に開いている「Pocket Word」のウィンドウを切り替えます。（開いていない場合は「Pocket Word」が起動されます。） Ctrlキーを押しながら、このキーを押すと「Pocket Word」が新たに起動されます。（→135ページ）
	多重に開いている「Pocket Internet Explorer」のウィンドウを切り替えます。（開いていない場合は「Pocket Internet Explorer」が起動されます。） Ctrlキーを押しながら､このキーを押すと｢Pocket Internet Explorer｣が新たに起動されます｡(→59ページ)
	多重に開いている「Pocket Excel」のウィンドウを切り替えます。（開いていない場合は「Pocket Excel」が起動されます。） Ctrlキーを押しながら、このキーを押すと「Pocket Excel」が新たに起動されます。（→136ページ）
	多重に開いている「Pocket Access」のウィンドウを切り替えます。（開いていない場合は「Pocket Access」が起動されます。） Ctrlキーを押しながら、このキーを押すと「Pocket Access」が新たに起動されます。（→137ページ）
	多重に開いている「Pocket PowerPoint」のウィンドウを切り替えます。（開いていない場合は「Pocket PowerPoint」が起動されます。） Ctrlキーを押しながら、このキーを押すと「Pocket PowerPoint」が新たに起動されます。（→139ページ）
	単独で押すと「PCリンク」が起動されます。（→152ページ） Shiftキーを押しながらこのキーを押すと「Active Sync」が起動されます。（→157ページ） Ctrlキーを押しながらこのキーを押すと「リモートネットワーク」が起動されます。（→154ページ）

デスクトップのアイコンで起動する

Windows CEデスクトップのアイコンをスタイラスでダブルタップすると、それぞれに対応したアプリケーションが起動されます。

■InterLinkオリジナルアプリケーション

アイコン	アプリケーション
	AVリンクメール（→66ページ）
	MDコントローラー（→101ページ）
	ピクチャーアルバム（→82ページ）
	ピクチャーパレット（→86ページ）
	ビデオプレーヤー（→91ページ）
	ラップンボイス（→100ページ）
	ソフトシンセプレーヤー（→98ページ）
	クイックディクショナリー（→109ページ）

■Microsoft社製アプリケーション

アイコン	アプリケーション
	Internet Explorer（→59ページ）
	受信トレイ（→147ページ）
	予定表（→142ページ）
	連絡先（→145ページ）
	仕事（→146ページ）
	Pocket Word（→135ページ）
	Pocket Excel（→136ページ）
	Pocket Access（→137ページ）
	Pocket PowerPoint（→139ページ）

スタートメニューから起動する

順次表示されるメニューの選択を繰り返すと、希望のアプリケーションが起動されます。たとえば、InterLink ユーティリティの「オリジナルブックマーク」を起動してみます。

1 [スタート]をタップする

[スタート]メニューが表示されます。

2 [プログラム]をタップする

[プログラム]メニューが表示されます。

3 [InterLink ユーティリティ]をタップする

[InterLink ユーティリティ]メニューが表示されます。

4 [オリジナルブックマーク]をタップする

これで、「オリジナルブックマーク」アプリケーションが起動されます。

アプリケーションを終了する

アプリケーションを終了するには、下記の2種類の方法があります。

■コマンドバーの × をタップする

アプリケーションのウィンドウの右上にある × をタップします。

■[ファイル]メニューの[閉じる]や[終了]をタップする

アプリケーションによっては、[ファイル]メニューの[アプリケーションの終了]を選択するものもあります。

もっと教えて

●アプリケーションを終了せずに電源を切った場合、次に電源を入れたときにそのアプリケーションの画面が表示されます。詳しくは、「サスペンドモードについて」をご覧ください。(→38ページ)

文字を入力する

InterLinkで日本語を入力するときは、Windows CEに組み込まれている、かな漢字変換プログラムMS-IME 98を利用します。MS-IME 98が使用できるときは、タスクバーに下記のようなインジケータが表示されます。

キーボードで入力する

■入力のしかた

1 漢字キーを押してMS-IME 98をオンにし、キーボードからの日本語入力モードに切り替える

日本語入力モードになると、タスクバーの入力モードインジケータが変わります。入力モードは[入力モードインジケータ]をタップして切り替えるか、キーボードから切り替えます。

入力モードインジケータ		キーボードでのモード切り替え
あ	ひらがな	ひらがなキー
カ	全角カタカナ	Shiftキー+ひらがなキー、または無変換キー
A	全角英数	ひらがなモードまたは全角カタカナモードで英数キー
_ｶ	半角カタカナ	無変換キー
_A	半角英数	全角英数モードでShiftキー＋無変換キー
_A	直接入力（MS-IME 98がオフのとき）	

2 Altキー+ひらがなキーを押して、かな入力とローマ字入力を切り替える

かな入力、またはローマ字入力のどちらかの方法で入力します。

3 キーボードから文字を入力し、変換キーまたはスペースキーを押して変換する

入力した文字の下に破線が表示されます。変換キーやスペースキーを押すと、破線の部分が漢字や記号に変換されます。変換候補が正しくない場合は、もう一度変換キーまたはスペースキーを押して他の候補を表示します。

4 変換候補が正しい場合はEnterキーを押して確定する

5 漢字キーを押して、MS-IME 98をオフにする

日本語入力モードが解除されます。

もっと教えて

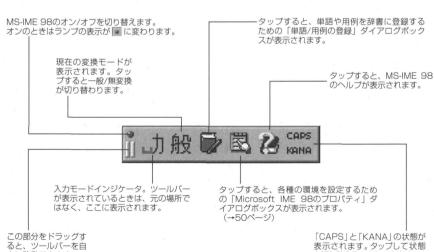
●文字を入力したあとで下記のキー(ショートカットキー)を押して変換することもできます。

Ctrl+U ひらがなに変換する
Ctrl+I カタカナに変換する
Ctrl+O 半角にする
Ctrl+P 全角英数に変換する
Ctrl+T 半角英数に変換する

■MS-IME 98ツールバー

入力や変換などの日本語入力モードの状態を表示したり、環境を設定したりするときはMS-IME 98ツールバーを使います。

1 タスクバーの[入力モードインジケータ]をタップし、「ツールバーを表示」を選択する

MS-IME 98ツールバーが表示されます。

もっと教えて

●ツールバーに表示される内容や状態は「Microsoft IME 98のプロパティ」の[表示]で変更することができます。ツールバーの表示を止め、タスクバーに戻す操作もここで行います。
●MS-IME 98の詳しい使い方は、MS-IME 98ツールバーからヘルプを表示してご覧ください。

■Microsoft IME 98のプロパティ

プロパティの設定を変更することにより、MS-IME 98の機能を好みに合わせてカスタマイズすることができます。

入力パネルで入力する

日本語の入力方法に応じて、「ひらがな／ｶﾀｶﾅ」や「英数字」、「手書き入力」や「手書き検索」など数種類の入力パネルが用意されています。

1 タスクバーの[入力パネルインジケータ]をタップする

入力方法の一覧が表示されます。

2 入力方法をタップする

選択した入力パネルが表示されます。

「手書き検索」を選んで、スタイラスで文字を書いた場合

もっと教えて

●[入力パネルインジケータ]をダブルタップすると、選択している入力パネルが表示されます。

ヘルプを見る

Windows CEについての情報が必要なときや操作がわからないときは、ヘルプをご覧ください。

Winwods CE のヘルプ

1 [スタート]をタップする

2 [ヘルプ]をタップする

[ヘルプの目次]ウィンドウが表示されます。

アプリケーションのヘルプ

例として、「ラップンボイス」で、歌わせる歌詞の用意のしかたを調べてみます。

1 デスクトップの「ラップンボイス」アイコンをダブルタップする

ラップンボイスが起動され、「アディ」という女の子のいる画面が表示されます。

2 ? をタップする

「ラップンボイス」のヘルプウィンドウが表示され、ヘルプの目次が表示されます。

3 「歌う文字に関する操作」をタップする

調べたいことが「歌わせる歌詞の用意のしかた」なので、直感的に似ている項目を選びます。
「歌う文字に関する操作」の目次が表示されます。

4 見たい項目をタップする

ファイルから文字を読み込む方法や、文字を入力する方法などが、それぞれのページに表示されます。

5 × をタップする

ヘルプ画面が閉じ、「ラップンボイス」の操作を続けることができます。

使い方に合わせてカスタマイズする

使い方に合わせて、InterLinkの設定を変更したり調整したりすることができます。

1 [スタート]をタップし、[設定]をタップし、[コントロールパネル]をタップした後、コントロールパネルウィンドウでアイコンをダブルタップする

アプリケーションの削除	不要なアプリケーションを削除します。
イチ押しキー設定	イチ押しキーを押すと起動するアプリケーションやファイルを確認したり、登録、変更、削除します。
オーナー情報	所有者の名前や勤務先、住所などの情報を入力しておきます。
キーボード	文字のリピート設定をします。
システム	データ記憶用メモリとプログラム実行用メモリ間で、メモリの有効領域を調整したり、システム情報を表示します。
スタイラス	スタイラスで画面をタップし認識するための設定をします。ダブルタップの速度調整およびタップ位置間隔の微調整、タッチパネルの座標の補正をします。
ダイヤル	InterLinkで通信をするときの電話番号（発信元）を登録します。
ネットワーク	ネットワークに接続するときのアダプタの設定を変更します。通常、この設定を変更する必要はありません。
パスワード	InterLinkへのアクセスを制限するため、パスワードを設定します。
パワーマネージメント	バッテリーの残量を確認したり、節約のための設定をすることができます。なお、残量はあくまで「めやす」です。充電/放電を繰り返すと、残量表示が不正確になる場合があります。
ボリューム&サウンド	音の大きさや鳴らす場面の設定をします。
画面	背景（壁紙）を変更したり、ウィンドウとメニューの色を設定します。
省電力	ディスプレイのバックライト調整やデバイス・電池の設定をします。（→112ページ）
世界時計	自宅の他に、訪問先の日付と時間を設定したり、アラームの設定をします。
地域	使用する地域を選択すると、アプリケーションで時刻や日付、通貨、数字の表示をその地域に自動的に合わせます。
通信	InterLinkをPCと接続して、PCから利用するときに必要な識別名や接続方法を設定します。
入力パネル	入力パネルを使って文字入力するときの入力方法を設定します。

通信の準備と設定をする

インターネットを楽しむ前に

インターネットに接続すると、「AVリンクメール」などのメールソフトを使ってインターネットメールのユーザーと電子メールをやりとりすることができます。また、「Pocket Internet Explorer」などのブラウザソフトを使ってWWW(World Wide Web)サーバにあるWebページを閲覧することができます。
本機でインターネットを利用するには、上記のアプリケーションのほかに下記が必要です。

電話回線

本機は、内蔵モデムを使って一般公衆回線に接続したり、携帯電話やPHSに接続することができます。(→114～117ページ)

インターネットサービスプロバイダ契約

インターネットの接続サービスを提供する企業を「インターネットサービスプロバイダ」と呼びます。プロバイダは多数あり、加入料金や使用料金などはプロバイダによって異なります。プロバイダと契約すると、ユーザーIDとパスワード、電子メールアドレス、IPアドレス、アクセスポイントの電話番号を教えてくれます。
会社などでLANを経由して接続する場合は、LANがインターネットに接続されている必要があります。
通常、商用プロバイダに接続するときは、ドメイン欄の入力は必要ありません。

もっと教えて

●ユーザーIDとパスワードは、インターネットに接続するときの名前と暗証番号にあたります。
●電子メールアドレスとは、電子メールを送受信するときのアドレスです。
(たとえばkoga@abcde.plala.or.jp)。
●IPアドレスとは、インターネットで通信するために必要なアドレス情報です。通常、XXX.XXX.XXX.XXX(XXXは0～255の数字)の形式です。
●アクセスポイントとは、プロバイダが設置しているインターネット接続拠点です。一般公衆回線用/ISDN回線用/PIAFS用など、回線の種類によってアクセスポイントが異なります。アクセスポイントに電話をかけて、インターネットに接続します。
●携帯電話の会社によっては、プロバイダと契約しなくても電子メールの送受信やWebページの閲覧ができるサービスを提供しているところもあります。

■インターネット接続の流れ

下記のような手順で、インターネットに接続します。まだプロバイダと契約していない場合は、まず契約をし、それから下記の手順でインターネットに接続してください。

インターネット接続のための設定をする

「リモートネットワーク」で、電話をかけるアクセスポイントの名前と電話番号を登録します。(→55ページ)

（メールのやり取りをする場合）　（Webページを見る場合）

メール送受信のための設定をする

「AVリンクメール」を初めて起動すると、アカウント名（メールを利用するためのユーザー名。本名でなくてもよい）やメールサーバーなどの設定をする画面になります。（→60ページ）

InterLinkを電話回線につなぐ

接続方法は「電話回線につなぐ」「携帯電話やPHSにつなぐ」をご覧ください。(→114ページ、116ページ)

アクセスポイントに電話をかけて、メールの送受信をする

「AVリンクメール」で、リモートネットワークで登録した接続先に電話をかけます。このとき、ユーザー名とパスワードの入力が必要です。
（→68ページ）

・メールを送る場合は、先にメールを作成しておき、それから接続先に電話をかけることをお薦めします。
（→66ページ）

・メールを受け取る場合は、接続先に電話をかけて受信し、電話を切ってからメールを読むことをお薦めします。
（→74ページ）

アクセスポイントに電話をかける

リモートネットワークで登録した接続先に電話をかけます。このとき、ユーザー名とパスワードの入力が必要です。（→58ページ）

Webページの閲覧をする

「Pocket Internet Explorer」などのブラウザソフトを起動すると、Webページが表示されます。（→59ページ）

2 アプリケーションを楽しむ前に

インターネット接続のための設定をする

プロバイダと契約したら、接続のための設定をしましょう。設定するには、接続するアクセスポイントの電話番号が必要です。

1 [スタート]メニューから、[プログラム]、[通信]、[リモートネットワーク]を順にタップする

リモートネットワーク・ウィンドウが表示されます。

2 「新しい接続」アイコンをダブルタップする

新しい接続ウィザードが起動されます。

3 「接続名」欄にプロバイダのアクセスポイントの名前を入力し、「ダイヤルアップ接続」をタップして、[次へ]をタップする

「ぷらら横浜」のように、プロバイダ名とアクセスポイントの都市を入れておくと、複数のアクセスポイントを登録して選択するときに便利です。

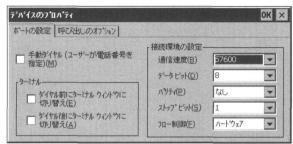
新しい接続
接続名(T):
ぷらら横浜
接続の種類:
ダイヤルアップ接続(L)
ケーブル接続(R)
< 戻る(B)　次へ(N) >

4 「モデムの選択」欄の ▼ をタップし、表示される一覧で「SoftModem on COM5:」をタップする

一般公衆回線を使ってアクセスポイントに電話する場合は「SoftModem on COM5:」を、携帯電話またはPHSを使う場合は「COM6 上のPDC_PHS接続」をタップします。

次ページにつづく

5 「モデムの設定」をタップし、接続環境の設定の「通信速度」欄の ▼ をタップして、表示される一覧で「57600」をタップして、[OK]をタップする

一般公衆回線を使ってアクセスポイントに電話する場合は「57600」を、携帯電話を使う場合は「9600」をタップし、[OK]をタップします。PHSを使う場合は「38400」をタップし、[呼び出しのオプション]タブをタップして「待ち時間経過後に呼び出しをキャンセルする」に ☑ を付けて「57」秒に設定し、[OK]をタップします。

6 「新しいダイヤルアップ接続」ウィンドウにもどったら、「TCP/IPの設定」をタップし、「サーバが割り当てたIPアドレスを使用する」にのみ ☑ を付け、[OK]をタップする

他の3項目（Slipを使用する、ソフトウェア圧縮を使用する、IPヘッダー圧縮を使用する）には ☑ を付けません。

もっと教えて

●[TCP/IPの設定]のIPアドレス設定を変える必要はありません。現在ほとんどのインターネットサービス・プロバイダは、サーバが割り当てたアドレス設定を使うようになっています。もしインターネットサービス・プロバイダがこのようなアドレス設定を使っていないときは、[TCP/IPの設定]ダイアログボックスにアドレスを入力してください。終了したら[次へ]をタップします。

7 「新しいダイヤルアップ接続」ウィンドウにもどったら、[次へ]をタップする

8 「国番号」欄は「81」のままで、「市外局番」欄と「電話番号」欄にアクセスポイントの電話番号を入力し、[市外通話としてダイヤル]または[市内通話としてダイヤル]のどちらかをタップして、[終了]をタップする

これで、接続先の登録が完了しました。リモートネットワーク・ウィンドウに、操作手順3で入力した名前のアイコン(「ぷらら横浜」など)が表示されます。

もっと教えて

- 「81」は日本の国番号です。
- 携帯電話やPHSを使ってアクセスポイントに電話する場合は市外局番からダイヤルするため、「市外通話としてダイヤル」を選択します。
- PHSを使う場合は、PIAFS対応のプロバイダアクセスポイントを指定してください。
- 「AVリンクメール」で接続先を選択するとき、ここで設定した接続先が一覧に表示されます。

9 登録した接続先のアイコンをタップし、[ファイル]をタップし、[デスクトップショートカットの作成]をタップする

接続先のショートカットアイコン(「ぷらら横浜へのショートカット」など)が作られ、デスクトップに表示されます。以降、デスクトップでこのショートカットアイコンをダブルタップすると、登録した接続先にダイヤルすることができます。

もっと教えて

- 「Pocket Internet Explorer」などでWebページを閲覧するときは、デスクトップでこのショートカットアイコンをダブルタップすると、登録した接続先にダイヤルします。

10 × をタップして、リモートネットワーク・ウィンドウを閉じる

インターネットに接続する

インターネットに接続するには、下記の情報が必要です。これらの情報はプロバイダと契約すると通知されます。不明な場合はプロバイダにお問い合わせください。

・ユーザー名（ユーザーID）　・パスワード

通常、商用プロバイダに接続するときは、ドメイン欄の入力は必要ありません。

■電話回線につなぐ

1 モジュラージャックに付属のモジュラーケーブルを差し込み、電話回線につなぐ

モジュラーケーブルのコネクタの向きに注意し、「カチッ」と音がするまでしっかり差し込みます。
詳しくは、「電話回線につなぐ」をご覧ください。(→114ページ)

■アクセスポイントに電話をかけ、サーバにつなぐ

2 デスクトップ上に作成したリモートネットワークのショートカットアイコンをダブルタップする

ダイヤルアップ接続ダイアログが表示されます。

3 「ユーザー名」「パスワード」を入力する

「ユーザー名」にはユーザーIDを入力します。
通常、商用プロバイダに接続するときは、ドメイン欄の入力は必要ありません。

4 ダイヤルのプロパティダイアログで[ダイヤルのプロパティ]をタップする

5 「発信元」欄の ▼ をタップし、表示される一覧で発信元に当てはまるものをタップして、[OK]をタップする

これで、発信元の電話の設定ができました。

6 [接続]をタップする

アクセスポイントに電話をかけます。インターネットに接続できると「接続中」のダイアログが表示されるので、ブラウザを起動してWebページを見たり(→59ページ)、メールの送受信をしたりします(→69、74ページ)。

Webページを閲覧する

インターネットに接続できたら、ブラウザソフトの「Pocket Internet Explorer」を起動して、Webページを見てみましょう。

1 イチ押しキーの [e] を押す

「Pocket Internet Explorer」が起動されます。初めて起動したときは「ようこそ」の画面が表示されます。好みのページにジャンプして、お楽しみください。
「Pocket Internet Explorer」の操作方法については[?]をタップして、ヘルプをご覧ください。

もっと教えて

- インターネットまたはイントラネットに接続せずに、InterLinkに保存されているWebページを見るには、「Pocket Internet Explorer」の[ファイル]メニューの[開く]をタップし、「インターネットのアドレスを開く」ダイアログで[参照]をタップして、見たいファイルを選択します。
- インターネットやイントラネットのWebページを見るには、InterLinkをインターネットまたはイントラネットに接続し、「Pocket Internet Explorer」のアドレスボックスに見たいWebページのURLを入力します。
- WebページのHTMLソースコードを見るには、まず「Pocket Internet Explorer」の[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]をタップし、そのページを保存します。次に「Pocket Word」を起動して[ファイル]メニューの[開く]をタップし、「開く」ダイアログの「種類」欄で「すべてのファイル」を選択して、先ほど保存したページ(HTMLファイル)を選択します。

2 [×] をタップする

「Pocket Internet Explorer」を終了します。

■電話回線を切る

3 電話回線を切るときは、タスクバーのステータスエリアの[リモートネットワーク]アイコンをダブルタップする

4 「切断」をタップする

■電話回線からはずす

5 モジュラーケーブルを取り外す

詳しくは、「電話回線につなぐ」をご覧ください。(→114ページ)

メール送受信のための設定をする

「AVリンクメール」でメールをやり取りするための設定をしましょう。設定するには、電子メールアドレスが必要です。不明な場合は、契約したプロバイダにお問い合わせください。
「AVリンクメール」を初めて起動したときは、下記手順の基本設定ウィザードに従って、メール送受信のための設定を正しく行います。「ポート番号の編集」は通常、変更する必要はありません。

1 イチ押しキーの「Mail」を押す

「AVリンクメール」が起動されます。

2 「AVリンクメール」を初めて起動した場合は、ユーザ名を入力し、[OK]をタップする

画面に表示されている「アカウントネーム」とは、ユーザ名のことです。名前でも名字でも、ニックネームでもかまいません。基本設定ウィザードが起動され、「送信」ダイアログが表示されます。

3 「送信」ダイアログの下記の内容を確認し、[次へ]をタップする

下記の内容は通常、変更する必要はありません。

「ヘッダフィールドをエンコードする」（デフォルト「する」、「BASE64」）
「次のサイズよりメッセージが大きい場合は分割する」（デフォルト「しない」）
「ただちに送信する」（デフォルト「する」）

4 「受信」ダイアログの下記の内容を確認し、[次へ]をタップする

下記の内容は通常、変更する必要はありません。

「受信メールの最大メモリサイズ」（デフォルト「しない」）
「サーバにメッセージを残す」（デフォルト「しない」）

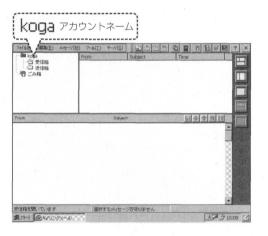
5 「サーバ」ダイアログの「サーバの設定」および「電子メールアドレス」欄にメールアカウント情報を入力し、[次へ]をタップする

「ポート番号の編集」は通常、変更する必要はありません。

6 「コンテンツ」ダイアログの下記の内容を確認し、[終了]をタップする

下記の内容は通常、変更する必要はありません。

「コンテンツのエンコード形式」（デフォルト「Base64」）
「次の文字をこえたら自動改行する」（デフォルト「する」、76文字）

「AVリンクメール」の画面に、操作手順2で入力したアカウントネーム(kogaなど)のフォルダと「ごみ箱」フォルダが表示され、アカウントネームのフォルダの中には「受信箱」「送信箱」のフォルダが表示されます。この画面でメールを作成して送ったり、メールを受け取って読んだりします。（→75ページ）

7 × をタップする

「AVリンクメール」を終了します。
AVリンクメールの操作方法は、66ページ以降をご覧ください。

PC接続の準備をする ～Windows CEサービスのインストール～

Windows CEサービスについては152ページをご覧ください。
PCでMicrosoft Outlook 98を使いたい場合は、前もってアップグレードしておいてください。

1 (PCを立ち上げ状態にしてから) InterLinkをAC電源に接続する

詳しくは「AC電源を使うとき」をご覧ください。(→29ページ)

2 InterLinkとPCを付属のシリアルケーブルで接続する

詳しくは「パソコンにつなぐ」をご覧ください。(→123ページ)

3 付属の「デスクトップソフトウェア for Microsoft Windows CE CD-ROM」を、PCのCD-ROMドライブに入れる

詳しくは「Microsoft CEサービス」をご覧ください。(→152ページ)

4 [Mirosoft Windows CEサービスのセットアップ] アイコンを押し、以降は画面の指示に従う

ウィザードが自動的に起動されます。起動されない場合は、「d:¥setup」を入力してください(CD-ROMドライブがd:ドライブの場合)。
[追加するコンポーネント]については、Windows CEサービスCD-ROMのRead me.docを参照してください。

「新規パートナー関係のウィザード」のデバイス名に「InterLink」を入力してください。

InterLinkとPCの接続、パートナーシップの設定から、初めての同期まで、ウィザードに従って進めてください。
メールメッセージなどいくつかの項目は、初期設定では同期されません。ウィザードが終了すると、PCのデスクトップに (モバイルデバイスアイコン)が作成され、その中に「InterLink」のアイコンも作成されます。

もっと教えて

●ウィザードを完了した後で、同期したい項目のタイプを変更するときには、モバイルデバイスフォルダ内のInterLinkのアイコンを選び、「ツール」メニューにある「Active Syncの設定」をクリックします。
●Windows 95/98のPCと同期するには、赤外線通信を使って同期することもできます。Windows 95の場合には、Windows 95赤外線ドライバのインストールが必要です。詳しくはWindows CEサービスのヘルプをご覧ください。
●InterLink上の情報が破壊されたり失われたりすることに備えてWindows CEサービスを使ってInterLinkのデータをPCに定期的にバックアップしてください。InterLinkを接続し、PCのモバイルデバイスフォルダ内の「ツール」メニューで「バックアップ／復元」をクリックしてください。InterLinkにどれだけの情報があるかによりますが、最初のバックアップは時間がかかるかもしれません。2回目のバックアップは「バックアップ／復元プロパティ」で「差分バックアップ」を選ぶことによりもっと速くできます。

付属のCD-ROMからアプリケーションをインストールする

InterLinkにソフトウェアを追加または削除するには、付属のCD-ROM「デスクトップソフトウェア for Microsoft Windows CE CD-ROM」を使用します。このCD-ROMから「Microsoft Windows CEサービス」をPCにインストール（→62ページ）したら、もう1枚の「アプリケーションCD-ROM」からお好みのアプリケーションをInterLinkにインストールしてみましょう。

1 InterLinkをAC電源に接続する

詳しくは「AC電源を使うとき」をご覧ください。(→29ページ)

2 InterLinkとPCを付属のシリアルケーブルで接続する

詳しくは「パソコンにつなぐ」をご覧ください。（→123ページ）

3 「アプリケーションCD-ROM」を、PCのCD-ROMドライブに入れる

しばらくすると「InterLinkアプリケーションインストーラー」が起動され、PCの画面に「アプリケーションソフトリスト」が表示されます。
CD-ROMを入れても自動的に「InterLinkアプリケーションインストーラー」が起動しない場合は、エクスプローラーでCD-ROM内のInterLinkアイコンをダブルクリックして起動してください。

⇨ 次ページにつづく

4 InterLinkにインストールしたいアプリケーションの[選択]ボタンをクリックする

5 [インストール]をクリックする

インストールが完了すると、InterLinkのデスクトップにプログラムのアイコンが追加されます。

インストールが始まります。[説明を見る]をクリックすると、そのアプリケーションの説明が表示されます。
インストールが終了するまで、InterLinkの操作はしないでください。

もっと教えて

●追加したアプリケーションを削除するには、InterLinkのコントロールパネル内の「アプリケーションの削除」を開き、プログラムを選択し、[削除] をタップします。

注意

- CD-ROMの中にファイルされているReadme.txtファイルには、セットアップに関する追加の情報や、取扱説明書に記載されていない情報が載っています。付属のソフトウェアをインストールする前にお読みください。
- アプリケーションソフトリスト画面の中で、CE はInterLink用ソフト、WIN はWindows 95/98用ソフトを意味しています。WIN の付いたソフトはInterLinkにはインストールできません。

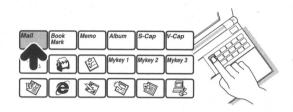
3章
メールを楽しもう

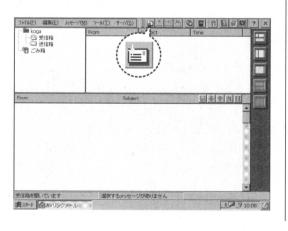
実践

自宅でメールを送り、出張の準備をする

メールを書く

さっそくメールを書きましょう。電話回線には、まだつなぎません。

1 イチ押しボタンの「Mail」を押す

「AV リンクメール」が起動されます。
デスクトップの「AVリンクメール」アイコンをダブルタップしても起動できます。

2 ツールバーの[新規作成]ボタンをタップする

送信ウィンドウの画面が開き、新しくメールを書くことができます。

3 「To：」の欄に、送りたい相手のメールアドレスを入力する

カーソルが点滅している欄に、相手のメールアドレスを入力します。（例：hashi@abcde.plala.or.jp など）。

4 「Subject：」の欄をタップし、タイトルを入力する

「Subject：」の欄をタップすると、カーソルが点滅し、タイトルを入力することができます。

5 メッセージを入力するスペース（アドレスやタイトルの下のスペース）をタップし、メッセージを入力する

「メッセージ」の欄をタップすると、カーソルが点滅し、メッセージを入力することができます。

● 「To：」と「Subject：」とメッセージは、どれを先に入力してもかまいません。

メールを送る

送信ウインドウに相手のメールアドレス、タイトル、メッセージを入力したら、下記の操作を始めましょう。InterLinkを電話回線につないで、メールを送信します。

注意

- この例で接続するのは、一般の家庭電話などにある通常のモジュラータイプの電話です（2線式電話）。ビジネスホン、デジタル式構内交換機（PBX）には接続しないでください。故障や発熱、火災の原因になります。
- キャッチホンの契約をしている場合、メールの送受信中に電話がかかってくると、キャッチホンが働き通信が切れてしまいます。キャッチホンIIの場合は、「通信中に割り込まない」という設定にすることができます。

■電話回線につなぐ

1 モジュラージャックに付属のモジュラーケーブルを差し込んで、電話回線に接続する

モジュラーケーブルのコネクタの向きに注意して、「カチッ」と音がするまでしっかり差し込みます。詳しくは「電話回線につなぐ」をご覧ください。（→114ページ）

■アクセスポイントに電話をかけ、サーバにつなぐ

2 [サーバ]をタップし、[接続]をタップする

「サーバ接続」ダイアログに、接続先の一覧が表示されます。

3 一覧で接続先をタップし、[決定]をタップする

接続先は「リモートネットワーク」で登録しておいたもの（「ぷらら横浜」など）です。（→55ページ）
次に、ダイヤルアップ接続ダイアログが表示されます。

4 「ユーザー名」「パスワード」を入力する

これらの情報はプロバイダと契約すると通知されます。不明な場合はプロバイダにお問い合わせください。
発信元の電話の設定（回線の種類など）が必要な場合は、[ダイヤルのプロパティ]をタップして設定します。

5 [接続]をタップする

選択した接続先に電話をかけ、プロバイダのアクセスポイントのサーバに接続します。
「接続しました」とメッセージが表示されるまで、そのままお待ちください。

■メールを送信する

6 [送信]ボタンをタップする

「メールを書く」で作成したメールが送信されます。
「送信完了しました」とメッセージが表示されるまで、そのままお待ちください。

⇨ 次ページにつづく

もっと教えて

● プロバイダのアクセスポイント（のサーバ）に電話をかけるための設定は、「リモートネットワーク」で登録しておきます。（→55ページ）
● メールを送受信するための設定は、「AVリンクメール」を初めて起動したときに基本設定ウィザードで行います（→60ページ）。まだ設定していない場合や設定を変更する場合は、[ツール]の[基本設定]をタップして各項目を設定してください。

■通信を終了する

7 [サーバ]をタップし、[接続を切る]をタップする

送信が終わったので、プロバイダとの接続を切ります。

8 モジュラーケーブルを取りはずす

電話コンセントには、元どおり、電話機のモジュラーケーブルを差し込んでおきます。

もっと教えて

●[サーバ]の[メール送受信]をタップすると、アクセスポイントに電話をかけてサーバに接続→メールの送信→メールの受信→電話回線の切断が自動的にでき、便利です。(→ 74ページ)

別のアクセスポイントを登録する

遠方に旅行や出張をしてメールの送受信をする場合は、最寄りのアクセスポイントの電話番号を登録しておきましょう。

■「AVリンクメール」から「リモートネットワーク」へ

1 「AVリンクメール」で、タスクバー右端の[デスクトップ]アイコンをタップする

「AVリンクメール」が最小化され、デスクトップ画面が表示されます。

2 [スタート]メニューから[プログラム]、[通信]、[リモートネットワーク]の順にタップし、[新しい接続]アイコンをダブルタップして、別のアクセスポイントを登録する

詳しい操作方法については、「インターネット接続のための設定をする」をご覧ください。(→55ページ)

■「AVリンクメール」で登録を確認する

3 タスクバーの[AVリンクメール]アイコンをタップする

最小化されていた「AVリンクメール」が最大化されて、画面に表示されます。

4 [サーバ]をタップし、[接続]をタップする

「サーバ接続」ダイアログに表示された接続先一覧に、新しく登録した接続先があることを確認します。

5 「サーバ接続」ダイアログの[キャンセル]をタップする

「サーバ接続」ダイアログを閉じます。

6 「AVリンクメール」の[×]ボタンをタップする

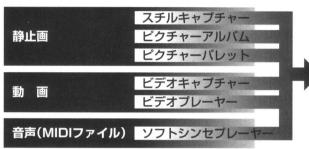
「AVリンクメール」を終了します。

もっと教えて

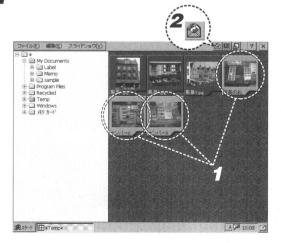
●登録したアクセスポイントの電話番号が変わった場合は、操作手順2でその接続先のアイコンをダブルタップして電話番号を入力し直します。

メールにファイルを添付して公衆電話から送る

他のアプリケーションから「AVリンクメール」を起動して送信する

InterLinkオリジナルアプリケーションで静止画や動画を作成したり再生したりすると、そのアプリケーションから「AVリンクメール」を起動して、メールで静止画や動画を送ることができます。なお、自分で作成したデータ以外の画像ファイル、動画ファイルやMIDIファイルを添付して送る場合は、著作権の扱いにご注意ください。

ここでは、「ピクチャーアルバム」で静止画を保存したあとで（→82ページ）、メールで送ってみましょう。電話回線はISDN公衆電話を使ってみます。

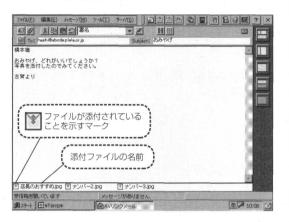
■他のアプリケーションから「AVリンクメール」を起動する

1 「ピクチャーアルバム」で、送りたい静止画をタップする

2 [メール]ボタンをタップする

画像のファイル名以外の場所をタップすると、フレームが明るくなります。これが選択された状態です。タップ操作を繰り返すと、複数の画像が選択できます。選択を取り消すときは、同じ画像をもう一度タップします。

「AVリンクメール」が起動されます。上記の6種のアプリケーションには、すべてこの［メール］ボタンがあります。
すでに「AVリンクメール」が起動している場合、［メール］ボタンをタップしても新規にメールが作成されません。「AVリンクメール」を終了してから［メール］ボタンをタップし直してください。

■メールを完成させる

3 **相手のメールアドレスと、タイトル、メッセージを入力する**

操作手順1で選択した画像を新規作成メールに添付した状態になっているので、メールアドレスとタイトル、メッセージを入力すれば、メールの作成は完了です。

■ISDN公衆電話につなぐ

4 **モジュラージャックに付属のモジュラーケーブルを差し込み、ISDN公衆電話のアナログコネクタにつなぐ**

モジュラージャックのコネクタの向きに注意し、「カチッ」と音がするまでしっかり差し込みます。

5 **ISDN公衆電話の「データ通信」ボタンを押し、ISDN公衆電話にテレホンカードを入れる**

硬貨でもかまいません。
これで、自宅で電話コンセントにつないだときと同じ状態になりました。

■メールを送る

6 **「AVリンクメール」で、メールを送信 → サーバから切り離す、の操作をする**

操作方法は、「メールを送る」をご覧ください。(→68ページ)
サーバから切り離すと通信が終了し、テレホンカードが返却されます。モジュラーケーブルを取り外してください。

もっと教えて

●ファイルを添付してメールを送るには、下記の方法もあります。
・「AVリンクメール」でメール作成中に ボタンをタップして、添付したいファイルを選択します。ファイル形式にかかわらず添付できます。
・「AVリンクメール」でメール作成中に などのPlug Inボタンをタップして、添付したいファイルをその場で作ります。

携帯電話・PHSでメールの送信と受信を一度に行う

接続〜送信〜受信〜切断までを一度の操作で行う

サーバに接続 → メールを送る／受け取る → サーバから切り離す　の一連の操作を自動的に行うこともできます。ここでは、携帯電話を使ってメールの送受信をしてみます。

■メールを書く

1 「AVリンクメール」で[新規作成]ボタンをタップし、メールを書く

操作方法は、「メールを書く」をご覧ください。(→66ページ)

■携帯電話につなぐ

2 PDC/PHSコネクタにPDC接続ケーブルを差し込み、携帯電話につなぐ

3 携帯電話の電源を入れる

PDC接続ケーブル(別売)のコネクタの向きに注意し、「カチッ」と音がするまで、しっかり差し込みます。(→116ページ)

■メールを送る／受け取る〜電話回線を切る

4 [メール送受信]ボタンをタップする

「サーバ接続」ダイアログに接続先の一覧が表示されます。

5 「サーバ接続」ダイアログで接続先を選び、「ダイアルアップ接続」ダイアログで「ユーザー名」「パスワード」を入力する

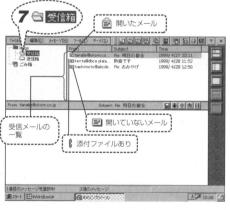
接続先は「リモートネットワーク」で登録しておいたものです。(→55ページ)
ユーザー名、パスワードはプロバイダと契約すると通知されます。不明な場合はプロバイダにお問い合わせください。

選択した接続先に電話をかけ、プロバイダのアクセスポイントのサーバに接続し、メールの送信とメールの受信をしたあと、ダイアルアップ接続を切るまで、自動的に行います。

もっと教えて

●PHS接続ケーブル(別売)を使って同様にメールの送受信ができます。
●機種によっては、InterLinkで対応していない携帯電話、PHSがあります。

■メールリストをチェックする

6 「送信箱」フォルダをタップする

送信／未送信メールの一覧が表示されます。

7 「受信箱」フォルダをタップする

受信メールの一覧が表示されます。

■携帯電話を取りはずす

8 携帯電話の電源を切って、PDC接続ケーブルを取りはずす

もっと教えて

●[メール送受信]はまず作成中のメールを送り、「送信箱」に未送信メールがあれば、すべて送信します。それから、接続先のサーバにメールが届いていれば受信します。

受信メールを読み、添付ファイルを開く

受け取ったメールを開いて、読みます。このとき、電話回線にはつなぎません。また、メールにファイルが添付されている場合、開くとファイル形式に対応したPlug Inのアプリケーションが起動されます。

■受信メールを読む

1 「AVリンクメール」で「受信箱」フォルダをタップし、受信メールの一覧で読みたいメールをタップする

画面の下側のウィンドウに、メールの内容が表示されます。画面全体にメールの内容を表示させるときは、メールをダブルタップするか、画面右側の ボタンをタップします。

■添付ファイルを開く

2 [添付ファイル]マークをダブルタップする

メールに添付ファイルがある場合は、受信ウィンドウの下に[添付ファイル]マークと添付ファイル名が表示されます。

添付ファイルの形式に合ったPlug Inが起動され、画面下側にマルチメディアウィンドウが開きます。

・拡張子が bmp, jpg, gif：「画像ビューワ」が起動されます。画像が大きい場合、[拡大] ボタンをタップするとPocket Internet Explorerが起動され、静止画を表示します。

・拡張子が jmm：「ビデオプレーヤー」が起動され、動画／音声が再生されます。

・拡張子が mid：「ソフトシンセプレーヤー」が起動され、音楽が再生されます。

左図は、「ソフトシンセプレーヤー」が起動された例です。

■添付ファイルを保存する

3 **Altキーを押しながら[添付ファイル]マークをタップする**

ポップアップメニューが表示されます。

4 **[名前を付けて保存]をタップする**

「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。

5 **保存するときのファイル名を入力して、[OK]をタップする**

保存するフォルダを選択したり、新規に作成することも選択できます。

詳しい操作手順は、ヘルプをご覧ください

メール作成で便利な方法

■アドレス帳を作る

名前とメールアドレスをアドレス帳に登録することで、メール作成時にメールアドレスを入力する手間が省け、アドレスの入力ミスを防ぐことができます。

あらかじめ「アドレス帳」に登録をしておく

ボタンをタップして、相手の「名前」と「アドレス」を登録します。

メールのアドレスを入力するときに、アドレス帳から選択する

メッセージの新規作成時、ボタンをタップして、メールを送りたい相手を選択します。そのあと、To >> ボタン、Cc >> ボタン、Bcc >> ボタンのいずれかを選択してタップします。

もっと教えて

●メールを受信したときに、相手のメールアドレスを自動的にアドレス帳に登録するように設定することもできます。[ツール]の[オプション]の「その他」で設定します。

■署名定型文を登録する

送信メールの最後に付ける、自分の名前や連絡先などの署名や、よく使うあいさつ文などを定型文として登録しておくことができます。プライベートや仕事用など、複数登録して、メールの内容に応じて使い分けると便利です。

「署名定型文」をあらかじめ登録しておく

[ツール]の[オプション]の「署名定型文」で登録します。

メールのメッセージを入力するときに、登録した署名定型文から選択する

署名定型文を挿入したい場所にカーソルを移動し、署名定型文ボックスで署名を選択してボタンをタップします。

メール送信で便利な方法

■宛先は「To:」「Cc：」「Bcc：」を使い分けて

同じ内容のメールを何通も作らなくても、複数の相手に同時にメールを送信することができます。送信ウインドウでメールを作成するとき、「To:」や「Cc:」、「Bcc:」欄をタップして、アドレスを入力します。

To: 宛先

アドレスを「,」（カンマ）で区切って、複数入力することができます。

例）**To**: chiba@xxxx.or.jp,fukushima@xxxx.ne.jp,miyazaki@xxx.ac.jp

Cc: カーボンコピー

直接用件がある人ではないが、メールのコピーを送っておきたい人のアドレスを入力します。一人でも、複数でも入力できます。

例）**Cc**: oosaka@xxxx.co.jp,fukuoka@xxxx.ne.jp

Bcc: ブラインド・カーボンコピー

直接用件がある人ではないが、メールのコピーを送っておきたい人のアドレスを入力します。Cc:との違いは、Bcc:を送ったことがTo:やCc:の人たちにはわからないことです(隠す、見えなくする=blind)。一人でも、複数でも入力できます。

例）**Bcc**: kumamoto@xxx.ac.jp,yamaguchi@xxxxx.or.jp

●アドレス帳からアドレスを選択するとき、To»ボタンやCc»ボタンBcc»ボタンをタップすると、選択したアドレスが「To:」「Cc:」「Bcc:」欄のうち指定の場所に表示されます。

■未送信メールを「送信箱」にためて、一気に送信する

メールを書くたびに送信しなくても、メールを保存しておいて、何通かたまった時点で送信することができます。また、すぐに送信せずに保存しておけば、後で書き直したりできるので便利です。未送信メールは「送信箱」に保存されます。

作成したメールを保存する

メールを作成したあと、[ファイル]の[未送信メールとして保存]をタップします。または、メールの作成中に送信ウィンドウを閉じると、未送信メールとして保存するか確認のメッセージが表示されます。

↓

未送信メールを「送信箱」にためて、一気に送信する

「送信箱」のメールリストで未送信メールをタップすると、未送信メールの内容が送信ウィンドウに表示されます。修正するなどして、未送信メールがすべて送れる状態になったら、送信します。

作成中のメールも、送信箱の未送信メールもすべて送信されます。

メール受信で便利な方法

■テーマ別にフォルダを作って整理する

「受信箱」「送信箱」以外にフォルダを作っておくと、メールの内容別に保存することができるので、もう一度読みたいメールを探すときに役に立ちます。

フォルダを作成する

[ファイル]の[フォルダの作成]をタップして、新規にフォルダを作ります。フォルダ名にはわかりやすい名前を付けます。

メールを選択し、フォルダに移動させる

リストウィンドウで、作成したフォルダにメールをドラッグすると、移動できます。複数のメールを選択してドラッグした場合は、動かすときにマークが表示されます。

■タイトルや差出人でメールを振り分けて整理する

メールを受信したとき、特定のフォルダに自動分類することができます。たとえば、「Subject:」に「会議」という文字が含まれているメールは「仕事」フォルダに移動する、といったことができます。

「振り分け」の設定をする

[ツール]の[オプション]の「振り分け」で設定します。いつ振り分けるかと、振り分けの条件を指定します。
例）「Subject:」に「会議」という文字が含まれているメールは「仕事」フォルダに移動する場合、振り分け条件は下記のようになります。
　「対象ヘッダ」：Subject:
　「移動先」：仕事フォルダ
　「検索文」：会議

自動的に振り分けられる

設定によって、受信時または、読んだあと、「AVリンクメール」の終了時のいずれかに振り分けられます。

4章
画像を楽しもう

実践

デジタルスチルカメラの画像でアルバムを作る

Album 「ピクチャーアルバム」でデジタルスチルカメラ画像を取り込む

デジタルスチルカメラで撮った画像を、InterLinkに取り込んでみましょう。ここでは、コンパクトフラッシュカードに画像データを保存できるデジタルスチルカメラの例で説明します。

■コンパクトフラッシュカードから画像を取り込む

1 InterLinkの電源を切る

2 画像が保存されているコンパクトフラッシュカードをコンパクトフラッシュカードスロットに入れる

向きに注意して、スロットの奥のコネクタに固定されるまで、押し込みます。
詳しくは「コンパクトフラッシュカードの入れ方/取り出し方」をご覧ください。(→129ページ)

3 イチ押しキーの「Album」を押す

「ピクチャーアルバム」が起動されます。
電源を入れて、デスクトップの「ピクチャーアルバム」アイコンをダブルタップしても起動できます。

4 画面左側のツリー表示で、メモリカードのフォルダをタップする

コンパクトフラッシュカードに保存されている画像が、アルバム状に表示されます。

もっと教えて

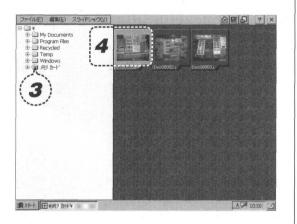
●静止画は、USBキャプチャーカメラ(別売)やIrTran-P対応のデジタルスチルカメラ、JLIP対応のビデオ機器からも取り込めます。

■画像を保存する

4 保存する画像の、ファイル名以外の部分をタップする

画像のフレームが明るくなります。これが選択された状態です。
複数の画像を選択するときは、繰り返しタップします。

もっと教えて

●画像のファイル名の部分をタップすると、画像情報が表示されます。ファイル名以外の部分をタップすると、その画像を選択できます。

5 [編集]をタップし、[コピー]をタップする

選択した画像をコピーします。

6 画面左側のツリー表示で、Tempフォルダをタップする

Tempフォルダを開きます。

7 [編集]をタップし、[貼り付け]をタップする

選択した画像がTempフォルダにコピーされます。

もっと教えて

●ここでは画像のコピー先をTempフォルダにしましたが、他のフォルダでもかまいません。

詳しい操作手順は、ヘルプをご覧ください

静止画の取り込み方いろいろ

下記の3種類の機器を接続して、「スチルキャプチャー」「ピクチャーアルバム」「ピクチャーパレット」で静止画を取り込むことができます。

・赤外線画像通信対応（IrTran-P準拠）のデジタルスチルカメラ　・JLIP対応のビデオ機器
・USBキャプチャーカメラ(別売)

取り込み機器とInterLinkを接続して、取り込み可能な状態へ

機器	操作
赤外線画像通信対応デジタルカメラ	赤外線ポート同士を真正面に向き合わせる→転送状態にする
JLIP対応ビデオ機器	拡張コネクタに付属のシリアルケーブルとJLIPケーブルで接続する→一時停止状態にする
USBキャプチャーカメラ	USBコネクタに取り付ける→撮影状態にする

詳しくは「他の機器と接続する」をご覧ください。(→113ページ)

静止画を取り込む機器を選択して、取り込み開始

「スチルキャプチャー」の[ファイル]の[取り込み機器の選択]で、下記のように機器を選択します。

機器	選択
赤外線画像通信対応デジタルカメラ	IrTran-P
JLIP対応ビデオ機器	JLIP
USBキャプチャーカメラ	USBキャプチャーカメラ

それから[ファイル]の[画像取り込み]を選択します。

もっと教えて

●デジタルスチルカメラで撮影してスマートメディアやコンパクトフラッシュカードに保存した画像は、「ピクチャーアルバム」と「ピクチャーパレット」で読み込むことができます。「スチルキャプチャー」では読み込むことができません。

「ピクチャーアルバム」で便利な方法

■順序を入れ替える

保存した画像の順序を日付け順や名前順に並べ替えたり、好きな順序に入れ替えることができます。日付順や名前順の並べ替えは、[編集]の[並べ替え]で行います。好きな順序に入れ替えるには、下記のように操作します。

移動したい画像をタップし、移動先の画像の前にドラッグする

移動先を確定する

移動先が赤いカーソルで表示されたら、スタイラスを画面から離します。
複数の画像を一度に移動する場合は、画像のタップをくり返して選択した状態にしてから、上記の操作をします。

■画像をフォルダに整理する

取り込んだ画像の数が増えてしまったときに、どのファイルがどの写真なのかすぐにわかるように、フォルダを作って整理することをおすすめします。

フォルダを作成する

[ファイル]の[新規フォルダ作成]をタップします。

画像をフォルダにドラッグする

■スライドショウを作る

表示されているアルバムに並んでいる順序にしたがって、画像をスライドのように順次表示することができます。

表示させたい画像が入っているフォルダを選択する

スライドショウを始める

[スライドショウ]の[実行]をタップします。
パソコンなどの外部ディスプレイに接続して、スライドショウを表示させることもできます。

写真にいたずら書きをする

「ピクチャーアルバム」から「ピクチャーパレット」へ

「ピクチャーアルバム」から「ピクチャーパレット」を起動して、選択した画像に文字を入れたり、修正したりすることができます。

■「ピクチャーアルバム」から「ピクチャーパレット」へ

1 「ピクチャーアルバム」で、選択する画像のファイル名以外の部分をタップする

画像のフレームの部分が明るくなります。これが選択された状態です。

2 [パレット]ボタンをタップする

選択した画像が「ピクチャーパレット」の画面に表示され、編集の操作をすることができます。

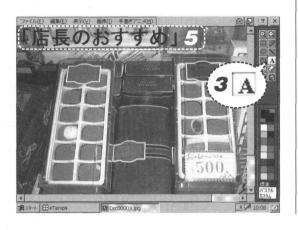
「ピクチャーパレット」についての詳細は、オンラインマニュアルの「ヘルプ」を参照してください。

■「ピクチャーパレット」で文字や線画を書き足す

3 「ピクチャーパレット」で、ツールボックスの[テキスト]ボタンをタップする

「文字入力」ダイアログが表示されます。

4 「文字入力」ダイアログに文字を入力し、[OK]をタップする

5 画面上の適当な場所をタップし、希望の場所へドラッグする

タップすると文字枠だけが表示されるので、希望の場所まで動かし、スタイラスを離すと文字列が表示されます。

■画像を保存する

6 [ファイル]をタップし、[名前を付けて保存]をタップする

「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。

7 「名前を付けて保存」ダイアログにファイル名を入力し、[OK]をタップする

いたずら書きをしたので、元の画像とは別の名前で保存します。

8 [×]ボタンをタップする

「ピクチャーパレット」を終了し、元の「ピクチャーアルバム」に戻ります。

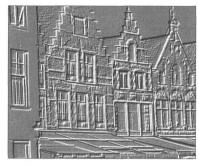
もっと教えて

- ●写真が何枚もあるときは、操作手順 1 ～ 8 を繰り返し操作します。
- ●編集した画像を元の画像に上書きしてよい場合は、[ファイル]の[上書き保存]をタップします。
- ●イチ押しキーやデスクトップ、[スタート]メニューから「ピクチャーパレット」を起動した場合は、[×]ボタンをタップするとデスクトップに戻ります。

「ピクチャーパレット」で便利な方法

■さまざまな画像処理で変化を楽しむ

画像の色や明るさを変えたり、向きや大きさを変えたり、トリミングしたりするほか、シャープにする／ぼかす／モザイク模様にする／浮き彫り(エンボス)にするなどの効果を楽しむことができます。

人物写真をトリミングした例

建物写真をエンボス加工した例

■手書きアニメーションを作る

画像に文字や図形を描くと、描いた順に記録され、あとでアニメーションのように表示することができます。

アニメーションを作る

[手書きアニメ]の[作成開始]をタップすると、記録が開始されます。画像に文字や図形を描いてください。終わるときは、[手書きアニメ]の[作成終了]をタップします。

アニメーションを見る

[手書きアニメ]の[プレビュー]をタップすると、記録されたアニメーションが表示されます。

USB キャプチャーカメラで動画を録る

V-Cap 「ビデオキャプチャー」で画像を取り込む

USB キャプチャーカメラ(別売)と、内蔵のマイク(標準装備)を使って録った画像と音声を、動画にしてみましょう。

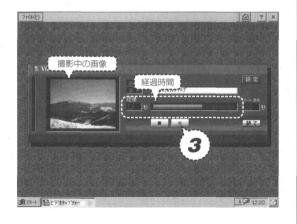
■ USB キャプチャーカメラから画像を取り込む

1 InterLinkにUSBキャプチャーカメラを取り付ける

レンズに触らないように注意して、被写体の方に向けます。
詳しくは「USB キャプチャーカメラを取り付ける」をご覧ください。(→118ページ)

2 イチ押しキーの「V-Cap」を押す

「ビデオキャプチャー」が起動されます。

3 [録画]ボタンをタップする

撮影中の画像が画面に表示され、録画/録音が始まります。経過時間は、数字とグラフで表示されます。20秒経過すると自動的に停止し、編集モード画面に切り替わります。

もっと教えて

●工場出荷時は、最長の20秒録画/録音すると自動的に停止するようにセルフタイマーが設定されています。セルフタイマーの時間は[設定]ボタンで変更することができます。また、セルフタイマーの時間よりも早く停止させたいときは録画中に[停止]ボタンをタップします。

次ページにつづく

■取り込んだ画像を確認し、保存する

4 [再生]ボタンをタップする

再生や巻き戻しは、一般のビデオ機器の感覚で操作できます。

再生する：▶
一時停止する：❚❚
先頭まで戻る：◀◀
最後まで送る：▶▶
1コマ進める：▶❙
1コマ戻す：❙◀

録画／録音した内容が再生され、確認することができます。再生中、経過時間を知らせるバーに現在位置が青い線で表示されます。

5 「タイトル」欄をタップし、動画のタイトルを入力する

タイトルを付けないと、動画データの作成ができません。

6 [作成]ボタンをタップする

動画ファイルとして保存した後、前ページの画面に戻ります。必要ならば、録画をやり直してください。

7 [終了]ボタンをタップする

「ビデオキャプチャー」を終了します。

もっと教えて

●取り込んだ画像の前後に不要な部分があった場合は、カット編集することができます。[IN]ボタンや[OUT]ボタンをタップして黄色の▲マークをずらすと、赤いバーで表示された部分が保存され、その前後はカットされます。
●保存した動画をメールに添付して送るときは、[メール]ボタンをタップします。新規作成メールに動画ファイルを添付した状態になりますので、宛名とタイトル、メッセージを入力して、送信します。

知っていると便利　詳しい操作手順は、ヘルプをご覧ください

画像／音声だけを録りたいとき

「ビデオキャプチャー」は、画像と音声を同時に録画/録音します。設定を変えると、画像だけ録画したり、音声だけ録音したりすることができます。

録画／録音の設定を変更する

[設定]ボタンをタップして、画像または音声のどちらか取り込みたい方にのみ を付けます。

録画／録音を始める

[録画]ボタンをタップすると、録画／録音が始まります。

[音声]がグレー表示のときは、音声は録音されていません。[画像]がグレー表示のときは、画像は録画されていません。

動画／音声の再生いろいろ

■「ビデオキャプチャー」で録って、すぐに再生する

「ビデオキャプチャー」で撮影すると、画面が自動的に編集モードに切り替わります。この編集モード画面で動画を再生したり、一時停止したり、巻き戻してもう一度再生したりすることができます。

なお、この編集モードは録画／録音内容を確認し、編集するための画面です。動画を保存したら、「ビデオプレーヤー」で再生してください。

■「ビデオプレーヤー」で動画ファイルを再生する

「ビデオプレーヤー」を起動して、[開く]ボタンをタップします。「開く」ダイアログで動画ファイルを選択し、[再生]ボタンをタップすると、動画が再生されます。再生や一時停止などの操作は、「ビデオキャプチャー」と同じです。

作った画像をメールで送る

「ピクチャーアルバム」から「AVリンクメール」へ

保存した画像をメールで送ってみましょう。複数の画像を同時に送ることができます。

■「ピクチャーアルバム」で画像を選択する

1 「ピクチャーアルバム」で、送る画像が保存されているフォルダをタップする

選択したフォルダが開きます。

2 送る画像のタップを繰り返す

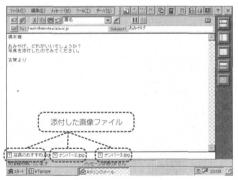
すべての画像を選択する場合は、[編集] の「全ての画像を選択」をタップします。

3 [メール]ボタンをタップする

「AVリンクメール」の画面に切り替わり、送信ウィンドウが表示されます。

■「AVリンクメール」でメールを送る

4 「AV リンクメール」の送信ウィンドウで、相手のメールアドレスとメッセージを入力する

選択した画像を新規メールに添付した状態になっていますので、宛先とメッセージを入力すれば、メールを送ることができます。

このあとは、電話回線につないで、メールを送信します。詳しい操作手順については、「メールにファイルを添付して公衆電話から送る」をご覧ください。(→ 72ページ)

もっと教えて

●画像を添付すると、メールの容量が大きくなりがちです。めやすとして、添付する画像は最大500KB程度まで（jpgファイル5～6枚程度）にしましょう。それ以上の容量になると通信時間が長くなり、通話料が余計にかかってしまいます。

●ファイルを添付してメールを送るとき、必ずメッセージを入れるよう心がけましょう。メッセージなしメールの添付ファイルは、受け取る人を不安にさせます。

詳しい操作手帳は、ヘルプをご覧ください

静止画をメールで送る方法

送信メールに静止画ファイルを添付するには、下記の2種類の方法があります。

■静止画のアプリケーションから「AVリンクメール」へ

「スチルキャプチャー」「ピクチャーアルバム」「ピクチャーパレット」で静止画を作成して保存する

「スチルキャプチャー」「ピクチャーアルバム」の場合は、送る静止画をタップして選択します。「ピクチャーパレット」の場合は画面に表示されている静止画が送られます。

「AVリンクメール」を起動し、宛名とメッセージを入力して、送信する

[メール]ボタンをタップすると新規作成メールに静止画ファイルを添付した状態になりますので、宛名とタイトル、メッセージを入力します。入力完了後、[送信]ボタンをタップします。

■「AVリンクメール」で静止画を選択する

「AVリンクメール」で、メールを作成する

[新規作成]ボタンをタップし、宛名やタイトル、メッセージを入力します。

ファイルを添付して、送信する

[ファイル添付]ボタンをタップすると「開く」ダイアログが表示されるので、送りたい静止画ファイルをタップします。静止画ファイルを添付した状態になりますので、[送信]ボタンをタップします。

動画をメールで送る方法

動画ファイルを「AVリンクメール」で送信するには、下記の3通りの方法があります。

■動画のアプリケーションから「AVリンクメール」へ

「ビデオキャプチャー」で動画を作成して保存するか、「ビデオプレーヤー」で動画を選択する

「ビデオキャプチャー」の場合は、録画／録音後の編集モード画面の動画が送られます。「ビデオプレーヤー」の場合は、選択して画面に表示されている動画が送られます。

「AVリンクメール」を起動し、宛名とメッセージを入力して、送信する

[メール]ボタンをタップすると新規作成メールに動画ファイルを添付した状態になりますので、相手のメールアドレスとタイトル、メッセージを入力します。入力完了後、[送信]ボタンをタップします。

■「AVリンクメール」で動画を選択する

「AVリンクメール」でメールを作成する

[新規作成]ボタンをタップし、相手のメールアドレスやタイトル、メッセージを入力します。

ファイルを添付して、送信する

[ファイル添付]ボタンをタップすると「開く」ダイアログが表示されるので、送りたい動画ファイルをタップします。動画ファイルを添付した状態になりますので、[送信]ボタンをタップします。

もっと教えて

● [設定]ボタンを押して「Windows用プレーヤーを添付」「Windows用実行ファイル作成」に[チェックマーク]することにより、Windows環境で動画を見ることができます。詳しくはヘルプファイルをご覧ください。なお、これらのボタンはメールで送るときのみ有効です。

■「AVリンクメール」で動画を作って送る

「AVリンクメール」で、メールを作成する

[新規作成]ボタンをタップし、宛名やタイトル、メッセージを入力します。

↓

Plug Inの「ビデオキャプチャー」を起動して、動画を作る

[ビデオキャプチャー]ボタンをタップすると、Plug Inの「ビデオキャプチャー」が起動されます。USBキャプチャーカメラ（別売）を取り付けて、録画／録音をします。

↓

「AVリンクメール」で、動画ファイル付きのメールを送信する

Plug Inの「ビデオキャプチャー」で[終了]ボタンをタップすると、「AVリンクメール」のメール作成の画面に戻ります。[送信]ボタンをタップします。

注意

Plug Inの「ビデオキャプチャー」の起動された状態で、×をクリックしてAVリンクメールを終了しないでください。

メールで静止画/動画が届いたら

ファイルが添付されているメールが届いた場合は、「AVリンクメール」でそのメールを開いたとき、受信ウィンドウの下に添付ファイルマークとファイル名が表示されます。

添付ファイルを開く

[添付ファイル]マークをダブルタップすると、添付ファイルの形式に応じてPlug Inが起動されます。 たとえば「.jpg」という拡張子のファイルなら「画像ビューワ」が、「.jmm」という拡張子のファイルなら「ビデオプレーヤー」が起動されます。（→77ページ）

添付ファイルを保存する

Altキーを押しながら添付ファイルをタップすると、ポップアップメニューが表示されます。「名前を付けて保存」をタップすると「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、ファイル名を入力して保存することができます。

5章
音を楽しもう

実践

MIDI 演奏を聴く

ソフトシンセプレーヤーで音を楽しむ

内蔵されている GM 音源で MIDI ファイルを再生します。

1 **イヤホンマイクで聴く場合は、イヤホンマイクジャックに差し込む**

ビクター製のイヤホンマイクをお勧めします。(→ 160 ページ)

2 **デスクトップの[ソフトシンセプレーヤー]アイコンをダブルタップする**

ソフトシンセプレーヤーが起動されます。

3 **[開く]ボタンをタップする**

「開く」ダイアログが表示されます。

4 **聴きたい MIDI ファイルをタップし、[OK]ボタンをタップする**

MIDIファイルが読み込まれ、ソフトシンセプレーヤーに MIDI ファイル名とトータル時間が表示されます。MIDI ファイルに曲名が設定されている場合は、曲名も表示されます。

注意

イヤホンマイクジャックは 3 極のイヤホンマイク専用です。故障の原因となりますので、 3 極以外のイヤホンマイクを使わないでください。

5 [再生]ボタンをタップする

再生や停止は、一般のオーディオ機器の感覚で操作できます。

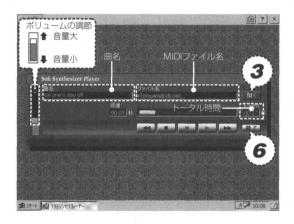
再生する　：

一時停止する：

停止する　：

早戻しする　：

早送りする　：

選択したMIDIファイルが再生されます。

6 「ソフトシンセプレーヤー」を終了するときは[終了]ボタンをタップする

もっと教えて

●読み込んだMIDIファイルをメールに添付して送るときは ボタンをタップします。新規作成メールにMIDIファイルを添付した状態になりますので、宛名とタイトル、メッセージを入力して、送信します。

詳しい操作手順は、ヘルプをご覧ください

メールでMIDIファイルが届いたら

ファイルが添付されているメールが届いた場合は、「AVリンクメール」でそのメールを開いたときに、受信ウィンドウの下にマークとファイル名が表示されます。

添付ファイルを開く

マークをダブルタップすると、添付ファイルの形式に応じて、Plug Inが起動されます。
たとえば、「.mid」という拡張子のファイルなら「ソフトシンセプレーヤー」が起動されます。（GM音源対応のデータであれば再生します）

添付ファイルを保存する

Altキーを押しながら添付ファイルをタップすると、ポップアップメニューが表示されます。「名前を付けて保存」をタップすると「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、ファイル名を入力して保存することができます。

ラップで楽しむ

「ラップンボイス」は、「アディ」という女の子が文字にメロディーを付けて歌うアプリケーションです。「ラップンボイス」で入力した文字や、テキストファイルから読み込んだ文字、「AVリンクメール」で受信したメッセージを歌うことができます。

歌う文字を準備する 下記の3つの方法のうち、いずれかの操作をします

■アディのうしろの白い壁をタップして、文字を入力します。
■[ファイル]の[ファイルを開く]を選択し、読み込むテキストファイルを選択します。
■「AVリンクメール」で受信メールをタップして、受信ウィンドウにメッセージを表示させたあと、ボタンをタップします。

歌い始める

まずネオンの下をタップして、曲を選びます。それから、ラジカセのボタンをタップするか、アディをタップします。

ポータブル MD レコーダーをつないで楽しむ

MD の演奏 / 録音 / 編集をする

ビクター製のポータブルMDレコーダーXM-R70をInterLinkに接続すると、InterLinkからMD（MiniDisc）の演奏、録音、編集などのコントロールをすることができます。

1 付属のシリアルケーブルを使って、PCアダプター経由でInterLinkにポータブルMDレコーダーを接続し、MDをセットする

ビクター製のポータブルMDレコーダーXM-R70(別売)をお使いください。PCアダプターAC-XR1は別売です。録音する場合は、ポータブルMDレコーダーの入力端子にマイクや他のオーディオ機器の出力端子を接続します。詳しくは「ポータブルMDレコーダーをつなぐ」をご覧ください。（→122ページ）

2 デスクトップの[MDコントローラー]アイコンをダブルタップする

MDコントローラーが起動されると、TOC（曲情報）が読み込まれて表示されます。MDレコーダーの電源がオンになったとき、演奏が開始されることがあります。他の操作をする場合は、停止してから行ってください。

3 操作したいボタンをタップする

演奏する	：II/▶
一時停止する	：II/▶
停止する	：■
曲の先頭に戻る	：I◀◀
次の曲の先頭に進む	：▶▶I
録音する	：●

トラックをタップすると、演奏が始まります。

もっと教えて

●MDからデータ読み込み中は、異常動作をする可能性があるため、シリアルケーブル等をはずさないでください。
●演奏中の音量や録音レベルはMDレコーダーで調節します。
●演奏中に I◀◀ または ▶▶I をスタイラスで押し続けると、早戻しまたは早送りをします。
●プレイモード（NORMALまたはRANDOM）は、MDを演奏する前に切り替えておく必要がありますが、リピート演奏は演奏中でも切り替えることができます。
●録音するときは ● をタップしてから II/▶ をタップします。
●MDレコーダーの電源がオンになってもMDコントローラーの表示が電源オフの状態の場合は[POWER]ボタンをタップしてください。

■タイトルを入力する

4 タイトルを入力したいトラックの[EDIT]ボタンをタップする

TITLE EDITダイアログが表示されます。

5 タイトルを入力し、[決定]をタップする

半角の英数字や半角カタカナは上段のボックスに、全角の漢字やひらがなは下段のボックスに入力します。
MDにはどちらも記録されますが、MDレコーダーのディスプレイには上段のボックスに入力されたタイトルが表示されます。

■「MDコントローラー」を終了する

6 [POWER]ボタンをタップする

MDレコーダーの電源をオフにします。

7 [×]ボタンをタップする

「MDコントローラー」を終了します。

8 MDを取り出すときは、MDレコーダーの電源をオフにするか、[UPDATE]ボタンをタップしてから取り出す

もっと教えて

●MDのディスクタイトルを入力するときは、画面上部にある[EDIT]ボタンをタップします。
●トラックの順序を入れ替えるときは、移動したいトラックを移動先のトラックの前にドラッグします。移動先が決まったら、スタイラスを画面から離します。
●トラックを削除/結合するときは、[ERASE]/[JOIN]ボタンをタップしてからトラックを選択します。
●トラックを分割するときは、そのトラックの演奏中に[DEVIDE]ボタンをタップします。
●[SAVE]ボタンをタップすると、タイトル情報をCSV形式のファイルに保存できます。CSV形式とは、多くのデータベースで読み込むことができるファイル形式です。

知っていると便利 詳しい操作手順は、ヘルプをご覧ください

MDのタイトル情報をラベルに印刷する

MDタイトルとトラックタイトルをラベル用紙に印刷することができます。

タイトル情報を「MDコントローラー」から「ラベル編集画面」に送る

「MDコントローラー」で LABEL ボタンをタップし、印刷に使うラベルの大きさを選択します。「ラベル編集画面」が起動され、画面にMDタイトルとトラックタイトルが表示されます。

自由に編集して、印刷する

「ラベル編集画面」で、色を付けたり図形を描いたりして自由に編集を加えます。編集が終わったらプリンタ*の準備をして、[ファイル] の [送る]、[IrTran-P]でプリンタへ画像を送り、印刷します。

*ポケットビデオプリンタGV-HT1、デジタルダイレクトプリンタGV-DT1、デジタルダイレクトビデオプリンタGV-DT3と指定のラベル用紙を推奨します。

5 音を楽しもう

もっと教えて

● 「ラベル編集画面」の画像操作は、「ピクチャーパレット」(→86ページ) と同じです。
「ピクチャーパレット」についての詳細は、オンラインマニュアルの [ヘルプ] を参照してください。

6章
その他の便利な使い方

活用

よく使うアプリケーションをイチ押しキーに登録する

「イチ押しキー設定」を使う

よく使うアプリケーションをキーボード右上のイチ押しキーに登録しておくと、1回押すだけの操作で起動でき、便利です。イチ押しキーへの登録や登録の取り消しは、「コントロールパネル」の「イチ押しキー設定」で行います。
なお、イチ押しキーに登録されているアプリケーションの種類や、イチ押しキーでの起動のしかたについては、「イチ押しキーで起動する」をご覧ください。(→ 42 ページ)

起動する：

[スタート]メニューから、[設定]、[コントロールパネル]をタップし、「イチ押しキー設定」アイコンをダブルタップします。

・画面に表示されるキーは、イチ押しキーと同じ配列になっています。
色付きで表示されているキーにアプリケーションを登録することができます。グレー表示のキーには登録できません。登録可能なキーは7個ですが、[+Shift] [+Ctrl] との組み合わせで、19種類登録できます。
・[+Shift] をタップしている間、画面の表示が変わります。キーボードで[Shift]キーを押しながらイチ押しキーを押したときに起動されるアプリケーションを登録します。
・[+Ctrl] をタップしている間、画面の表示が変わります。キーボードで[Ctrl]キーを押しながらイチ押しキーを押したときに起動されるアプリケーションを登録します。

もっと教えて

●イチ押しキーによく使うファイルを登録すると、イチ押しキーを押すことによってアプリケーションが起動し、そのファイルが開きます。

登録する：

イチ押しキー設定の画面上の、アプリケーションを登録したいイチ押しキーをタップします。[参照]ボタンをタップすると「設定するファイル」のダイアログが表示されるので、さらに下のフォルダにある登録したいアプリケーションをタップして、[OK]ボタンをタップします。。

登録を変更する：

イチ押しキー設定の画面上の、アプリケーションを登録し直したいイチ押しキーをタップします。[参照]ボタンをタップして、上記「登録する：」と同様に登録し直したいアプリケーションをタップして[OK]ボタンをタップすると、登録を変更することができます。

登録を取り消す：

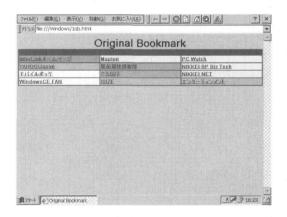
イチ押しキーへの登録内容を取り消すとは、何も登録されていない状態にするということです。そのイチ押しキーを押しても、何も起動されなくなります。
イチ押しキー設定の画面上の、アプリケーションの登録を取り消したいイチ押しキーをタップします。[消去]ボタンをタップすると、登録内容が（なし）と表示され、登録を取り消すことができます。

Webページをわかりやすく表示する

「オリジナルブックマーク」を使う

InterLinkでは、「Pocket Internet Explorer」を使って、インターネットのWebページを閲覧できます。気に入ったページのアドレス(URL)を「お気に入り」に登録すると、次回、手軽に同じページを表示することができます。この「お気に入り」をさらに使いやすくするのが、「オリジナルブックマーク」ユーティリティです。

起動する：

イチ押しキーの「BookMark」を押すか、[スタート]メニューから、[プログラム]、[InterLinkユーティリティ]、[オリジナルブックマーク]を順にタップします。「Pocket Internet Explorer」の画面に、「オリジナルブックマーク」のパネルが表示されます。

登録する：

見たいWebページを表示して、「Pocket Internet Explorer」の[お気に入り]メニューで1obフォルダにWebページのURLを登録すると、「オリジナルブックマーク」のパネルに表示されます。

お気に入りのページを表示する：

「オリジナルブックマーク」のパネルで、見たいWebページのタイトルをタップします。

もっと教えて （オリジナルブックマークの編集）

●雑誌などに載っていたWebページのURLを登録したり、登録したURLを修正・削除したりするときは、インターネットにつながない状態で操作できる「オリジナルブックマーク設定」ユーティリティが便利です。パネルの色を変えたり、場所を移動したりして、使いやすくアレンジすることもできます。「オリジナルブックマーク設定」ユーティリティを起動するには、[Shift]キーを押しながらイチ押しキーの「BookMark」を押すか、または[スタート]メニューから、[プログラム]、[InterLinkユーティリティ]、[オリジナルブックマーク設定]を順にタップします。

単語の意味をすぐに調べる

「クイックディクショナリー」を使う

ことばの意味がわからないとき、「クイックディクショナリー」にそのことばを入力すると、自動的に辞書から探して、意味や用例などの解説を表示します。
辞書は、和英辞典、英和辞典、漢字百科を基本にしています。調べるときに使う辞書を選択したり、用例を表示しないで意味だけ表示するように切り替えることもできます。

起動する：

デスクトップの「クイックディクショナリー」アイコンをダブルタップします。

単語の意味を調べる：

「見出し」ボックスに調べたいことばを入力するだけで意味や用例が表示されます。
「見出し」ボックス右の ▼ をタップすると、過去に調べたことばの一覧が表示されます。もう一度調べたいことばをタップすると、意味や用例が表示されます。

もっと教えて

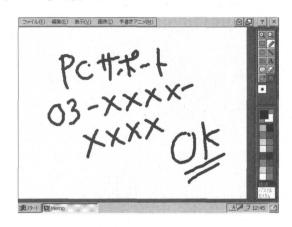
●他のアプリケーションを使っているときも「クイックディクショナリー」で意味を調べることができます。「自動モード」で操作します。操作方法については、ヘルプで「調べたい単語を、別のアプリケーションで指定する」のページをご覧ください。
●新しく辞書を登録したり、「クイックディクショナリー」の画面のボタンの色や図柄を変更するときは、「クイックディクショナリー設定」ユーティリティを使います。起動するには、[スタート]メニューから、[プログラム]、[InterLink ユーティリティ]、[クイックディクショナリー設定]をタップします。
●付属の「アプリケーション CD-ROM」に収録されている「クイックディクショナリークリエーター」を Windows 95／98／NT4.0 搭載 PC にインストールすると、CSV 形式のファイルをクイックディクショナリー用に変換して InterLink に転送することができます。転送した辞書を「クイックディクショナリー」で利用するには、「クイックディクショナリー設定」で登録します。

スタイラスですばやくメモする

「メモ機能」を使う

急いでメモをとりたいときに便利なのが「メモ機能」アプリケーションです。イチ押しキーで起動し、スタイラスを取り出して、画面に文字や絵を自由に描くことができます。重要なメモは、あとで手帳やノートに書き留めておきましょう。

起動する：

イチ押しキーの「Memo」を押します。

終了する：

× ボタンをタップします。

「このメモを保存しますか？」のダイアログで、[はい] をタップすると、メモを書いた日付のファイル名で、¥My Documents¥Memo フォルダに保存されます。

メモを表示する：

Shiftキーを押しながらイチ押しキーの「Memo」を押すと、今までに描いたメモの一覧が表示されます。(→43ページ)

顔を見ながら会話する

「ビジュアルチャッター」を使う

2台のInterLinkで、イーサネットを利用して、画像を見ながら会話を楽しむことができます。InterLinkにUSBキャプチャーカメラ（別売）を接続したときのみ利用でき、映像を取り込みます。音声はイヤホンマイク（別売）を通して送られ、相手の音声はイヤホンマイク（別売）から聞こえます。

インストールする：

「ビジュアルチャッター」は、USBキャプチャーカメラに付属のCD-ROMに収録されています。CD-ROMからInterLinkにインストールしてください。

起動する：

「ビジュアルチャッター」をインストールすると、デスクトップに「ビジュアルチャッター」アイコンが表示されます。このアイコンをダブルタップすると「ビジュアルチャッター」がメモリに常駐し、タスクバーに が表示されます。

顔を見ながら会話する：

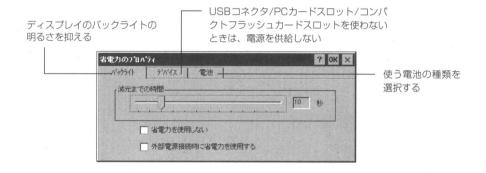
相手を呼び出し、つながると、相手と自分の画像が表示されます。画像を見ながら、会話を楽しんでください。

省電力の設定をする

「省電力」を使う

「省電力」は、InterLinkの消費電力を押さえることを目的にしたプログラムです。ACアダプターを接続して利用する場合、消費電力のことはあまり気になりません。しかし、InterLinkを持ち歩いたり、AC電源のない場所で利用する場合は、消費電力を抑える設定をして電池を長持ちさせましょう。

起動する：

[スタート]メニューから、[設定]、[コントロールパネル]をタップし、「省電力」アイコンをダブルタップします。

設定する：

[バックライト] [デバイス] [電池]のいずれかのタブをタップし、設定する項目に ☑ を付けます。

7章
他の機器と接続する

拡張

電話回線につなぐ

InterLinkにはモデムが内蔵されていますので、付属のモジュラーケーブルで電話コンセントにつなぐと、電話回線が利用できます。電話回線を利用して「AVリンクメール」でインターネットメールの送受信をしたり、「Pocket Internet Explorer」でインターネットのWebページを閲覧したりすることができます。

回線の種類を確かめる

電話回線には、プッシュホン(トーン)回線とダイヤル(パルス)回線の2種類があります。アクセスポイントに電話をかけるときに表示される「ダイヤルアップ接続」ダイアログで、［ダイヤルのプロパティ］をタップして設定します。

プッシュホン(トーン)回線：

電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がします。

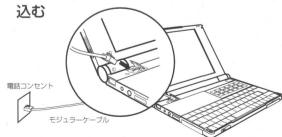
ダイヤル(パルス)回線：

ダイヤルボタンを押すと「カチカチ」と音がします。ボタンではなくダイヤルを回す電話機も、ダイヤル(パルス)回線につながっています。

電話回線につなぐ

1 モジュラージャックのカバーを開ける

2 InterLinkの電源を切った状態で、付属のモジュラーケーブルをモジュラージャックに差し込み、電話コンセントに差し込む

「カチッ」と音がするまで、しっかり差し込んでください。

3 電話回線を利用するアプリケーションを起動し、メールの送受信やWebページ閲覧などの操作をする

もっと教えて

●モジュラージャックが2つある電話機の場合は、下図のようにつなぎます。

●モジュラーコードを取り外すときは、ツメを押さえて、モジュラーケーブルを抜き取ります。

●電話コンセントには3種類の方式があります。

モジュラー式（モジュラージャック）	3ピンプラグ式（差し込み型）	直結配線方式（ローゼット電話機プレート）
そのままつなげます。	市販の3ピンプラグをお求めください。	お買いあげの販売店、またはお近くのNTT（局番なし116番）にご相談ください。

 警告

●デジタル回線やPBX（構内交換機）回線に接続しないでください。
故障や発熱・火災の原因となります。

●落雷のおそれのあるときは、モジュラーケーブルや通信用ケーブルをInterLinkから取り外してください。
火災の原因となることがあります。

■内蔵モデムに関する注意

下記の注意をお守りください。

・InterLinkと電話回線を接続するときや取り外すときは、必ずInterLinkの電源を切ってください。
・内蔵モデムは日本国内での使用を目的に設計しているため、海外では使用できません。
・ホームテレホン、ビジネスホンなどをご使用の場合、一般のNTT公衆回線と電気的条件が異なるため、そのままでは接続できません。NTTまたは電話機を購入された販売店にご相談ください。
・磁気を発するものに近づけないでください。磁気の影響を受けて通信できないことがあります。
・モジュラージャックに直接手などで触れないでください。内部の回路が静電気などによって壊れることがあります。
・通信しないときは、モジュラーコードを本機から外してください。
・一般の機器よりも高い信頼性が要求される用途には使用しないでください。

携帯電話やPHSにつなぐ

InterLinkには携帯電話やPHSで通信をするためのソフトPDCとソフトPIAFSの機能が内蔵されています。別売のPDC接続ケーブルまたはPHS接続ケーブル（→160ページ）で携帯電話またはPHSにつなぐと、電話回線を利用して「AVリンクメール」でインターネットメールの送受信をしたり、「Pocket Internet Explorer」でインターネットのWebページを閲覧したりすることができます。

使用できるのは、9600bpsデータ通信対応のデジタル携帯電話、またはPIAFSに対応したPHSのみです。ただし、PHSでのFAX送受信はできません。

1 InterLinkの電源を切った状態で、PDC接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルをPDC/PHSコネクタに差し込み、携帯電話またはPHSの通信用コネクタに差し込む

左図のようにPCカードなしで接続できる携帯電話やＰＨＳについては、InterLinkホームページ（裏表紙）の「ユーザーサポート」「接続確認機器情報」でご確認ください。

2 電話回線を利用するアプリケーションを起動し、メールの送受信やWebページ閲覧などの操作をする

3 PDC/PHS接続ケーブルを取り外す

PDC接続ケーブルの場合

左の図は、PDC接続ケーブルを取り外す場合です。携帯電話側のコネクタの左右にあるノブを押しながら、コネクタをまっすぐに引いて、外します。PHS接続ケーブルの場合は、PHS側の上面にあるノブを押しながら、コネクタをまっすぐに引いて外します。

■携帯電話／PHSに関する注意

●取り扱い上のご注意

・携帯電話のアンテナをInterLinkに近づけないでください。携帯電話の発する電波で誤動作する可能性があります。
・磁気を発するものに近づけないでください、磁気の影響を受けて通信できないことがあります。
・一般の機器よりも高い信頼性が要求される用途には使用しないでください。
・InterLinkに携帯電話やPHSを接続するときや取り外すときは、InterLinkの電源を切ってから行ってください。

●InterLinkを使用する環境について

・InterLinkに内蔵されている、携帯電話やPHSで通信をするためのモデム機能は日本国内での使用を目的に設計されていますので、海外では使用できません。
・自動車などの運転をしながら使用することは危険ですから、おやめください。
・携帯電話の使用を禁止された区域では、携帯電話を使用しないでください。航空機内では携帯電話の使用が禁止されています。また医療機関内では、医療電気機器などに影響を及ぼす場合がありますので、携帯電話の使用は各医療機関の指示に従ってください。
・携帯電話やPHSのサービスエリア外や電波状況の悪い所では通信できません。電波状況のなるべく良い状態でご使用ください。電波状況の良い場合でも、ノイズなどの影響で通信エラーになることがあります。そのような場合は、再度やり直してください。

●通信を始める前に

・携帯電話またはPHSの表示が「圏外」になっていないことを確認してください。「圏外」のときは電波が届きません。電波の届く場所まで移動してから通信をしてください。
・InterLinkおよび携帯電話またはPHSに、バッテリー交換をするよう表示されていないことを確認してください。バッテリー残量が少ない場合、通信中に急に電源が切れることがあります。長時間通信をする場合は、携帯電話またはPHSのバッテリー残量が十分な状態であり、InterLinkはAC電源に接続して使用することをおすすめします。

●通信中に

・InterLinkおよび携帯電話またはPHSから、PDC接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルを外さないでください。通信中に外れると、電話回線が接続中のままになることがあります。万一、接続中のままになった場合は、携帯電話またはPHSの電源を切ってください。
・携帯電話またはPHSのバッテリーの残量不足や電波状況によって、通信が不安定になり、切れることがあります。このような場合、電話回線が接続中のままになることがあります。万一、接続中のままになった場合は、携帯電話またはPHSの電源を切ってください。

●通信後に

・電話回線が切れるまでに、しばらく時間がかかります。通信後約10秒間は、InterLinkおよび携帯電話またはPHSから、PDC接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルを外さないでください。電話回線が切れたことを確認してから、PDC接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルを外してください。

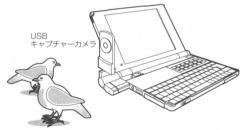
USBキャプチャーカメラを取り付ける

InterLinkに別売のUSBキャプチャーカメラを取り付けて撮影すると、「スチルキャプチャー」「ピクチャーアルバム」(→82ページ)「ピクチャーパレット」(→86ページ)で静止画を取り込んだり、「ビデオキャプチャー」(→89ページ)で動画を作ったりすることができます。またUSBキャプチャーカメラに付属の「ビジュアルチャッター」(→111ページ)で画像を見ながら会話することができます。

1 USBコネクタにUSBキャプチャーカメラを取り付ける

USBキャプチャーカメラの本機への取り付けは、カメラの取扱説明書を参照してください。
本イラストは、当社別売のUSBキャプチャーカメラ(MP-UC1)が直接接続された状態になっています。

2 カメラのレンズを被写体の方に向ける

カメラは、時計方向に210度、反時計方向に30度まで回転することができます。

3 画像を利用するアプリケーションを起動し、取り込みや録画などの操作をする

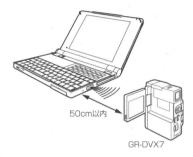
もっと教えて

●USBキャプチャーカメラには、次のような機能があります。
・動画を撮る(カメラ)。
・ビデオムービーやビデオデッキから録画済みの画像を取り込む(キャプチャー)。

赤外線通信対応のデジタルスチルカメラを使う

お手持ちの赤外線画像通信対応デジタルスチルカメラ（IrTran-P準拠）で撮影した静止画を、InterLinkの「スチルキャプチャー」「ピクチャーアルバム」「ピクチャーパレット」で取り込むことができます。

赤外線画像通信機能を利用するので、接続ケーブルは必要ありません。

1 赤外線画像通信ポートと、デジタルスチルカメラの赤外線通信ポートが真正面で向き合うように置く

50cm以内の距離で、平行に向き合う（±15度以内）ように置いてください。

2 デジタルスチルカメラを、データの転送ができる状態にする

3 画像を利用するアプリケーションを起動し、取り込みの操作をする

もっと教えて

- デジタルスチルカメラで撮った画像をスマートメディア（→127ページ）またはコンパクトフラッシュカード（→129ページ）に保存した場合、「ピクチャーアルバム」で読み込むことができます。読み込む方法は、「ピクチャーアルバム」のヘルプで「原画/画像に関する操作」→「画像を取り込む」とリンクをたどって、「デジタルスチルカメラで撮って、コンパクトフラッシュカードやスマートメディアに保存した場合」のページをご覧ください。
- ビクター製のデジタルビデオカメラGR-DVX7も赤外線画像通信に対応しており、お使いになれます。

ビデオ機器をつなぐ

JLIP対応ビデオ機器をつなぐ

InterLinkにお手持ちのJLIP対応ビデオ機器をつなぐと、「スチルキャプチャー」「ピクチャーアルバム」「ピクチャーパレット」で静止画を取り込むことができます。

1 InterLinkとビデオ機器の電源を切る

2 拡張コネクタに付属のシリアルケーブルを差し込み、市販の変換アダプターとシリアルリバースアダプターを使って、JLIP-PC接続用ケーブルでビデオ機器を接続する

左図はビクター製のデジタルビデオカメラGR-DVL7を接続した例です。
変換アダプターは、市販のD-sub9ピン（オスーオス）をお使いください。
シリアルリバースアダプターは、市販のD-sub9ピン（オスーメス）のリバースケーブルアダプターをお使いください。

3 InterLinkとビデオ機器の電源を入れる

4 ビデオ機器を、画像の再生状態にして、取り込みたい画像で一時停止状態にする

5 画像を利用するアプリケーションを起動し、取り込みの操作をする

もっと教えて

●JLIPとは、ビデオ機器やカメラなどをパソコンで操作する制御手段で、ビクターが開発した技術です。
●GR-DVL7のほか、GR-DVLでも静止画の取り込みができます。
●InterLinkではJLIP対応のビデオ機器をコントロールすることはできません。画像の取り込みのみに対応しています。

USBキャプチャーカメラ経由でビデオ機器をつなぐ

InterLinkに別売のUSBキャプチャーカメラ経由でお手持ちのビデオ機器をつなぐと、「ビデオキャプチャー」で動画を取り込むことができます。ビデオ機器はJLIP対応である必要はありません。

1 USBコネクタにUSBキャプチャーカメラを取り付け、ビデオ変換ケーブルでビデオ機器を接続する

左図はビクター製のデジタルビデオカメラGR-DVL7を、別売のUSBキャプチャーカメラMP-UC1に付属の変換ケーブルで接続した例です。(→160ページ)
ビデオムービーのほか、ビデオデッキも接続できます。

2 ビデオ機器を、画像の再生状態にする

InterLinkの音声入力は、イヤホンマイクジャックからの一系統(モノラル)だけです。そのため付属のオーディオ変換ケーブルを使ってステレオ信号をモノラル信号に変換しています。

3 「ビデオキャプチャー」を起動し、取り込みの操作をする

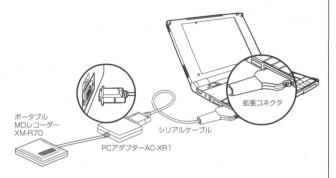
ポータブルMDレコーダーをつなぐ

InterLinkにビクター製のポータブルMDレコーダーXM-R70をつなぐと、「MDコントローラー」でMDの演奏/録音/編集ができます。
使用できるポータブルMDレコーダーは、XM-R70のみです。他のMDプレーヤー/MDレコーダーは接続できません。

1 拡張コネクタに付属のシリアルケーブルを差し込み、PCアダプター経由でポータブルMDレコーダーを接続する

PCアダプターAC-XR1と、ポータブルMDレコーダーXM-R70は別売です。

2 MDをセットする

ポータブルMDレコーダーの電源のオン/オフは「MDコントローラー」からでも操作できます。

3 「MDコントローラー」を起動し、演奏／録音／編集の操作をする

「MDコントローラー」については101ページをご覧ください。

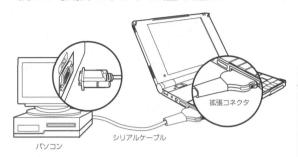
もっと教えて

●録音する場合は、ポータブルMDレコーダーの入力端子にマイクや他のオーディオ機器の出力端子を接続します。ポータブルMDレコーダーXM-R70の取扱説明書をご覧ください。
●ポータブルMDレコーダーとPCアダプターを取り外すときは、「MDコントローラー」を終了し、ポータブルMDレコーダーの電源が切れたことを確認してから取り外してください。

パソコンにつなぐ

「Windows CEサービス」がインストールされているパソコンにInterLinkを接続すると、InterLinkからパソコン上のプログラムやデータを利用することができます。

「Windows CEサービス」は、付属の「デスクトップソフトウェア for Microsoft® Windows®CE CD-ROM」からインストールします。（→62ページ）

1 パソコンに付属のシリアルケーブルを接続し、拡張コネクタに差し込む

2 パソコンで、プログラムやデータをやり取りできる状態にする

3 パソコンまたはInterLinkで、プログラムやデータのやり取りのための操作をする

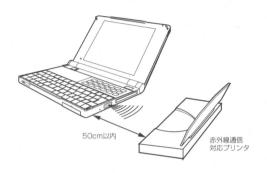
もっと教えて

- IrDA1.1規格に準拠した赤外線通信ポートのあるモバイルPCの場合、ケーブルで接続せずに赤外線通信でプログラムやデータをやり取りすることができます。シリアルケーブルで接続中は、赤外線通信はできません。InterLinkと赤外線通信ポートのあるモバイルPCの置き方は、赤外線通信ポートのあるデジタルスチルカメラやプリンタの場合と同様です。（→119ページ、124ページ）。

赤外線通信対応のプリンタを使う

赤外線通信ポートのあるプリンタ（IrDA1.1規格）を利用すると、「ピクチャーアルバム」「ピクチャーパレット」「AVリンクメール」などで印刷することができます。
（→160ページ）

赤外線通信機能を利用するので、接続ケーブルは必要ありません。

1 **赤外線通信ポートと、プリンタの赤外線通信ポートが真正面で向き合うように置く**

50cm以内の距離で、平行に向き合う（±15度以内）ように置いてください。

2 **プリンタを、印刷できる状態にする**

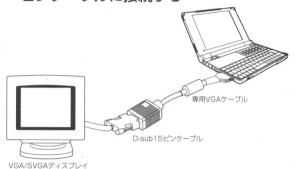
3 **印刷機能のあるアプリケーションを起動し、印刷の操作をする**

もっと教えて

- プリンタ側の赤外線通信インタフェースの注意事項については、プリンタに添付されている取扱説明書をご覧ください。
- IrTran-P対応の機器に画像を送る場合は、［ファイル］メニューの［送る］をタップし、印刷します。
- ビクター製のデジタルダイレクトビデオプリンターもIrTran-Pに対応しており、お使いになれます。

外部ディスプレイにつなぐ

InterLinkにお手持ちのVGA/SVGAディスプレイをつなぐと、 たとえば大画面で「ピクチャーアルバム」のスライドショウを表示することができます。

1 **InterLinkの電源を切った状態で、拡張コネクタに専用VGAケーブルを差し込み、VGA/SVGAディスプレイのD-sub15ピンケーブルに接続する**

専用VGAケーブルは別売です。（→160ページ）

2 **VGA/SVGAディスプレイを、画像を表示できる状態にする**

3 **「ピクチャーアルバム」を起動し、スライドショウの操作をする**

もっと教えて

- ●InterLinkの電源が入った状態で接続しても、VGA/SVGAディスプレイに映りません。サスペンド状態で接続するか、または接続後リセットボタンを押してください。
- ●VGA（Video Graphics Array）ディスプレイとは、640×480ドットの表示ができるディスプレイのことです。VGAを超える解像度のSVGA（Super VGA）ディスプレイの800×600ドット表示にも対応しています。
- ●「Pocket PowerPoint」や「ピクチャーアルバム」のスライドショウなどの、外部ディスプレイ対応アプリケーションソフトの場合は、自動的に800×600ドットで表示されます。それ以外の場合は640×480ドットで表示されます。

USBマウスをつなぐ

InterLinkにお手持ちのUSBマウスをつなぐと、スタイラスの代わりに使うことができます。

使用できるマウスは、USBマウスのみです。シリアルマウスやPS/2マウスなどは接続できません。

1 USBコネクタにUSBマウスを取り付ける

2 USBマウスで操作する

PCカードを使う

PCカードとは

PCカードは、PC Card規格に準拠した、カード型拡張デバイスの総称です。主にモバイルPCやノートPCで利用されます。PCカードには、メモリカードやモデムカード、LANカードなどがあります。ただし、InterLinkに対応していないものもありますので、InterLinkホームページ(裏表紙)の「ユーザーサポート」「接続確認機器情報」でご確認ください。

メモリカード:
データをフラッシュメモリに保存します。メモリカードの規格の1つである「スマートメディア」が、デジタルスチルカメラの画像記憶用に多く利用されています。
InterLinkでは、スマートメディアに保存された画像を「ピクチャーアルバム」で読み込むことができます(スマートメディアをPCカードアダプタに付ける必要があります)。

モデムカード:
電話回線を使って通信をする場合に、デジタル信号とアナログ信号の変換する装置を「モデム」といいます。この変換機能をPCカードに持たせたものを、モデムカードと呼びます。
InterLinkにはモデムが内蔵されているため、モデムカードは必要ありません。

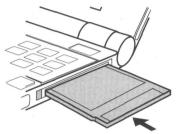
LANカード:
InterLinkをLANのサーバーに接続し、1クライアントとして利用するときに、LANカードが必要になります。

■PCカードに関する注意

・PCカードによっては大量の電力を消費する場合があります。電池の残量によっては、使用できかなったり、ニッケル水素蓄電池の交換を促すメッセージが表示されずに突然電源が切れたりする場合があります。このような場合は、AC電源で使用してください。

PCカードの入れ方／取り出し方

■PCカードの入れ方

1 PCカードをPCカードスロットに入れる

スロットの奥にあるコネクタに、PCカードが固定されるまで押し込みます。

2 アプリケーションでPCカードを利用する

もっと教えて

●PCカードがうまく入らないときは、挿入方向が間違っている場合があります。無理に押し込まずに、取り出して挿入方向を確認し、もう一度入れ直してください。

■PCカードの取り出し方

1 PCカード取り出しボタンをスタイラスのうしろ（ペン先でない方）などで押す

スタイラスの先端（ペン先の方）で押さないでください。

スタイラスのうしろなどで押すと、PCカードが少し飛び出します。

2 PCカードを抜き取る

注意

PCカードを使用されない場合は、付属のダミーカードをPCカードスロットに入れておいてください。

コンパクトフラッシュカードを使う

コンパクトフラッシュカードとは

コンパクトフラッシュカードは、フラッシュメモリを使った小型のメモリカードです。PCカードよりも小さく、記憶容量が4〜48MBと多いのが特長です。デジタルカメラの映像記憶用や、ノートPC/モバイルPCの外部記憶メモリとして利用されています。InterLinkでは、コンパクトフラッシュカード（TYPE I）に保存された画像を「ピクチャーアルバム」で読み込むことができます。

コンパクトフラッシュカードの入れ方/取り出し方

■コンパクトフラッシュカードの入れ方

1 コンパクトフラッシュカードスロットのカバーを開ける

2 コンパクトフラッシュカードをコンパクトフラッシュカードスロットに入れる

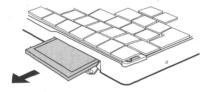
スロットの奥にあるコネクタに、コンパクトフラッシュが固定されるまで押し込みます。

3 コンパクトフラッシュカードスロットのカバーを閉める

4 アプリケーションでコンパクトフラッシュカードを利用する

■コンパクトフラッシュカードの取り出し方

1 コンパクトフラッシュカードスロットのカバーを開ける

2 コンパクトフラッシュカードの下部手前側に爪などをひっかけて抜き取る

3 コンパクトフラッシュカードスロットのカバーを閉める

8章
その他の情報

情報

リセットのしかたと注意

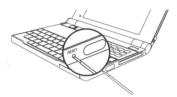
使用中にInterLinkが動作しなくなった場合は、スタイラスを使ってリセットの操作をしてください。リセットには、通常のリセットとコールドリセットの2種類があります。

注意

先のとがったもの（針など）や、先の折れやすいもの（シャープペンシルなど）でリセット、コールドリセットの操作をしないでください。

■リセット操作

この操作をすると、使用中のアプリケーションが終了し、作成中のデータは消えてしまいます。リセット後、自動的に電源が入り、デスクトップが表示されます。（→40ページ）

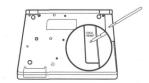
1 スタイラスで、「RESET」ボタンを押す

電源が入っていない状態でこの操作をしても、リセット機能は働きません。電源の入っている状態でリセットの操作をしてください。

■コールドリセット操作

リセット操作をしても、まだ問題が解決しない場合は、コールドリセットの操作をしてください。この操作をすると、お買いあげ直後の状態にもどり、作成中のデータも保存されているデータもすべて消えてしまいます。電源を入れると、初めてInterLinkの電源を入れたときと同じ「ようこそ」の画面が表示されます。（→32ページ）

注意

コールドリセットの操作をすると、データはすべて失われ、お買い上げ時の初期状態になります。前もってPCなどにバックアップしてあるファイルからデータを復元し、各種設定をし直す必要があります。

1 スタイラスで、底面の「COLD RESET」ボタンを押す

アプリケーション一覧

InterLink 内蔵アプリケーション

■ InterLink オリジナルアプリケーション

AV リンクメール	66 ページ
スチルキャプチャー	84 ページ
ピクチャーアルバム	82 ページ
ピクチャーパレット	86 ページ
ビデオキャプチャー	89 ページ
ビデオプレーヤー	91 ページ
ラップンボイス	100 ページ
ソフトシンセプレーヤー	98 ページ
MD コントローラー	101 ページ
オリジナルブックマーク	108 ページ
クイックディクショナリー	109 ページ

■ Microsoft 社製 アプリケーション

Pocket Internet Explorer	59 ページ
受信トレイ	147 ページ
予定表	142 ページ
連絡先	145 ページ
仕事	146 ページ
Pocket Word	135 ページ
Pocket Excel	136 ページ
Pocket Access	137 ページ
Pocket PowerPoint	139 ページ
ボイスレコーダーと InkWriter	140 ページ
通信（ActiveSync）	150 ページ
通信（PC リンク）	152 ページ
通信（リモートネットワーク）	154 ページ
通信（ターミナル）	[スタート] メニューから [ヘルプ] をタップ
アクセサリ（世界時計、電卓）	
ゲーム（ソリティア）	

CD-ROM アプリケーション一覧

付属の CD-ROM から下記のアプリケーションをインストールすることができます。

(バージョンアップにより、内容が一部変わる場合があります。)

JR トラベルナビゲータ	経路探索
信乃助 for CE	FAX 送受信
信乃助 for Term	パソコン通信
10 円メールマスター CE 版	携帯電話メール
ニフティサーブでインターネット	ニフティサーブサインアップとダイヤルアップ接続設定

インストールの方法は 63 ページをご覧ください。

このCD-ROMには、上記のほかにWindows 98/95/NT用のアプリケーションが含まれています。

クイックディクショナリークリエーター	「クィックディクショナリー」の辞書作成ツール
Adobe®Acrobat®Reader	PDF リーダー

Microsoft社製アプリケーションの使い方

ファイルとWebの検索

■エクスプローラー

ファイルを探すには、[スタート]メニューから[プログラム]、[エクスプローラ]の順にタップします。ファイルを作成したり保存したりすると、他の場所を指定しない限り、My Documentsというフォルダに保存されます。
ファイルをある場所から他の場所へコピーしたり移動したりするには、そのファイルを選択し、[編集]メニューの[コピー]または[切り取り]、[貼り付け]コマンドを使います。

もっと教えて

● エクスプローラーを使っている間に、インターネットまたはイントラネットに接続している場合、アドレスボックスにURLを入力するとWebページにアクセスできます。

■ Pocket Internet Explorer

「Webページを閲覧する」（→59ページ）をご覧ください。
また、詳しい操作方法についてはヘルプをご覧ください。

Microsoft オフィスコンパニオン

Microsoftオフィスの仲間（コンパニオン）として、「Pocket Word」「Pocket Excel」「Pocket Access」「Pocket PowerPoint」があります。これらのプログラムは、PC上の「Office（Windowsバージョン）」とともに使うことができ、最新の文書のコピーに簡単に起動することができます。

・InterLinkで「Excel」や「Word」のファイル、「PowerPoint」のプレゼンテーション、「Access」のデータベースやテーブルなどを作成したり編集したりすることができます。
・「Word」や「Excel」のテンプレートを使ってすばやく文書を作成することができ、新しく作成または編集した文書をPCに同期してコピーできます。同期について、詳しくは「Microsoft Windows CEサービス」をご覧ください。（→152ページ）

もっと教えて

● オフィスコンパニオンプログラムを起動するには、イチ押しキーが簡単です（→42ページ）
● InterLinkのプログラムはPC上の同様のプログラムと同じように機能します。ここで説明したことがらについて、さらに詳しく知るにはヘルプをご覧ください。基本的な操作方法、コンパニオンのプログラムとPCのプログラムの違いなどについての情報を知ることができます。
● Microsoftオフィスのプログラムについてさらに詳しい情報が必要な場合は、PCバージョンのプログラムに付属の説明書も併せてご覧ください。

■ Pocket Word：文書の作成

・「Pocket Word」を使って、手紙、議事録、出張レポートなどの文書が作成できます。また「Pocket Word」を使って、「Microsoft Word」で作成された文書を開いたり、編集したりすることができます。
・作成・編集した文書を保存する場合、Pocket Word文書（拡張子.pwd）やWord文書（拡張子.doc）など、いろいろなフォーマットで保存することができます。
・作成・編集した文書を電子メールで「Word」のユーザーに送るときは、「Pocket Word」ではなく必ず「Word」のフォーマット（.doc）で保存してください。

<操作の手順：会議の記録を作成する>

1 イチ押しキーの [ ] を押す

「Pocket Word」が起動されます。

2 [ファイル]メニューの[新規作成]、[テンプレート]をタップする

テンプレートの一覧が表示され、選択することができます。

3 「議事録」をタップし、[OK]をタップする

ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　書式(O)　ツール(T)　すべてのレベ　?　×
⊖ <会議名>
○ 議事録テンプレートは、Pocket Word のアウトライン表示機能を使用します。このテンプレートを使用するには、かっこの中の文字列を選択し、新しい内容と置き換えます。またアウトライン表示を使用して、分類項目を作成したりプレゼンテーションのアウトラインを表示できるほか、長い文書を簡潔に表示したりすばやくナビゲートすることもできます。
○ *<会議の開催場所と開催日>*
⊖ *会議の出席者*
○ <出席者の名前 1>
○ <出席者の名前 2>

議事録のテンプレートが開き、画面に表示されます。
画面いっぱいに文書を広げたいときは、[表示]メニューの[全画面表示]をタップします。

4 [ファイル]メニューの[名前を付けて保存]をタップする

「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、名前を入力して[OK]をタップします。

5 テンプレートのフォーマットを使って入力する

もっと教えて

●「Pocket Word」で文章を入力するには、まず入力する位置をタップし、それから入力します。ボタンとメニューのコマンドを使って、すばやく文章の書式を整えることもできます。書式は文章を入力しながら、または入力した後でも変更できます。
●文章の入力は、アウトライン、標準どちらの画面でもできます。[表示]メニューで、簡単に画面を相互に切り替えることができます。会議でメモをとるときなどは、アウトライン画面で見出しを使って重要事項をハイライトしたり、基本文章に詳細を付け加えたりすると便利です。

■Pocket Excel：ワークブックの作成

- 「Pocket Excel」を使って、経費のレポート、走行記録などのワークブックが作成できます。また「Pocket Excel」を使って、「Microsoft Excel」で作成されたワークブックを開いたり、編集したりすることができます。
- 作成・編集したワークブックを保存しようとする場合、「Pocket Excel」ワークシート（拡張子.pxl）や「Excel」ワークシート（拡張子.xls）など、いろいろなフォーマットで保存することができます。
- 作成・編集した文書を電子メールで「Excel」のユーザーに送るときは、「Pocket Excel」ではなく必ず「Excel」のフォーマット（.xls）で保存してください。

<操作の手順：出張費の記録を作成する>

1 イチ押しキーの［キー］を押す

「Pocket Excel」が起動されます。

2 [ファイル]メニューの[新規作成]、[テンプレートのブック]をタップする

テンプレートの一覧が表示され、選択することができます。

3 「経費明細書」をタップし、[OK]をタップする

経費明細書のテンプレートが開き、画面に表示されます。

ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　書式(O)　ツール(T)

B2

	A	B	C	D	E	F	G
1	経費明細書						
2	目的:		開始日:		終了日:		
3							
4	日付	説明	宿泊代	交通費	ガソリン代	食費	電話代
5			¥ -	¥ -	¥ -	¥ -	¥ -
6			¥ -	¥ -	¥ -	¥ -	¥ -
7			¥ -	¥ -	¥ -	¥ -	¥ -

4 [ファイル]メニューの[名前を付けて保存]をタップする

「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、名前を入力して[OK]をタップします。

5 テンプレートのフォーマットを使って入力する

もっと教えて

● 「Pocket Excel」は、計算式、関数、並べ替え、フィルタなどの基本的な表計算作成ツールを持っています。枠を分割することにより、大きなワークシートの別々の場所を簡単に抜き出すことができます。またワークシートの一番上と一番左の枠を固定して行と列のラベルを保ちつつ、スクロールしても他のデータを見ることができます。

● 大切な情報が含まれているワークブックは、パスワードを使って保護することができます。ワークブックを開き、[ファイル]メニューの[パスワード]をタップします。そのワークブックを開くたびにパスワードを入力する必要があるので、覚えやすいが他人には思いつくことが困難な言葉にしましょう。なお、パスワードで保護されているワークブックは同期できません。

■Pocket Access：データの閲覧と作成

・「Pocket Access」を使って、PCで作成した「Microsoft Access」、「Microsoft SQL Sever」、他のODBCデータベースのデータを閲覧したり更新したりすることができます。PCでデータベースを作成し、InterLinkにそのデータを転送するだけです。たとえば、営業部がPCで「Microsoft Access」を使って製品と注文票のマスターデータベースを作成します。セールスマンはマスターデータベースとInterLinkとを同期させ、最新の製品情報を得たり、顧客の注文情報をアップロードしたりすることができます。同期に関して、詳しくは「Microsoft WindowsCEサービス」をご覧ください。（→152ページ）

ﾌｧｲﾙ(F)　編集(E)　表示(V)　ﾚｺｰﾄﾞ(R)　SQL

ﾃｰﾌﾞﾙ: 得意先

得意先コード　1
フリガナ　ｷｯｻﾀｲﾑﾏｼﾝ
得意先名　喫茶たいむましん
担当者名　林　千春

得意先コード	フリガナ	得意先名	担当者名	部署
1	ｷｯｻﾀｲﾑﾏｼﾝ	喫茶たいむましん	林　千春	店長
2	ｺﾘｮｳﾘﾅﾝｺﾞｸ	小料理なんごく	河本 なみ	料理
3	ｶｯﾎﾟｳﾌｼﾞｲ	割烹ふじい	山久 良美	料理
4	ｶｲｾﾝﾘｮｳﾘｸｼﾞﾗ	海鮮料理くじら	和辺 義隆	料理
5	ｲｻﾞｶﾔﾅﾅﾍﾞｴ	居酒屋ななべえ	渡川 秀人	料理

「Access」データベースの例

もっと教えて

● 「Pocket Access」を使って、直接新しいデータベース、テーブル、そしてSQLプロシジャーを作成することもできます。

● プログラマーの方は、「Microsoft ActiveX®Data Objects for WindowsCE(ADOCE)」と、「Microsoft Visual Basic®」または「Microsoft Visual C++®」を使って独自のデータベースを開発することができます。詳しくは、http://www.microsoft.com/japan/windowsce/ をご覧ください。

＜操作の手順：新しいデータベースやテーブルを作成する＞

1 イチ押しキーの［キー］を押す

「Pocket Access」が起動されます。すでに起動されている場合は、[ファイル]メニューの[開く/新規データベース作成]をタップします。メニューにこのコマンドがない場合は、[表示]メニューの[データベースウィンドウ]をタップします。

2 データベースの名前を入力し、[OK]をタップする

「新しいテーブルの作成」アイコンが表示されます。

3 [新しいテーブルの作成]アイコンをダブルタップする

フィールドの設定画面が表示されます。

⇨ 次ページにつづく

4 **フィールド名ボックスに名前を入力し、[Enter]キーを押す**

「データ型」ボックスにリストが表示されます。

5 **「データ型」リストでデータタイプをタップし、[Enter]キーを押す**

テーブルが保存された後では、フィールドデータタイプは変更できません。

6 **フィールドのサイズ制限を設定するときは、フィールドサイズボックスにサイズを入力し、[Enter]キーを押す**

7 **フィールドにインデックスを設定するときは、インデックスリストで「はい」をタップし、[Enter]キーを押す**

テーブルが保存された後では、フィールドサイズは変更できません。

8 **手順 4 ～ 7 を繰り返して、テーブルに必要なすべてのフィールドを設定する**

9 **[ファイル]メニューの[テーブルの保存]をタップする**

「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、名前を入力して[OK]をタップします。

もっと教えて

● データ型を設定するときは、下記に注意してください。
・「テキスト型」のボックスに入力できるのは最大 255 文字です。長い文を入力する場合は、「メモ型」に設定してください。
・小数点を入力する場合は「浮動小数点型」に設定してください。
・-32,768 ～ +32,767 の間の数字を入力する場合は、「整数型」に設定してください。
・より大きな数値を入力する場合は、「長整数型」に設定してください。
● 製品カタログのように更新を必要としないテーブルの場合は、PC から InterLink にそのテーブルを転送するときに読み取り専用のマークを付けると、同期の際に転送の時間を節約することができます。「Windows CE サービス」は、同期の際に更新されているかどうをチェックしません。

■Pocket PowerPoint：プレゼンテーション

・「Pocket PowerPoint」を使って、すばやく簡単に、プロフェッショナルなプレゼンテーションを行うことができます。1対1のプレゼンテーションはInterLink上で行い、そして大人数に対してはInterLinkにVGAモニタを接続してプレゼンテーションします。PCで「Microsoft PowerPoint」を使ってプレゼンテーション資料を作成し、それをInterLinkに転送するだけです。
ただし「Pocket PowerPoint」のデータは、オリジナルの「Microsoft PowerPoint」プレゼンテーションのテキスト、図、ノート、レイアウトを含みますが、アニメーションやスライドは含みません。

「PowerPoint」プレゼンテーションの例

<操作の手順：プレゼンテーションをする>

1 **Microsoft Windows CEサービスを使って、PCからInterLinkにプレゼンテーションするファイルをコピーする**

詳しくは「Microsoft Windows CEサービス」をご覧ください。(→152ページ)

2 **イチ押しキーの [ ] を押す**

「Pocket PowerPoint」が起動され、「プレゼンテーションを開く」ダイアログボックスが表示されます。

3 **プレゼンテーションのファイルをタップし、[OK]をタップする**

テンプレートのファイルが開き、画面に表示されます。

4 **プレゼンテーションの表示とスライドの切り替え方法を変更するときは、[ツール]メニューの[スライドショーの設定]をタップする**

手順4で「手動」を選んだ場合は、スライドをコントロールするために ⇦ ⇨ を使います。

5 **スライドショーを始めるときは、[表示]メニューの[実行]をタップする**

もっと教えて

●外出中でも、プレゼンテーションのファイルに、タイトルのスライドを加えることができます。[ツール]メニューの[タイトルスライド]をタップしてください。

ボイスレコーダーと InkWriter

「ボイスレコーダー」と「InkWriter」を使うと、アイデア、メモや考えなどをすばやく書き留めることができます。「ボイスレコーダー」では、覚えておかなくてはならないことや、考えを録音することができます。「InkWriter」では、手書きとキーボード入力のメモをとったり、絵を描いたりすることができます。
「ボイスレコーダー」は「AV リンクメール」(→ 72 ページ) にはリンクしていません。
ここで説明したことがらについて、さらに詳しく知るにはヘルプをご覧ください。

■ボイスレコーダー：アイデアや考えを記録する

「ボイスレコーダー」を使うと、考え、思いつき、電話番号などをすばやく録音できます。

<操作の手順：録音と再生>

1 InterLink前側面のREC(録音)ボタンを押す

「ボイスレコーダー」が起動されます。

2 InterLink のマイクの近くで話すかマイクに音源に近づけ、画面の「録音」ボタン：● をタップする

マイクは、録音ボタンの左にあります。
録音が始まるときはビープ音が鳴ります。

3 録音を終了するときは、「停止」ボタン：■ をタップする

録音リストに新しい録音が表示されます。

4 再生するときは、録音リストで再生したいものをダブルタップする

ﾌｧｲﾙ(F) ｺﾝﾄﾛｰﾙ(C) ﾂｰﾙ(T) <すべてのﾌｫﾙﾀﾞ>

名前	日付	録音時間	ｻｲｽﾞ	ﾌｫﾙﾀﾞ	保存場所
録音1	99/04/28 19:26	9.6秒	2.87KB		ﾒｲﾝ ﾒﾓﾘ
録音2	99/04/28 19:26	11.0秒	3.30KB		ﾒｲﾝ ﾒﾓﾘ
録音3	99/04/28 19:27	11.7秒	3.51KB		ﾒｲﾝ ﾒﾓﾘ

再生を一時停止するときは、「一時停止」ボタン：▶II をタップします。
再開するときは、同じボタンをもう一度タップします。

もっと教えて

● 録音されたものを全て次々と再生することができます。一番最初に再生したいものを選び、[コントロール]、[連続再生]をタップします。選択した録音とそれに続く次の録音が再生されます。短いビープ音が各々の録音再生の間に鳴ります。
● 手順 1 で REC（録音）ボタンを押し続けると「ボイスレコーダー」が起動されて録音が始まり、REC（録音）ボタンを離すまで録音されます。
● イヤホンマイクを使用すると、外部雑音が小さくなり声が明瞭になります。このとき内蔵のマイクとスピーカーは無効になります。
● 「イチ押しキー設定」で「Voice Rec」をタップして設定を変更すると、REC（録音）ボタンを押しても「ボイスレコーダー」が起動されなくなります。

■ InkWriter：メモや描画の作成

「InkWriter」を使うと、紙の上に書くように簡単に文字や絵を書くことができます。書いたものを編集したり、書式を整えたりすることもできます。スタイラスやUSBマウス（別売）を使って画面に直接書くか、キーボードを使って文字をタイプするか、どちらでもやりやすい方法で情報を入力してください。

＜操作の手順：文書を作成＞

1 [スタート]メニューから、[プログラム]、[アクセサリ]、[InkWriter]をタップする

「InkWriter」が起動されます。

2 ドキュメントを作成する

スタイラスやマウスを使って画面に直接書くときは、[表示]メニューの[手書き]をタップします。
キーボードから入力するときは、[表示]メニューの[入力]をタップします。
スタイラスやマウスを使って絵や図を描くときは、[表示]メニューの[描画]をタップします。

3 終了したら、[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]をタップする

ﾌｧｲﾙ(F)　編集(E)　表示(V)　書式(O)　ﾂｰﾙ(T)

連絡先情報

名前:　役職:
会社:
住所:

「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、名前を入力して[OK]をタップします。

もっと教えて

● 直線や円、長方形、三角形を描くことができます。「描画」画面で好みの形を描き、「選択」をタップし、描いたものをスタイラスでタップします。それから[書式]メニューの[形状の選択]をタップして、好みの形をタップします。

Microsoft Pocket Outlook

「Microsoft® Pocket Outlook™」には、「予定表」「連絡先」「仕事」「受信トレイ」が含まれています。

- 「Windows CE サービス」を使って、PC の「Microsoft Outlook」「Microsoft Schedule+」「Microsoft Exchange」内にある情報を、InterLinkと同期することができます。同期を行うたびに、「Windows CEサービス」はPCとInterLinkで行われた変更を比較し、両方を最新のものにします。詳しくは「Microsoft Windows CE サービス」をご覧ください。(→ 152ページ)
- 「予定表」「連絡先」「仕事」には、それぞれ1件表示と一覧表示があります。1件表示では各情報の詳細を見たり入力したりすることができます。一覧表示ではすべての情報を見ることができます。
- 「受信トレイ」ではPCの「Outlook」または「Exchange」との同期を通して、あるいはインターネットやネットワークアカウントを通してメールサーバに直接接続することで、電子メールを送受信することができます。

ここで説明したことがらについて、さらに詳しく知るにはヘルプをご覧ください。

■予定表：スケジュールを管理する

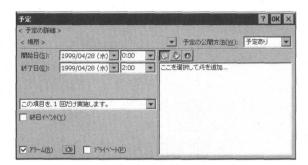
「予定表」を使うと、約束、会議などのスケジュールを管理することができます。いくつかある表示（日、週、月、年、計画表）のひとつを選んで予定をチェックします。対応するツールバーを選択すると、表示を簡単に切り替えることができます。

<操作の手順：新しい予定を作成>

1　イチ押しキーの [予定表キー] を押す

「予定表」が起動されます。

2　日、週、月、年、計画表 のどれか1つをタップする

表示のしかたを切り替えます。

3 をタップする

「予定」ダイアログが表示されます。

4 「予定の詳細」ボックスと「場所」ボックスに内容を入力する

5 時間と日付を選ぶ

6 メモを付け加えるときは、 をタップし、メモエリアをタップしてメモを入力する

メモエリアをタップすると、メモエリアが画面いっぱいに表示されます。入力が終わったら、[OK]をタップして、元の画面にもどります。

7 予定をカテゴリーに登録するときは、 をタップし、表示された一覧で分類項目をタップする

8 さらにオプションがあれば選び、すべて入力し終わったら[OK]をタップする

もっと教えて

● 日または週表示のとき、予定をすばやく付け加えるには、時間を選択し、その内容と場所を入力します。場所はカッコに入れてください。たとえば「昼食（カフェテリア）」のように入力すると場所は「カフェテリア」であることが認識されます。

<操作の手順:会議のお知らせを作成>

「予定表」を使うと、「Outlook」「Pocket Outlook」または「Schedule+」を使っている人たちと会議の予定をたてることができます。出席予定者は会議のお知らせを受け取ると、出席できるかできないかを選びます。出席する場合は、会議の予定は自動的に彼らの予定表に追加されます。さらに返答は自動的に発信者に送り返され、発信者の「予定表」が更新されます。

会議のお知らせを送る前に、連絡先の電子メールのアドレスを入力し、「受信トレイ」でメッセージの送受信ができるように設定しておきます。「連絡先」「受信トレイ」の使い方については、このあとの「連絡先:住所録を管理する」(→145ページ)や「受信トレイ:電子メールの送受信」(→147ページ)をご覧ください。

1 **「予定表」で[ツール]メニューの[オプション]をタップしする**

「オプション」ダイアログが表示されます。

2 **「メールの転送」ボックスで表示される一覧で、転送方法をタップし、[OK]をタップする**

同期を使ってメッセージの送受信をする場合は、「Active Sync」を選びます。
ISP(Internal Service Provider)またはネットワークにつなぐ場合は、「受信トレイ」で設定したサービスを選びます。

3 **「ファイル」メニューで、「会議の作成」をタップする**

4 **会議の内容を入力する**

5 **招待したい連絡先を選ぶ**

6 **さらにオプションがあれば選び、すべて入力し終わったら[OK]をタップする**

次回メールサーバに接続するとき、またはPCと同期するときに「受信トレイ」によって会議のお知らせが出席予定者に自動的に送信されます。

もっと教えて

● 「予定表」は、約束や会議などの予定をアラームを鳴らす、アラーム通知ランプの点滅、あるいは画面メッセージなどで通知します。通知方法を変更するときは、[ツール]メニューの[オプション]をタップし、 をタップして、[アラームのオプション]をタップします。

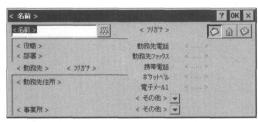
■連絡先：住所録を管理する

「連絡先」を使うと、友人や知人のリストを管理することができます。家でも外出先でも簡単にその情報を見つけることができます。赤外線通信ポートを使えば、「連絡先」の情報を他のWindows CE搭載モバイル機器のユーザーと速やかに共有することができます。

<操作の手順：新しい連絡先を作成>

1 イチ押しキーの を押す

「連絡先」が起動されます。

2 をタップする

「名前」ダイアログが表示されます。

3 名前を入力する

4 または をタップし、それぞれの場所に情報を入力する

会議のお知らせや電子メールの伝言を送る場合は、電子メールのアドレスも入力してください。

5 メモを追加したり、相手を分類項目別に管理したい場合は をタップする

メモエリアをタップしてメモを入力したり、一覧から分類項目を選びます。

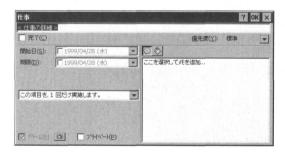
もっと教えて

● 他のWindows CE搭載モバイル機器に、連絡先を一度に25件まで送信することができます。一覧表示で、送りたいアドレスカードをタップし、[ファイル]メニューの[送信]をタップしてください。アドレスカードを受信するときは[ファイル]メニューの[受信]をタップしてください。

■仕事：仕事リストの管理

「仕事」を使うと、遂行すべき仕事の内容を管理することができます。期限切れの仕事は太い赤字で表示されます。

＜操作の手順：新しい仕事を作成＞

1 イチ押しキーの をを押す

「仕事」が起動されます。

2 をタップする

「仕事」ダイアログが表示されます。

3 仕事の詳細を入力する

4 開始の日付、期限、その他の情報を選ぶ

5 メモを付け加えるときは、 をタップし、メモエリアをタップしてメモを入力する

メモエリアをタップすると、メモエリアが画面いっぱいに表示されます。入力が終わったら、[OK]をタップして、元の画面にもどります。

6 仕事をカテゴリーに登録するときは、 をタップし、表示された一覧で分類項目をタップする

7 さらにオプションがあれば選び、すべて入力し終わったら[OK]をタップする

もっと教えて

● 仕事に完了マークを付けるときは、仕事リストの「状態」欄のチェックボックスをタップします。終了したすべての仕事を消去するときは、[編集]メニューの[完了した仕事の削除]をタップします。

■受信トレイ：電子メールの送受信

「受信トレイ」を使うと、電子メールの送受信ができます。インターネットまたはネットワークアカウントを通してメールサーバにつなぐか、またはPCと同期することによって電子メールの送受信ができます。

<メールサーバへの接続>

メールサーバに直接接続して、メッセージの送受信をします。モデムを使ってインターネットサービスプロバイダ(ISP)に接続するか、またはモデムカードやイーサネットカードを使って、メールサーバが接続されているLANに接続してください。(→154ページ)

インターネットサービスプロバイダまたはLANに接続するほかに、メールサーバと通信するために必要な情報を「受信トレイ」に設定する必要があります。

ドメインネームは、通常の商用プロバイダ接続時には必要ありません。

もっと教えて

●「受信トレイ」はAOLやMSN™などのプライベートメールプロトコルとの接続は現在サポートしていません。また、こうしたプライベートなプロトコルを通してメールの送受信を可能にする別の会社のプログラムが見つかることがあります。Webページで「Windows CE」をキーワードにして検索し、別会社のプログラムを見つけましょう。

<操作の手順：受信トレイを設定してメールサーバに接続する>

1 **インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から、POP3またはIMAP4のサーバ名、SMTPホスト名、ユーザー名、パスワード、ドメインネーム(ネットワーク接続の場合)の情報を得る**

通常、商用プロバイダに接続するときは、ドメインネーム入力は必要ありません。

2 **デスクトップの「受信トレイ」アイコンをタップする**

「受信トレイ」が起動されます。

⇨ 次ページにつづく

8 その他の情報

3 **[サービス]メニューの[オプション]をタップする**

「オプション」ダイアログが表示されます。

4 **[サービス]タブをタップし、[追加]をタップする**

「サービスの名前」ダイアログが表示されます。

5 **「サービスの種類」ボックスで「IMAP4メール」または「POP3メール」を選び、「サービスの名前」ボックスに入力し、[OK]をタップする**

選択したサービスの種類に合った「サービスの定義（1/3)」ダイアログが表示されます。

6 **手順1の情報を入力し、「接続」ボックスで使用するリモート接続の種類を選ぶ**

7 **「全般の設定（2/3)」ダイアログで、希望のオプションを選ぶ**

8 **「メール受信トレイの設定（3/3)」ダイアログで、希望のオプションを選ぶ**

ネットワーク接続で電子メールを受信する場合は「ネットワーク接続」を選びます。初めて接続する場合は「新しい接続」を選びます。リモートネットワークウィンドウが表示されるので「新しい接続」アイコンをダブルタップし、ウィザードの指示に従ってください。終了したらタスクバーの「受信トレイ」アイコンをタップし、「受信トレイ」の設定を続けて行ってください。詳しくは「リモートネットワークの設定」をご覧ください。（→ 154ページ）

もっと教えて

● 手順8の「メール受信トレイの設定（3/3)」ダイアログの「メッセージのダウンロード」では、初期設定としてどのようにメッセージをダウンロードするかを選択します。「メッセージすべて」を選択すると、InterLinkにより多くの保存スペースをとります。「メッセージヘッダーのみ」を選択すると、メッセージのダウンロードにかかる時間を短縮することができます。

● 手順8の「メール受信トレイの設定（3/3)」ダイアログの「メッセージの内容」では、メッセージをフルコピーするとき添付ファイルや会議のお知らせをダウンロードするかを選択します。この設定は、初期設定としてすべてをダウンロードすることを選んでも、またはメッセージを開き、[全文をサーバーからコピー]をタップしてすべてのメッセージを選択的にダウンロードする場合にも適用されます。さらに、会議のお知らせを受け取りたい場合は、「Exchangeサーバ」の管理者があなたのアカウントためにリッチテキストフォーマットをサポートする必要があります。これが可能かどうか、管理者にお問い合わせください。

<操作の手順：受信トレイで電子メールを送受信し、切断する>

1 [サービス]メニューで使用するサービスが選択されているか確認する

選択されているサービスには、選択マークが付いています。

2 [接続]をタップし、メールサーバに接続する

InterLink とメールサーバの情報が同期します。 新しいメッセージが受信トレイフォルダにダウンロードされ、送信トレイフォルダのメッセージが送信され、サーバ上で消去されたメッセージが受信トレイから取り除かれます。 これらのフォルダは、受信トレイを設定するときに作成した「サービス」の下に保存されます。

3 メッセージ一覧の中にあるメッセージをダブルタップし、メッセージを開く

全メッセージを読みたいときは [サービス]メニューの [全文をサーバからコピー] をタップします。

4 [サービス]メニューの[接続]をもう一度タップし、[受信トレイ]とメールサーバを切断する

ダイヤルアップ接続の場合は、さらにステータスバーの [リモートネットワーク] アイコンをダブルタップし、[切断] をタップします。

もっと教えて

● 初期設定としてメッセージは、作成したサービスの中の 4 つのフォルダ（受信トレイ、削除済みアイテム（ローカル）、送信トレイ、送信済みアイテム）のひとつに表示されています。削除済みアイテム（ローカル）フォルダには、InterLinkで削除されたメッセージが含まれています。IMAP4を使用していると削除済みアイテムフォルダが見えます。このフォルダはサーバが削除したメッセージのためにあります。削除済みアイテムと送信済みアイテムフォルダの動作は「受信トレイ」で選択されたオプションに依存します。

● フォルダを追加してメッセージを整理したい場合は、[ファイル]メニューの[フォルダ]の[新規フォルダ]をタップして作成した後、新規フォルダにメッセージをドラッグします。作成したフォルダの動作は、POP3を使用しているか IMPA4 を使用しているかに依存します。

● POP3では、作成したフォルダにメッセージをドラッグすると、メッセージとメールサーバにあるそのコピーとのリンクは壊れます。次回接続したとき、メールサーバは受信トレイのメッセージがなくなっていると判断し、サーバからそれらを削除します。その結果、メッセージの複写はできなくなります。また作成したフォルダに移動したメッセージには、InterLink 以外からはアクセスできなくなります。

● IMAP4 では、作成したフォルダや移動したメッセージはサーバに反映されます。たとえば、受信トレイフォルダから 2 つのメッセージを「ファミリー」というフォルダに移動したとします。サーバはファミリーフォルダのコピーを作成し、そのメッセージをそのフォルダにコピーします。その結果、InterLink からでもPC からでも、メールサーバに接続したときにはいつでもメッセージが見られます。フォルダの同期は、新しいフォルダを作成したときやメッセージをフォルダに移動したとき、「受信トレイ」を終了したとき、[サービス]メニューの[フォルダの同期]を選択したときに行われます。メールサーバ切断時にメッセージを見たい場合は、フォルダをタップし、[サービス]メニューの[オフラインフォルダ]をタップします。

< ActiveSync を使って電子メールを同期>

電子メールにアクセスするもうひとつの方法は、InterLink と PC を同期する方法です。

- PC の「Windows CE サービス」を使って、PC の「Outlook」または「Exchange」の「受信トレイ」と、InterLinkの「受信トレイ」間でデータを交換し、電子メールメッセージの送受信ができます。同期をすると、それぞれのコンピュータで行われた変更は、互いのコンピュータに転送されます。PCの受信トレイに新しいメッセージが入ると、そのメッセージはInterLinkにコピーされます。InterLinkのメッセージを削除すると、次回同期したときにそのメッセージはPCからも削除されます。InterLinkで新しい電子メールメッセージを作成して送信すると、そのメッセージはPCに移動し、次回同期したときに送信されます。さらに「予定表」「連絡先」「仕事」で行われた変更も更新されます。
- InterLinkの「受信トレイ」は、PC と同期して電子メールを受け取るように初期設定されています。しかし電子メールメッセージは初期設定では同期していないため、PC の「Windows CE サービス」で、同期するときは電子メールメッセージも同期するように設定する必要があります。PCでモバイルデバイスフォルダ（「Windows CEサービス」のインストールにより作成される）内の InterLink のアイコンをクリックし、[ツール]メニューの[ActiveSync 設定]をクリックします。そして[オプション]ボタンをクリックして、どのくらいの量のメッセージをダウンロードするか、添付ファイルを含めるかなどの設定をしてください。

設定や同期の使い方についての操作は、「Microsoft Windows CE サービス」をご覧ください。（→ 152 ページ）

< ActiveSync を使ってメッセージをダウンロードする>

電子メールを送受信するには、PC に接続し同期を初期化します。

- 同期の初期化の方法は、PC への接続のしかたと「Windows CE サービス」で選択されている設定に依存します。詳しくは「Microsoft Windows CE サービス」をご覧ください。（→ 152 ページ）
- 同期を行うと、PC の「受信トレイ」内にある新しいメッセージの最初の 50 行がInterLinkの受信トレイフォルダにコピーされ、InterLinkの送信トレイフォルダのメッセージが送信されます。これらのフォルダは ActiveSync の下に保存されます。メッセージを開くには、メッセージ一覧内のメッセージをダブルクリックしてください。

＜ActiveSyncを使った場合のメッセージとフォルダの管理＞

・メッセージは、ActiveSyncサービスの4つのフォルダ（受信トレイ、削除済みアイテム(ローカル)、送信トレイ、送信済みアイテム）のひとつに保存されます。削除済みアイテムと送信済みアイテムフォルダの動作は「受信トレイ」で選択されたオプションに依存します。

・メッセージを受信トレイではなく、別のフォルダに保存したい場合は、[ファイル]メニューの[フォルダ]の[新規フォルダ]をタップします。新しくフォルダを作成した後、そこにメッセージをドラッグします。これにより、メッセージとPC上のコピーとのリンクは壊れます。次回同期したときは、作成したフォルダ内のメッセージは同期しません。PCは、InterLinkの受信トレイのメッセージがなくなっていると判断し、両方の受信トレイフォルダを一致させるためにPCの受信トレイフォルダからそれらを削除します。その結果、メッセージの複写はできなくなります。また作成したフォルダに移動したメッセージには、InterLink以外からはアクセスできなくなります。

＜操作の手順：メッセージの送信＞

1 「受信トレイ」で、[作成]メニューの[メッセージの作成]をタップする

メッセージを作成するウィンドウが表示されます。

2 [宛先]欄をタップし、受取人の電子メールアドレスを入力する

「連絡先」に登録した人が受取人の場合は、 をタップし、アドレス帳の一覧または「アドレスの選択」からアドレスを選びます。

3 [件名]欄をタップし、メッセージのタイトルを入力する

4 メッセージ本文欄をタップし、メッセージを入力する

5 ファイルを添付するときは、 をタップする

「ファイルの添付」ダイアログが表示されるので、ファイルを選択し、[OK]をタップします。

6 [送信]ボタンをタップする

メールサーバに接続していない場合は、メッセージは送信トレイに移動し、次回接続または同期したときに送信されます。

Microsoft Windows CE サービス

付属のCD-ROMから「ActiveSync付きMicrosoft Windows CEサービス」をPCにインストールする（→62ページ）と、PCとInterLink上の情報が同期（シンクロナイズ）できます。

「同期」とは、InterLinkとPC上のデータを比較し、たとえば、次のように両方のデータを最新の情報に更新することです。

・InterLinkをPC上の「Microsoft Outlook」（「Outlook Express」との受信トレイ同期は現在サポートされていません。）、「Microsoft Schedule+」、「Microsoft Exchange」のいずれかと同期させて、「Pocket Outlook」のデータを常に更新しておきます。
・InterLinkとPC間で、「Word」や「Excel」の文書、「Access」そして他のODBCデータベースやテーブル、「InkWriter」の文書を同期します。ファイルは自動的に正しいフォーマットに変換されます。

また、Windows CEサービスでは、次のようなこともできます。

・InterLinkのデータをバックアップまたは復元します。
・InterLink上にプログラムを追加または削除します。
・InterLinkとPC間で、（同期できないものでも）ファイルをコピーします。

■ファイルの同期

PCからInterLinkに文書を移動する方法の1つに、下記の方法があります。

・InterLinkとPCを接続し、PCのモバイルデバイスフォルダ内のInterLinkのアイコンを開き、ファイルをドラッグします。ファイルは自動的にWindows CEで読めるフォーマットに変換されて、コピーされます。

しかし、InterLinkとPCに頻繁に更新される文書がある場合、InterLinkとPCを同期して常に最新のコピーがあるようにすることもできます。両方の同期ファイルフォルダに同期させたいファイルを入れておくと、ファイルは同期中に両方で更新されます。

もっと教えて

●InterLinkの同期ファイルフォルダは、My Documentsフォルダ内にあります。PCの同期ファイルフォルダは、「デバイス」同期ファイルと呼ばれ、「デバイス」の部分にはInterLinkの名前が入ります。Windows 95の場合、フォルダはMy Documentsフォルダ内にあります（c:¥My Documents¥***デバイス***同期ファイル）。Windows NTの場合、フォルダはPersonalフォルダ内にあります（c:¥Winnt¥Profiles¥***username***¥***Personal***¥***デバイス***同期ファイル）。

■同期ファイルの拡張子と属性の変換

PCからInterLinkにファイルを転送すると、ファイルはInterLinkで読めるフォーマットに変換されます。そして、ファイルの拡張子は変更されます。ファイル変換の際にファイル属性が変更されたり、取り除かれたりすることもあります。たとえば「Microsoft Word」の文書をInterLinkに転送すると、文書の書式のいくつかが取り除かれたり、変更される場合があります。またファイル拡張子は「.pwd」(Pocket Word)に変更されます。この文書を再びPCに転送すると、ファイル拡張子は「.doc」に戻りますが、変更されたり取り除かれたりした書式は失われたままです。

そのために、ファイルの転送に同期ファイルフォルダを使い、しかも元の文書のすべての書式を保持したい場合は、別のフォルダに元のファイルのコピーを心がけてください。

詳しくは[Windows CEサービスヘルプトピック]のヘルプで、変換でファイルの属性がどう影響するかの説明をご覧ください。

また、外出先でInterLink内蔵のモデムを使って直接PCに接続したり、ネットワークに接続してPCと同期する方法については、「リモート同期のためにPCと接続する」をご覧ください。(→ 157ページ)

もっと教えて

● InterLinkのPocket ExcelまたはWordにパスワード保護がかかっている場合は、ファイルがPCと同期される前にパスワード保護を外してください。ファイルを開き、[ファイル]メニューの[パスワード]をタップし、パスワードボックスをクリアします。

■ PCにInterLinkのデータをバックアップする

InterLink本体のメモリ上のデータをPCにバックアップすることができます。

1 **InterLinkとPCを付属のシリアルケーブルで接続する**

2 **PC上でモバイルデバイスフォルダを開き、[ツール]メニューの[バックアップ]をクリックする**

3 **バックアップ先のフォルダを確認して[OK]をクリックする**

バックアップが始まります。バックアップする間、InterLinkは使用できません。

4 **バックアップが完了したら[OK]をクリックする**

リモートネットワークの設定

外出先で、InterLinkを使ってPC、ネットワークあるいはインターネットに接続する場合は、まずダイヤルアップ接続を確立しなければなりません。これを「リモートネットワーク」と呼びます。「リモートネットワーク」には、下記のオプションがあります。

・インターネットサービスプロバイダ（ISP）に接続し、電子メールの送受信やWebサイトのホームページを見ることができます。この方法については「インターネット接続のための設定をする」「インターネットに接続する」をご覧ください。(→55～58ページ)

・会社のネットワークに接続し、電子メールの送受信やイントラネットのホームページを見たり、ネットワーク上のファイルにアクセスしたりすることができます。この方法については、下記の「会社などのネットワークに接続する」をご覧ください。

・自分のPCに接続してリモートに同期し、「Pocket Outlook」データなどの情報を同期することができます。この方法については「リモート同期のためにPCと接続する」をご覧ください。（→ 157 ページ）
同期について、詳しくは「Microsoft Windows CEサービス」をご覧ください。（→ 152 ページ）

会社などのネットワークに接続する

LAN（Local Area Network）などのネットワークに接続すると、電子メールを送ったり、ファイルサーバにアクセスしたり、イントラネットのホームページを見たりでき、またそこからインターネットにもアクセスできます。ネットワークに接続するには、下記の2つの方法があります。

・RAS（Remote Access Service）アカウントを使ってダイヤルアップ接続をします。なお、ダイヤルアップ接続の設定をする前に、あなたのRASアカウントをネットワーク管理者に設定してもらう必要があります。詳しくは「ネットワークへのダイヤルアップ接続」をご覧ください。（→ 155 ページ）

・イーサネットカード（LANカード）とネットワーク端子を使って、ネットワークに接続します。詳しくは「ネットワーク（イーサネット）接続」をご覧ください。（→ 156 ページ）

■ネットワークへのダイヤルアップ接続

1 **ネットワーク管理者から、会社のダイヤルアップアクセスの電話番号、ユーザー名、パスワード、ドメイン名の情報を得る**

2 **[スタート]メニューから、[プログラム]、[通信]、[リモートネットワーク]の順にタップする**

リモートネットワーク・ウィンドウが開きます。

3 **「新しい接続」アイコンをダブルタップする**

新しい接続ウィザードが起動されます。

4 **「接続名」欄に接続先の名前を入力し、「ダイヤルアップ接続」をタップして、[次へ]をタップする**

「会社ダイヤルアップ」のように、接続先がわかりやすい名前を入力します。

5 **「モデムの選択」欄の ▼ をタップし、表示される一覧で使用するモデムをタップし、[次へ]をタップする**

[モデムの設定]や[TCP/IPの設定]ダイアログの設定については56ページをご覧ください。

6 **接続先の電話番号を入力し、[終了]をタップする**

これで、ダイヤルアップ接続が設定できました。新しい接続が登録され、リモートネットワーク・ウィンドウにアイコンで表示されます。

一度ダイヤルアップ設定ができれば、登録した、この接続アイコンをダブルタップし、ユーザー名とパスワード、ドメイン名を入力して[接続]をタップすることで、ネットワークに接続できます（→58ページ）。
そして「Pocket Internet Explorer」を使ってイントラネットのホームページを閲覧したり（→59ページ）、「AVリンクメール」や「受信トレイ」を使って電子メールの送受信ができます。ただし「AVリンクメール」（→60ページ）「受信トレイ」（→147ページ）を使う前に、メールサーバと通信するための設定が必要です。

■ネットワーク（イーサネット）接続

InterLinkをネットワークに接続するには、ネットワークごとに固有の値を設定する必要があります。実際の設定は、ネットワークについて十分知識のある管理者に相談し、設定してください。イーサネットを使うためのドライバは、インストールされています。

1 イーサネットカードを InterLink の PC カードスロットに入れ、ネットワークケーブルをつなぐ

イーサネットカードはNE2000互換のものが必要です。PCカードスロットへのカードの入れ方は128ページをご覧ください。

2 AC アダプターを、InterLink に接続して、ネットワーク接続する

「'NE2000 Compatible Ethernet Driver'設定」画面の［IPアドレス］タブが開きます。電池駆動の場合、バッテリー残量についての警告メッセージが表示されることがあります。

3 [IPアドレスを指定]にチェックを付け、[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[既定のゲートウェイ]に固有の値を設定する

4 [ネームサーバー] タブをタップし、[プライマリ DNS]、[セカンダリ DNS]、[プライマリWINS]、[セカンダリWINS] にそれぞれ固有の値を設定する

［プライマリ WINS］に入れる値は、同期PCのIPアドレスにします。

5 [OK] をタップする

「'NE2000 Compatible Ethernet Driver'設定」画面が閉じ、デスクトップ画面に戻ります。

6 LANカードをいったん取り出し、10秒後に、再度InterLinkに挿入する

これで設定は終了します。

7 [スタート]メニューから、[設定]、[コントロールパネル]をタップし、「ネットワーク」アイコンをダブルタップする

8 [オーナー情報] タブをタップしてユーザー名、パスワード、ドメインを入力する

手順2でダイアログが自動的に表示されない場合は、[スタート]メニューから[設定]、[コントロールパネル]をタップし、「ネットワーク」アイコンをダブルタップします。イーサネットカードに対応したドライバをタップし、「プロパティ」をタップします。

接続が確立されれば、「Pocket Internet Explorer」を使って、イントラネットのホームページを閲覧したり、「受信トレイ」を使って電子メールの送受信ができます。「Pocket Internet Explorer」を使ってイントラネットのホームページを閲覧したり（→59ページ）、「AVリンクメール」や「受信トレイ」を使って電子メールの送受信ができます。ただし「AVリンクメール」（→60ページ）「受信トレイ」（→147ページ）を使う前に、メールサーバと通信するための設定が必要です。

もっと教えて

●ほとんどのネットワークはDHCP機能を使っているため、サーバ情報の設定を変える必要はありません。必要であれば、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

注意

●使用されないときは、カードをPCカードスロットから抜いてください。LANに接続されている場合、単3形電池駆動でもオートサスペンド動作しません。（→38ページ）

●「'NE2000 Compatible Ethernet Driver'設定」画面の表示中は、LANカードを抜き差ししないでください。データが失われる場合があります。

リモート同期のためにPCと接続する

リモート同期をするには、下記の条件を満たしていることが必要です。

・まずInterLinkとPCの間のパートナーシップをPC側で確立しなければなりません。
・PCの電源を入れ、ログオンしなければなりません。またPC上で「Schedule+」「受信トレイ」「Outlook」のいずれかが動作していなければなりません。
・モバイルデバイスウィンドウの右下隅に、接続ステイタスが「モバイルデバイスの接続待機中」と表示されていなければなりません。
・「Windows CEサービス」の[ActiveSyncの設定]ダイアログで、同期が有効になっているはずです。（あるいは[更新の必要なデータを自動的に同期する]を選ぶこともできます。）
・モデムを通してPCと通信する場合は、モデムのスイッチが入っていなければなりません。また「Windows CEサービス」の自動接続を有効にするか、モバイルデバイスウィンドウが開いていなければなりません。
・ダイヤルアップまたはネットワーク接続を通してPCと通信する場合は、PCのネットワークにログオンしなければなりません。PCから離れる前に「Windows CEサービス」の「プロパティ」で[ネットワーク経由での接続]で選択を有効にしておいてください。

外出中、社内のPCの電源が切れている場合は、リモート同期することはできません。しかしネットワークに直接ダイヤルして電子メールを受け取ることはできます。詳しくは「会社などのネットワークに接続する」をご覧ください。(→ 154 ページ)
以上の条件があえば、外出中、社内のPCと同期できます。その方法には下記の 3 種類があります。

・RASアカウントを使って、ダイヤルアップ接続をします。ダイヤルアップ接続をする前に、あなたのRASカウントをネットワーク管理者に設定してもらう必要があります。一度ネットワークに接続されると、InterLink は PC を見つけて同期を初期化します。詳しくは「ネットワークへのダイヤルアップ接続」をご覧ください(→ 155 ページ)。接続後は、[スタート]メニューから、[プログラム]、[通信]、[ActiveSync]を選びます。「ActiveSync」ダイアログで、設定したダイヤルアップ接続を選び、接続したいPCを選びます。
・ネットワークカードを使ってネットワークに接続します。ネットワークに接続されると、InterLink は PC を見つけて同期を初期化します。詳しくは「ネットワーク(イーサネット)接続」をご覧ください(→ 156 ページ)。接続後は、[スタート]メニューから、[プログラム]、[通信]、[ActiveSync]を選びます。「ActiveSync」ダイアログで、ネットワーク接続を選び、接続したい PC を選びます。
・PCに直接つながっているモデムへダイヤルアップ接続をします。モデムは呼び出し音に答えるように設定されていなければなりません。詳しくは「PCのモデムへのダイヤルアップ接続」をご覧ください(下記)。接続後は、[スタート]メニューから、[プログラム]、[通信]、[ActiveSync]を選びます。「ActiveSync」ダイアログで、設定したダイヤルアップ接続を選び、「接続先」一覧から PC を選びます。

■ PC のモデムへのダイヤルアップ接続

接続先のPCがWindows95を使用している場合には「Dial-Up Networking Upgrade 1.2」をインストールし、もし「Dial-Up Networking Upgrade」で「User Level Access」が有効になっている場合にはユーザアカウントを設定する必要があります。Windows 98を使用している場合には、第 2 のダイヤルアップ接続機器を追加する必要があります。詳しくは「Windows CE サービス」のヘルプをご覧ください。

1 **モデムの取扱説明書にしたがって、PC にモデムをインストールする**

2 **PC のモデムを接続した回線の電話番号を書き留めておく**

3 **PC 上で、モバイルデバイスフォルダを開き、[ファイル]メニューの[通信]をクリックする**

4 **[シリアルポート経由での接続]の[ポート一覧]で、使用するモデムをクリックする**

5 **[モバイルデバイスの接続を有効にする]を有効にする**

6 **[シリアルポート経由での接続]と[ネットワーク経由での接続]の両方で、[接続を有効にする]をクリックする**

7 **以降は、「インターネット接続のための設定をする」(→55ページ)の手順にしたがって操作する**

接続先の電話番号は、操作手順2で書き留めておいた番号を入力します。

■リモート接続のヘルプ

ここで説明している手順について、他の手順と同様に詳しくは下記をご覧ください。

- 「受信トレイ:電子メールの送受信」(→ 147 ページ)
- 「Microsoft Windows CE サービス」(→ 152 ページ)
- InterLinkのヘルプ。[スタート]メニューの[ヘルプ]から、[受信トレイ]、[通信]または[同期]をタップしてください。
- PCの「Windows CE サービス」のヘルプ。モバイルデバイスフォルダを開き、[ヘルプ]メニューの[Windows CE サービスヘルプトピック]を選びます。トラブルシューティング情報もここにあります。

製品仕様

ハードウェア仕様

型名			MP-C101
CPU			MIPS RISC CPU
ROM			32MB
RAM*1			SDRAM 32MB
表示能力	液晶画面		65,536 色 *2、カラー D-STN 液晶（バックライト付）
	液晶サイズ		640 × 480 ビット、7.2 型
入力方式			キーボード（キーピッチ：16mm）、スタイラス
内蔵モデム *3			データ：56kbps（V.90 準拠）、FAX：14.4kbps
インターフェイス	拡張コネクタ		シリアル（RS-232C）
			外部ディスプレイ出力 *4（最大 800 × 600 ドット）
	データ通信		モジュラージャック（RJ-11）
			PHS*5*6（PIAFS）32kbps
			デジタル携帯電話（PDC）9.6kbps
	その他		USB コネクタ *7
			赤外線ポート（IrDA1.1, IrTran-P 準拠）
			イヤホンマイクジャック *8（3 極）
カードスロット			PCMCIA TYPE Ⅱ × 1 スロット
			コンパクトフラッシュ TYPE Ⅰ × 1 スロット
使用電源 *9			AC 電源（付属 AC アダプター 100 ～ 240V 使用）
			単 3 形ニッケル水素蓄電池 4 本、単 3 形アルカリ乾電池 4 本、単 3 形リチウム乾電池 4 本
駆動時間 *10	別売ニッケル水素蓄電池	非通信時（連続通信時）	約 6.0 時間（約 2.5 時間）
	アルカリ乾電池	非通信時（連続通信時）	約 3.0 時間（約 1.0 時間）
外形寸法			(W)210mm × (H)18.8mm × (D)153mm（突起物を除く最大外形）
質量			約 720g（単 3 形アルカリ乾電池 4 本を含む）
付属品			電源／AC アダプター
			接続ケーブル／シリアル接続ケーブル、モジュラーケーブル
			その他／取扱説明書（各種）、添付 CD-ROM（2 枚）

＊1 RAM はプログラム／データ記憶用メモリとプログラム実行用メモリとの割合を調整できます。＊2 画面表示で使用できる色数は、アプリケーションソフトによって異なります。＊3 56kbps はデータ受信時の最大速度です。データ送信時は、最大 33.6kbps になります。＊4 外部ディスプレイとの接続には、別売の接続ケーブル(MP-VG1)が必要です。＊5 PHS(PIAFS)での FAX 送受信、位置情報サービスは利用できません。＊6 デジタル携帯電話および、PHS のイヤホンマイクケーブルは別売です。デジタル携帯電話や PHS の機種により正常に通信できないことがあります。＊7 周辺機器は別売です。別途ドライバーソフト、接続ケーブル等のオプション類が必要な場合があります。また、周辺機器の仕様により接続できない場合があります。＊8 3 極のイヤホンマイク以外は故障の原因となりますので、使わないでください。（下記別売品一覧参照）＊9 指定の電池(アルカリ乾電池、リチウム乾電池、ニッケル水素蓄電池)以外の電池(マンガン電池、NiCd 電池等)は使わないでください。＊10 駆動時間は省電力を有効にし、ディスプレイのバックライトを最も暗くした状態で、非通信時においては Pocket Word で 5 分間キー入力、55 分間無入力をくり返した場合のものです。通信時においては、デジタル携帯電話または PHS データ通信を使用し、Pocket Internet Explorer で Web ページを連続してアクセスした時の値です。また、ご使用の条件（ディスプレイのバックライトの明るさ、外部機器の使用、低い気温等）により使用時間が短くなります。電池の性能はメーカーにより異なります。

別売品一覧

品名	型名
ポータブル MD レコーダー	XM-R70
液晶デジタルビデオカメラ	GR-DVX7
ポケットビデオプリンタ<プリット>	GV-HT1
USB キャプチャーカメラ	MP-UC1
USB マウス	HC-M1U、HC-M3U
充電器（単 3 形ニッケル水素蓄電池 4 本セット）	MP-BC1
単 3 形ニッケル水素蓄電池 4 本セット	BN-E1X4
イヤホンマイク（ø 2.5）	TF-PM20、TF-PM30 TF-PM40、TF-PM50
PDC 接続ケーブル	MP-PD1
PHS 接続ケーブル（ビクター用）	MP-PV1
PHS 接続ケーブル（NTT DoCoMo/ アステル用）	MP-PN1
外部ディスプレイ接続ケーブル	MP-VG1
MD レコーダー接続用 PC アダプター	AC-XR1

用語説明

下記の用語説明は、InterLinkオリジナルアプリケーションの各ヘルプの「用語説明」でも見ることができます。

<英字>

bmp

Windows環境で標準的に使用されるビットマップファイル形式です。

Compact Flash

書き換え可能なフラッシュメモリを使った小型メモリカード。PCカードよりも小さく、記憶容量が4～48MBと多いのが特長です。デジタルスチルカメラの映像記憶用の電子フィルムや、携帯機器用の外部記憶メモリとして利用されています。

HTML(Hyper Text Markup Language)

インターネットのホームページを作るときに使われる記述言語。文字や画像などのデータや、別のページへのジャンプをHTMLタグと呼ばれる文字列を使って記述します。

IPアドレス

インターネットの標準プロトコルであるTCP/IPで通信するために必要な、32ビットのアドレス情報です。通常、XXX.XXX.XXX.XXX（XXXは0～255の数字）で指定します。

IrTran-P

デジタルスチルカメラの赤外線画像通信装置を利用して、カメラ同士や、カメラとコンピュータ/プリンタなどの間で画像データを交換することを目的にした、通信プロトコルの国際標準規格。

JLIP

ビデオ機器やカメラなどをパソコンで操作する制御手段です。ビクターが開発した技術です。

jmm

ビクター独自の動画ファイル形式です。「ビデオプレーヤー」で再生したり、「AVリンク」で送受信して楽しむことができます。

jpeg

静止画を1/10～1/100に圧縮するフォーマットです。
風景や写真データなどのファイル形式に効果的で、デジタルスチルカメラや画像データベース、カラープリンタの印刷処理などに利用されます。

MIDI
(Musical Instrument Digital Interface)

ミディ。シンセサイザ同士やシンセサイザとコンピュータを接続して、音色や音程などの情報を送るための方式。

PCカード

主にモバイルPCやノートPCで利用されるカード型拡張デバイスの標準規格。PCカードにはメモリカードやモデムカード、LANカードなどがあります。

Plug In

アプリケーションでさまざまな拡張機能を実現するためにモジュールのことです。
InterLinkの「AVリンクメール」には、「スチルキャプチャー」「ピクチャーパレット」「ピクチャーアルバム」「ビデオキャプチャ」「ビデオプレーヤー」「ソフトシンセプレーヤー」「ラップンボイス」などの機能をPlug-Inとして組み込むことができます。

RGB

Red（赤）、Green（緑）、Blue（青）の、光の3原色。コンピュータ内部では、色の情報をRGB各8ビットの情報で持ち、全部で1670万種類の色を表現することができます。ディスプレイの仕様により、すべての色を表示できない場合は、ディザによる色の混ぜ合わせなどをして、表示します。

URL（Uniform Resource Locator）
インターネット上の情報にアクセスするために、プロトコル（http や ftp など）とアドレスを指定したものです。
例：日本ビクターのホームページの URL は、http://www.jvc-victor.co.jp。

USB（Universal Serial Bus）
デジタルデータを 1bit ずつ連続的に送信する、シリアルインターフェイスのポートの 1 種類。InterLink の USB コネクタには USB キャプチャーカメラ（別売）や USB マウス（別売）などが接続できます。

＜あ行＞

ウィザード形式
いくつかのダイアログボックスに対話的に次々に答えていくことにより、各種設定が簡単に行えるようにする形式のことです。

エンコード
「符号化する」という意味。電子メールでは、画像などのファイルをそのままでは送れず、テキスト文字に変換して送らなければなりません。そのためのエンコード方法が「Ｂａｓｅ６４」「uuencode」等です。

＜か行＞

カット編集
録画／録音した内容から、不要な部分を削除するだけ編集のことです。

ガンマ補正
画像処理で利用される補正処理の 1 種類で、主にディスプレイの中間色特性を補正するために用いられます。補正に使用される関数が表わす曲線がギリシャ文字のガンマ（γ）に似ていたことから、このように呼ばれています。

＜た行＞

ディザ
1ピクセルでは表現できない色や輝度の階調を、複数ピクセルの組み合わせ（タイルパターン）によって表現すること。

トラック
MDを録音/再生するときの音楽の単位。通常は1つの曲が1つのトラックになります。

＜は行＞

ピクセル
Picture Elementの略で、ディスプレイに表示する/しない、色、輝度などをユーザーが制御できる最小の単位。

ホスト名
サービスを提供する側のコンピュータに付いている名称のことです。インターネットでは、mail.foo.co.jp のように「.」で区切った名称が使われます。

＜ら行＞

ラウンチ
launch（始める、起動する）。アプリケーションを起動する機能をいいます。InterLinkの「オリジナルブックマーク」では、ラウンチモードと呼んでいます。

ラバーバンド表示
最初にタップした位置から、スタイラスのドラッグに追従して輪ゴム（ラバーバンド）のように線や図形が表示されること。

故障と思う前に

おや、故障かな？と思ったら、修理を依頼する前にちょっとお確かめください。
画面に表示されたメッセージについては、InterLinkオリジナルアプリケーションの各ヘルプをご覧ください。

こんなときは	ここをお確かめください
電源が入らない (通電ランプが点灯しない)	・AC電源が正しく接続されていますか。(→29ページ) ・電池が正しく入っていますか。(→30ページ) ・電池キャップロックスライダは、正しい位置になっていますか。(→30ページ) ・ニッケル水素蓄電池は充電してありますか。／アルカリ乾電池の容量がなくなっていませんか。 ・コールドリセット操作(→132ページ)をよく読んで行ってください。
電源が入らない (画面に表示されない)	・画面の明るさは正しく調整されていますか。 (→36ページ)
自動的に電源が切れる	・電池の節約などのため、自動的に電源が切れる設定になっています。「コントロールパネル」の「パワーマネージメント」で確認してください。(→52ページ)
通信設定データやファイル、インストールしたアプリケーションが消えた	・内蔵のバックアップバッテリーが放電している可能性があります。(→28ページ) ・長時間電池が入っていない状態が続きませんでしたか。 (→30ページ)
スタイラスやキーボードの入力を受け付けない	・リセット操作をしてください。(→132ページ)
プログラムが反応しなくなった	・Ctrl キーと Alt キーと Del キーあるいは Alt キーと Tab キーを同時に押して、表示された「タスクマネージャ」でプログラムを終了させてください。
PCカードやコンパクトフラッシュカードを入れても認識しない	・InterLink対応のカードをお使いですか。 ・カードを正しくセットしていますか。 (→127～130ページ)
赤外線通信ができない	・InterLinkと通信相手の赤外線ポートをまっすぐ向き合わせ、適切な距離（50cm以内）に置いていますか。 (→119、124ページ) ・蛍光灯や携帯電話、PHSなどから十分離して操作してください。
通信ができない (内蔵モデム)	・電話回線とInterLinkのモジュラージャックが、付属のモジュラーケーブルで正しく接続されていますか。 (→114ページ)

通信ができない (内蔵モデム)	・電話回線がアナログ回線であることを確認してください。 ・電話回線のダイヤル方式(パルス式、トーン式)に合わせて、通信ソフトで正しく設定されていますか。
通信ができない (携帯電話、PHS)	・携帯電話やPHSに「圏外」の表示が出ていませんか。 ・携帯電話やPHSは、同一市内でも市外局番からダイヤルする必要があります。「リモートネットワーク」で接続先の電話番号が正しく設定されていますか。(→55ページ) ・携帯電話側の設定がFAXモードになっていませんか。データ通信モードとFAXモードの両方を「OFF」に設定してみてください。
PCと通信ができない (シリアルケーブル)	・PCとInterLinkの拡張コネクタが、付属のシリアルケーブルで正しく接続されていますか。(→123ページ) ・ケーブルを接続したPCのシリアルポートが、Windows CEサービスのインストール中に選択したものと同じかどうか確認してください。
インターネットに接続できない	・ユーザーIDやパスワードは正しく入力されていますか。 ・インターネットプロバイダサービスへの利用者が集中し、つながりにくい時間帯ではありませんか。別のアクセスポイントへの接続を試してみるか、早朝などの空いている時間帯にかけ直してみてください。
「AVリンクメール」で相手にメールが届かない	・相手のメールアドレスは正しく入力されていますか。
「AVリンクメール」でメールが受信できない	・[ツール]メニューの「基本設定」の「受信」で、受信サイズに制限を設定していませんか。
日本語の入力ができない	・日本語が入力できる状態になっていますか。(→48ページ)
日付や時刻が正しくない	・「コントロールパネル」の「世界時計」で設定し直してください。(→52ページ)
音が鳴らない	・「コントロールパネル」の「ボリューム&サウンド」を確認してください。(→52ページ)
処理が遅い	・通信をしているときは、InterLinkの他の処理が遅くなります。それ以外のときも処理が遅い場合は、リセット操作をしてみてください。(→132ページ)
メモリの領域を増やしたい	・「コントロールパネル」の「システム」で、記憶用メモリとプログラム実行用メモリを調整してください。(→52ページ)

索引

<英字>

<あ行>

<か行>

<さ行>

＜た行＞

＜な行＞

＜は行＞

＜ま行＞

＜や行＞

＜ら行＞

保証とアフターサービス

必ずお読みください

保証書（別添）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間
お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

モバイルPCの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後８年です。

この期間は、通産省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談並びにご不明な点は、お買い上げの販売店またはPCサポートセンター窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは　持込修理

163～164ページの「故障と思う前に」に従ってお調べください。
それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

便利メモ	お買い上げ日	年　月　日	モバイルPC MP-C101
	お買い上げ店名	☎（　　）　　－	

私たちは環境・資源を
たいせつにしています。
エコマーク認定の
再生紙(古紙100%含有)を
使用しています。

ご相談や修理は

製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

ご転居等で保証書に記載のお買い上げ販売店に
修理をご依頼になれない場合は、
「PCサポートセンター」窓口にご相談ください。

お問い合わせ

ビクター製品についてのお買い物相談、
お取り扱い方法、お手入れ方法、その他ご不明な点は
下記までお問い合わせください。

ビクターPCテクニカルサポートセンター
受付時間 10:00 ～ 18:00 ※土日祝祭日を除く
電　話 (046) 278 — 1940
〒221-8528
神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

InterLinkホームページ
http://www.jvc-victor.co.jp/interlink/
このホームページで、InterLinkの最新情報やサポート情報がご覧になれます。

日本ビクター株式会社
AV&マルチメディア事業本部
情報通信事業統括部
〒242-8514 神奈川県大和市下鶴間1644 電話 (046) 278-1892

HQINST-025D